

2 0 2 4 (令和 6) 年度

事業報告

自 2024(令和 6)年 4月 1日(月)

至 2025(令和 7)年 3月31日(月)

社会福祉法人 大洋社

I 総括

大洋社は、創設者片山ハルエによる、母親の偉大さと海より深い寛容な子どもへの母の愛の必要性を説く『世界はひろし母の愛』の言葉を大切にしてきました。

片山ハルエの活動は1922(大正11)年に内職婦人同盟を設立したところから始まり、その後、財団法人日の丸厚生会として活躍し、1952(昭和27)年に社会福祉法人大洋社となりました。

現在は、大田区大森南 4-10-4 を本部とし、母子事業部と保育園事業部の2事業部、大田区と練馬区において、子ども家庭福祉領域の事業を行っております。

2024(令和6)年度は、

改正児童福祉法と女性新法が施行され、地域で生活する子育てに困難を抱える世帯への支援を行い、地域支援の事業を推進しました。

二つの事業部の中で、それぞれの担当理事を先頭に、ガバナンスとコンプライアンスを強化し、災害対応含めたリスクマネジメントを徹底しました。

最後に、7月7日に法人100周年のお祝い会を実施しました。今まで法人を支えてくださった皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。創始者の想いを法人全体で共有し、新たな一歩を進めることができました。

2025(令和7)年3月31日

社会福祉法人 大洋社

理事長 片山 英樹

Ⅱ 社会福祉法人大洋社の理念

- (1) 社会福祉法人大洋社は「児童福祉法」及び「児童憲章」を理念として、「母と子の幸せを守る」事業を行います。
- (2) 「児童福祉の理念」(児童福祉法)
- 第 1 条 全ての国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない。
- 2 全ての児童は等しくその生活を保障され、愛護されなければならない。
- (3) 「児童憲章」
- 児童は、人として尊ばれる。
児童は、社会の一員として重んぜられる。
児童は、よい環境のなかで育てられる。
- (4) 目的
- この社会福祉法人は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

Ⅲ 法人の概要

(1) 法人の概要

法人名	社会福祉法人 大洋社
所在地	〒143-0013 東京都大田区大森南四丁目 10 番4号
認可年月日	昭和 17 年 11 月 9 日厚生省東<第 374 号
設立年月日	昭和 27 年 5 月 20 日厚生省東社第 356 号

(2) 登記の状況

- ① 目的および業務
ア 変更の有無 無し
- ② 名称
ア 変更の有無 無し
- ③ 事務所
ア 変更の有無 無し
- ④ 代表権を有する者の氏名、住所および資格(重任)
ア 変更の有無 無し
イ 内容 役員(理事長)に関する事項
- ⑤ 存立時期又は解散の事由を定めたときは、その時期および事由
ア 変更の有無 無し
- ⑥ 代表権の範囲又は制限に関する定めがあるときは、その定め
ア 変更の有無 無し
- ⑦ 資産の総額
ア 変更の有無 有り
イ 内容 資産の総額 493,701,132 円(令和 6 年 3 月 31 日変更、6 月 24 日登記)
- ⑧ その他
ア 変更の有無 無し

(3) 法人の沿革

年	摘 要
大正11年	内職婦人同盟各種相談事業開始
昭和11年	日の丸幼稚園開始
昭和17年11月 9日	財団法人日の丸厚生会設立 理事長 片山ハルエ
昭和17年11月 9日	財団法人日の丸厚生会母子寮開設
昭和25年 5月20日	財団法人日の丸母子寮を社会福祉法人大洋社豊島寮に組織変更
昭和26年 1月 9日	生活保護法更生施設豊島寮認可を受ける
昭和27年 1月 1日	生活保護法更生施設大森更生寮開設
昭和27年 3月27日	社会福祉法人設立登記 理事長 片山ハルエ
昭和27年 5月20日	財団法人日の丸厚生会を社会福祉法人に組織改正し大洋社と改称
昭和29年12月 2日	生活保護法による更生施設豊島寮を宿所提供施設に種類変更
昭和30年	大森支部に大洋診療所開設
昭和31年	アメリカ大使館婦人クラブの協力により大洋社子どもセンター開設
昭和34年 6月	大洋社子どもセンターを大森保育園と改称し、児童福祉法保育所の認可を受ける(定員60名)
昭和35年 1月 1日	生活保護法更生施設を生活保護法宿所提供施設に種類変更 宿所提供施設大森寮となる
昭和38年 3月31日	大洋社豊島寮を鉄筋コンクリート4階建に改築(定員20世帯)
昭和38年 5月 1日	生活保護法による宿所提供施設豊島寮を、児童福祉法による児童福祉施設母子寮に種類変更
昭和39年 3月31日	大森寮を鉄筋コンクリート4階建に改築(定員20世帯)
昭和40年 4月 1日	生活保護法宿所提供施設大森寮を児童福祉法児童福祉施設母子寮大洋社大森寮として認可を受ける
昭和43年 4月	大森保育園を重量鉄骨2階建に改築(定員95名)
昭和52年	大洋診療所閉鎖
昭和53年 4月	飛行機騒音公害防止条例により園舎一部を取り壊す
昭和54年10月	小規模保育所、定員30名に内容変更
昭和57年 3月20日	昭和57年3月20日創設者片山ハルエの死亡
平成 5年 4月 1日	大田区立母子寮仲池上寮を運営受託する
平成 6年 1月15日	大田区立母子寮仲池上寮を移転改築して、大田区立母子寮久が原と名称変更し、引き続き運営受託する
平成 8年11月20日	役員等改選により飯島益美に変更
平成10年 1月31日	大洋社大森寮を廃止
平成10年 2月 1日	母子寮大田区立ひまわり苑を運営受託
平成10年 4月 1日	練馬区立母子生活支援施設を運営受託 大田区立母子寮久が原を大田区立コスモス苑に改称
平成11年 4月 1日	児童福祉法による大森保育園を改築(定員59名)
平成12年 4月 1日	大森保育園の定員を60名に変更

平成15年11月14日	社会福祉法人大洋社 法人分割により秋津町より大田区大森南へ主たる事務所の登記
平成16年 3月19日	第二種社会福祉事業大田区立ひまわり苑子育て短期支援事業追加申請
平成16年 4月 1日	第二種社会福祉事業「陽だまり荘」子育て短期支援事業申請
平成17年 8月 1日	子育て短期支援事業(夜間養護等事業 練馬区立練馬子ども家庭支援センター)の受託開設
平成18年 1月 5日	第二種子育て短期事業(夜間養護等事業 練馬区立練馬子ども家庭支援センター)の定款変更を申請し、18年1月5日受理される
平成18年 1月27日	事業追加の登記
平成18年 9月1日	洗足池保育園を民立民営として開設
平成18年11月20日	役員等改選により理事長 飯島益美より片山英樹に変更
平成19年 4月 1日	大田区立ひまわり苑子育て支援分室をコスモス苑に設置
平成21年 6月 1日	大田区立コスモス苑子育て短期支援事業開設
平成24年 6月 1日	保育室サン御園を民立民営として開設 一時預かり事業・定期利用保育事業
平成25年 4月 1日	大田区子ども家庭支援センター一時保育室を委託事業として開設 一時預かり事業・定期利用保育事業
平成25年 4月 1日	ファミリー・サポート・センター事業を委託事業として開始
平成28年 4月 1日	大田区子ども家庭支援センター一時保育室の一時預かり事業の定員増(10名→12名)
平成28年 4月 1日	ファミリー・サポート・センター事業を法改正にて公益事業より第二種社会福祉事業へ変更(子育て援助活動支援事業)
令和 3年 3月31日	練馬区豊玉小ねりっこクラブ、練馬区立豊玉学童クラブの事業終了
令和 5年 4月 1日	大森保育園定員減(60名→56名)
令和 5年 4月 1日	大田区立コスモス苑と大田区立ひまわり苑で母子一体型ショートケア事業開始

(4) 事業所の状況

施設名 法的根拠	所在地	種別	事業開始 年月日	定員	建物
大森保育園 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第39条	東京都大田区 大森南 4-10-4	保育所	S34.6.1	56名	敷地面積:467.72㎡ 建築面積:280.93㎡ 延床面積:707.39㎡ 構造:鉄筋コンクリート造3階建
洗足池保育園 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第39条	東京都大田区 南千束 3-24-15	保育所	H18.9.1	45名	敷地面積:453.06㎡ 建築面積:218.93㎡ 延床面積:388.20㎡
大田区立ひまわり苑 社会福祉法第2条第2項第2号 児童福祉法第38条	東京都大田区	母子生活 支援施設	H10.2.1	20 世帯	敷地面積:1,914.40㎡ 建築面積:1,588.57㎡ 延床面積:1,552.77㎡ 構造:鉄筋コンクリート造3階建
子育て短期支援事業 (ひまわり苑) 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第34条の九				緊急一時保護:1室	
		短期入所 生活援助 事業	H15.4.1	4名	ひまわり苑内 ※注1:ショートステイ定員の 範囲内
		夜間養護 等事業	//	6名	※注2:母子生活支援施設の 空室利用 1世帯
		(休日デイ)	H24.12.5	4名	
		(要支援)	H30.4.1	※注1	
(母子ショー トケア)		R5.4.1	※注2		
大田区立コスモス苑 社会福祉法第2条第2項第2号 児童福祉法第38条	東京都大田区	母子生活 支援施設	H5.4.1	20 世帯	敷地面積:1,678.90㎡ 建築面積:1,401.75㎡ 延床面積:1,309.62㎡ 構造:鉄筋コンクリート造4階建
子育て短期支援事業コスモス苑 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第34条の九				緊急一時保護:1室	
		短期入所 生活援助 事業	H19.4.1	3名	コスモス苑内 ※注1:母子生活支援施設の 空室利用 1世帯
		夜間養護 等事業		3名	
		(休日デ イ)	H24.12.5	3名	
		(母子ショー トケア)	R5.4.1	※注1	

練馬区立母子生活支援施設 陽だまり荘 社会福祉法第2条第2項第2号 (児童福祉法第38条)	東京都練馬区	母子生活 支援施設	H10.4.1	20 世帯	敷地面積:1,332.72 m ² 延床面積:1,594.49 m ² 構 造:鉄筋コンクリート造3階建 (一部鉄骨造)
				緊急一時保護:1室	
子育て短期支援事業陽だまり荘 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第34条の九		短期入所 生活援助 事業	H16.4.1	5名	陽だまり荘内
		(要支援)	H29.12.1		
保育室サン御園 社会福祉法第2条第3項第2号	東京都大田区 西蒲田7丁目 49番2号 大 田区社会福祉 センター1階	一時預か り事業	H24.6.1	10名	保育室・乳幼児室・事務室 117.74 m ²
		定期利用 保育事業		6名	定期利用保育事業は一時預 かり事業に含んで事務対応
大田区子ども家庭支援センター 大森一時保育室 社会福祉法第2条第3項第2号	東京都大田区 大森北4丁目 16番5号 大田区子ども 家庭支援セン ター1階	一時預か り事業	H25.4.1	12名	保育室・乳幼児室・事務室 95.14 m ²
		定期利用 保育事業		6名	定期利用保育事業は一時預 かり事業に含んで事務対応
ファミリー・サポート・センター事業 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第6条の3第14項	東京都大田区 大森北4丁目 16番5号 大田区子ども 家庭支援セン ター1階	子育て援 助活動支 援事業	H25.4.1		事務室 延床面積 21.6 m ²

Ⅳ 組織運営

Ⅰ. 定款(別添)

2. 理事、監事、評議員、評議員選任・解任委員会、会長、顧問

(1) 定員および現況 令和7年3月31日現在

区分	定数	現員	欠員	摘要
理 事	6 名	6 名	0名	
監 事	2 名	2 名	0名	
評議員	7 名	7 名	0名	
評議員選任・解任委員	4 名	4 名	0名	外部 2 名、監事 1 名、事務局員 1 名
会 長	1 名	1 名	0名	理事職
顧 問	—	—	—	

(2) 理事および監事

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分	附記
理 事	松寿 庶	平成 4 年 11 月 20 日	地域福祉関係者	会長
理 事	片山 英樹	平成 16 年 3 月 27 日	学識経験者	理事長
理 事	齋藤 弘美	平成 20 年 11 月 20 日	地域福祉関係者	常務理事
理 事	穴倉 正光	平成 20 年 11 月 20 日	学識経験者	
理 事	近藤 真弓	令和 3 年 6 月 17 日	施設経験者	
理 事	阿部 雅子	令和 5 年 6 月 20 日	施設経験者	
監 事	根本 道夫	平成 28 年 4 月 1 日	財務諸表読解者	
監 事	宮沢 成美	平成 28 年 11 月 20 日	学識経験者	

(3) 評議員

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分
評議員	関谷 巖	平成 16 年 3 月 27 日	学識経験者
評議員	川端 法子	平成 16 年 3 月 27 日	地域福祉関係者
評議員	守安 富美子	平成 20 年 11 月 20 日	地域代表者
評議員	平林 茂	平成 22 年 11 月 20 日	地域代表者
評議員	平石 昭夫	平成 22 年 11 月 20 日	地域福祉関係者
評議員	川崎 清	令和 3 年 6 月 17 日	地域代表者
評議員	林 吉紀	令和 3 年 6 月 17 日	地域代表者

(4) 評議員選任・解任委員会委員

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分
委 員	宮沢 成実	平成 29 年 2 月 15 日	監事

委員	野口 弘子	令和 6 年 6 月 24 日	地域
委員	板橋 晴美	令和 3 年 1 月 6 日	地域
委員	内藤 季代	令和 5 年 6 月 5 日	事務局員 委員長

(5) 会長

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分
会 長	松寿 庶	平成 29 年 1 月 12 日	(福)大洋社理事

(6) 顧問

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分
顧 問	—	—	—

V 理事会、評議員会、評議員選任解任委員会、監事監査会、およびその他の会の状況

(1) 理事会の開催状況

① 2024(令和 6)年 6 月 3 日(月)

(1)趣旨(議題) 各種議案に関する審議・決議を行う。

(2)招集日 令和 6 年 5 月 22 日(水)

(3)開催日 令和 5 年 6 月 3 日(月) 14 時 00 分～15 時 8 分

(4)場所 ・法人本部および大田区立ひまわり苑、および各役員事務所。
・オンライン会議システム(Zoom)を利用

(5)議案 第1号議案:2023(令和 5)年度事業報告の件
第2号議案:2023(令和 5)年度決算(計算書類等および財産目録)の件
監事監査結果報告を含む
第3号議案:定款 12 条に基づく定時評議員会の招集等の件
第4号議案:役員賠償責任保険の件

(6)報告事項 ①経過報告
②理事長及び常務理事の職務執行状況
③施設状況報告

(7)記事 すべての議題が決議される。

② 2024(令和 6)年 6 月 24 日(月)

(1)趣旨(議題) 令和 6 年 6 月 4 日付社会福祉法第 45 条の 14 第 9 項が準用する一般社団法人および一般財団法人に関する法律第 96 条及び定款 27 条 2 項の規定に基づき、理事会の決議の省略で審議を行うことを提案し、同年 6 月 24 日監事全員の異議がなかったことおよび理事全員の同意が得られた。

(2) 提案日(送付日) 令和 6 年 6 月 4 日(火)

(3) 理事会の決議のあったものとみなされた事項の内容
第 1 号議案 評議員選任・解任委員 1 名選任の件

- 監事 宮沢成実 氏を再任すること。
 第2号議案 評議員選任・解任委員1名選任の件
 外部委員 板橋 晴 氏を再任すること。
 第3号議案 評議員選任・解任委員1名選任の件
 外部委員 板橋 晴 氏を選任すること。
 第4号議案 評議員選任・解任委員1名選任の件
 事務局員 内藤 季代 氏を再任すること。
 (4) 方法 配布した資料をもとに関係職員が説明し、書類の記名および捺印
 (5) 記事 同意(承認)日:2024(令和6)年6月24日

③ 2024(令和6)年11月15日(金)

- (1)趣旨(議題) 各種議案に関する審議・決議を行う。
 (2)招集日 令和6年10月31日(木)
 (3)開催日 令和6年11月15日(金) 14時00分～14時45分
 (4)場 所 ・法人本部および大田区立ひまわり苑、および各役員事務所。
 ・オンライン会議システム(Zoom)を利用
 (5)議案 第1号議案 令和6年度資金収支補正予算案(第1次)の件
 第2号議案 規程の改正の件
 (6)報告事項 ①経過報告
 ②理事長及び常務理事の職務執行状況
 ③施設状況報告
 (7) 記事 すべての議題が決議される。

④ 2025(令和7)年3月26日(水)

- (1)招集日 令和7年2月21日 金曜日
 (2)開催日時 令和7年3月26日 水曜日 14時00分～15時34分
 (3)開催場所 ・法人本部および大田区立ひまわり苑、および各役員事務所。
 ・オンライン会議システム(Zoom)を利用
 (4)議案 第1号議案 令和6年度 資金収支補正予算案(第2次)の件
 第2号議案 令和7年度 事業計画案の件
 第3号議案 令和7年度資金収支予算(当初)案の件
 第4号議案 規程の改正の件
 第5号議案 管理職の人事の件
 (5)報告事項 ①経過報告
 ②理事長及び常務理事の職務執行状況
 ③施設状況報告等
 (6)記事 すべての議題が決議される。

(2) 評議員会の開催状況

① 2024(令和6)年6月24日(月)

- (1)招集日 令和6年6月4日 火曜日
 (2)開催日時 令和6年6月24日 月曜日 14時00分～15時08分
 (3)開催場所 ・法人本部および大田区立ひまわり苑、および各役員事務所。
 ・オンライン会議システム(Zoom)を利用
 (4)報告事項 ①経過報告
 ②2023(令和5)年度、事業報告
 ③2024(令和6)年度、事業計画
 ④2024(令和6)年度、資金収支予算書(当初)
 (5)決議事項 第1号議案 2023(令和5)年度 決算(計算書類および財産目録)の件

監事監査結果報告含む

(6)記事 全ての議題が決議される。

(3) 評議員選任・解任委員会
開催なし

(4) 監事監査会

① 令和6年5月22日 水曜日

ア 会場 法人本部

イ 監事出席者 根本 道夫、宮沢 成実

ウ 理事出席者 齋藤 弘美、近藤真弓

エ 内容 2023(令和5)年度分

(5) 法人連絡会

法人連絡会は理事会や評議員会での決議を受けて、法人運営や事業展開の報告を確認および検討することを目的として会を開催する。

① 令和6年4月

(1)開催日 令和6年4月24日(水)12時00分~13時10分

(2)会 場 オンラインによる開催

(3)内容(主)、方向性、および結果

① 理事長及び常務理事の職務執行状況

② 施設状況報告

③ 決算準備について

④ 監事監査会について

⑤ 理事会について

⑥ 100年誌と祝う会について

② 令和6年5月

(1)開催日 令和6年5月22日(水)17時00分~18時00分

(2)会 場 オンラインによる開催

(3)内容(主)、方向性、および結果

① 監事監査会報告

② 理事会について

③ 100周年を祝う会について

③ 令和6年6月

(1)開催日 令和6年6月3日(月)15時30分~16時00分

(2)会 場 オンライン会議

(3)内容(主)、方向性および結果

① 定時評議員会について

② 100周年を祝う会について

③ コスモス苑の東京都監査について

④ 令和6年8月

(1) 開催日 令和6年8月6日(火)12時30分~13時00分

(2) 会 場 オンライン会議

(3) 内容(主)、方向性および結果

① 理事長及び常務理事の職務執行状況

- ② 施設状況報告
- ③ 100周年を祝う会会計報告
- ④ 11月理事会の日程と議案について

⑤ 令和6年9月

- (1) 開催日 令和6年9月6日(水)12時30分～13時00分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - ② 施設状況報告
 - ③ 理事会について 日程・議案確認
 - ④ 次年度に向けての動きについて

⑥ 令和6年10月

- (1) 開催日 令和6年10月4日(金)12時30分～13時00分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - ② 施設状況報告
 - ③ 11月理事会の議案について

⑦ 令和6年11月

- (1) 開催日 令和6年11月15日(金)15時30分～16時00分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 3月理事会の日程と議案について
 - ② 令和7年度役員の改選について

⑧ 令和7年1月

- (1) 開催日 令和7年1月22日(水)12時30分～13時00分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - ② 施設状況報告
 - ③ 役員就任意向確認結果検討
 - ④ 3月理事会の日程と議案について

⑨ 令和7年2月

- (1) 開催日 令和7年2月17日(月)12時30分～13時00分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - ② 施設状況報告
 - ③ 令和7年度理事会・監事監査会・定時評議員会の日程・議案確認
 - ④ 次年度に向けての動きについて

⑩ 令和7年3月

- (1) 開催日 令和7年3月26日(水)15時40分～16時10分
- (2) 会 場 オンライン会議

(3)内容(主)、方向性および結果

① 監事監査会・理事会・評議員会について

VI その他

(1) 理事長及び常務理事等の職務執行状況

① 理事会にて報告および承認(了承)

② 法人連絡会にて報告

(2) 情報開示

① ホームページ

ア アドレス <http://www.taiyosha.or.jp/>

イ メールアドレス Mail:taiosha@gamma.ocn.ne.jp

ウ 開示内容

- ・ 定款
- ・ 役員名簿
- ・ 役員報酬規程
- ・ 事業報告および計算書類・財産目録
- ・ 含む 公益的取組内容
- ・ 監事監査報告書
- ・ その他 行政や業界団体から指示・要望があった内容

② 業界

ア 社会福祉法人全国社会福祉協議会・全国社会福祉法人経営者協議会

イ 開示内容

- ・ 法人概要
- ・ 事業報告および計算書類・財産目録
- ・ 公益的取組内容

③ 法人内事業所

ア 開示

イ 開示内容

- ・ 法人の基本的な内容の規定
- ・ 事業報告および計算書類・財産目録
- ・ 公益的取組内容
- ・ 実施している施設の第三者評価報告書

(3) 保険

① 法人において、役員等に関する役員賠償責任保険に加入

② 施設において、施設賠償責任保険に加入

③ 施設において、行事等の賠償責任保険に加入

2024(令和6)年度

事業報告

自 2024(令和6)年 4月 1日(月)

至 2025(令和7)年 3月31日(月)

社会福祉法人 大洋社

母子事業部

I 母子事業部 共通

i 総括

令和6年度も引き続き、経営の健全性を確保するため、総務部・人材育成部・業務管理部の各委員会活動を実施し、適切な人事管理、的確な財務管理、適正な情報管理を確立することができました。その中で見えてきた課題については、次年度に向けての計画の中に取り込みました。

母子生活支援施設においては、退所後を見据えた自立支援提供のありかたを確立するとともに、地域の社会的養護の中核施設としての役割を果たすための公益的な取り組みにも注力してきました。地域交流等の行事もコロナ禍以前のような形となり、活発化しました。

在宅サービスにおいては、虐待予防や育児不安などに寄り添うための職員の専門性を育成に重点を置き、利用要件の弾力化を図るなどのサービスを積極的に提供しました。

（重点事項実施状況）

① ガバナンス体制の強化

組織強化については、連絡調整会議および職員会議等を通じて、法人理念の浸透および法令順守の徹底を図りました。

・連絡調整会議や委員会活動は、ii、iiiにて報告。

② 人材育成体制の強化

職員育成のための取組として、キャリア段位の活用や専門性向上のための事例検討などを活用したOJTを実施しました。また、外部の学会等へ以下の通り、参加して発表を行いました。

・法人研修実施。

・「日本子ども虐待防止学会」の滋賀大会に申請が通り参加した。内容は、大洋社が企画運営し、複数法人で「母子生活支援施設を活用した親子関係再構築支援について」を発表。指定討論者には、関西大学の山縣教授とこども家庭庁の方に登壇頂き、大洋社からは座長として活動した。

・FLEC（すべての子どもたちに家庭での生活を：FamilyLife for Every Child）からの招待で、プレセッション「パーマネンシーを保障する母子生活支援施設の実践と可能性」と、フォーラム分科会Ⅰ「家事支援なくしてサポートプランなし～社会起業：家事支援事業創出のすすめ～」の2つにおいて、大洋社のこれまでの実践と、母子生活支援施設協議会のこれからについての発表をした。

③ 業務効率化とSDGsの推進

人材育成プロジェクトの取組を、委員会活動や職員会議などを通して、取組みました。

・各委員会において、業務効率化を検討。

・人材育成プロジェクトにおいて、企画・提案を策定。1月に各事業所の取組発表を参集型で実施。

ii 連絡調整会議

(1) 会議目的と実施状況

母子事業部で実施している連絡調整会議は理事会や評議員会等、また法人連絡会での決議や検討内容を受け、母子事業部における運営や施設運営の展開状況の報告、確認および検討することを目的として会を開催しています。

(2) 会議の開催状況

① 4月開催

ア 開催日時 令和6年4月16日 火曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について

本年度事業開始について

理事会、監事監査、定時評議員会について

総務日程について

事業報告について

人材育成PJ、法人内研修、各種提出物の提出期限について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告

利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

新型コロナウイルス

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

・委員会

総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会

危機管理委員会 (危機管理、要望等解決、情報管理)

業務向上委員会

(家族、乳幼児、児童、子育て、一時預かり、QOL、公益)

ウ 今後の予定

② 5月開催

ア 開催日時 令和6年5月14日 火曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について

理事会、監事監査、定時評議員会について

- 総務による内部監査について
- 人材育成 PJ、法人内研修
- 小さな貝の家委員会について
- ・施設(事業所)報告事項
 - 各施設(事業所)報告
 - 利用者状況、プログラム等状況
 - 危機管理事項
 - 危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
 - 総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
 - 施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
- 支援 業務管理部
- その他
- ウ 今後の予定

③ 6 月開催

- ア 開催日時 令和 6 年 6 月 11 日 火曜日 10 時 00 分～
- 会場 オンライン会議
- イ 内容
 - ・伝達事項
 - 危機管理・感染症等について
 - 理事会、定時評議員会、評議員選任・解任委員会について
 - 賞与支給について
 - 人材育成 PJ、法人内研修について
 - 小さな貝の家委員会について
 - 「100 周年を祝う会」について
 - ・施設(事業所)報告事項
 - 各施設(事業所)報告
 - 利用者状況、プログラム等状況
 - 危機管理事項
 - 危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
 - 総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
 - 施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
 - 支援 業務管理部
 - その他
- ウ 今後の予定

④ 7 月開催

- ア 開催日時 令和 6 年 7 月 9 日 火曜日 10 時 00 分～
- 会場 オンライン会議
- イ 内容
 - ・伝達事項
 - 危機管理・感染症等について
 - 評議員会について
 - 母子事業部内総務、人材育成 PJ、法人内研修について
 - ・施設(事業所)報告事項
 - 各施設(事業所)報告
 - 利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

・委員会

総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会

危機管理委員会 (危機管理、要望等解決、情報管理)

業務向上委員会

(家族、乳幼児、児童、子育て、一時預かり、QOL、公益)

ウ 今後の予定

⑤ 8月開催

ア 開催日時 令和6年8月13日 火曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について

理事会について

母子事業部内総務、人材育成PJ、法人内研修について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告

利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

ウ 今後の予定

⑥ 9月開催

ア 開催日時 令和6年9月10日 火曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について

理事会について

産前産後・育休時の提出書類について

人材育成PJ、法人内研修、人事考課表について

公開講座について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告

利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

・委員会

総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会
危機管理委員会 (危機管理、要望等解決、情報管理)
業務向上委員会
(家族、乳幼児、母児童、母子育て、一時預かり、QOL、公益)

ウ 今後の予定

⑦ 10月開催

ア 開催日時 令和6年10月8日 火曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について
理事会について
年末調整について
人材育成PJ、法人内研修、後期内部監査について
公開講座について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況
危機管理事項
危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

ウ 今後の予定

⑧ 11月開催

ア 開催日時 令和6年11月12日 火曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について
理事会・評議員会について
賞与支給について
人材育成PJ、法人内研修、後期内部監査について
年末年始について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況
危機管理事項
危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

・委員会

総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会
危機管理委員会 (危機管理、要望等解決、情報管理)
業務向上委員会
(家族、乳幼児、児童、子育て、一時預かり、QOL、公益)

ウ 今後の予定

⑨ 12月開催

ア 開催日時 令和6年12月10日 火曜日 10時00分～
会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について
理事会・評議員会について
事業計画について
人材育成PJ発表会について、法人内研修について
後期内部監査結果報告について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況
危機管理事項
危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

ウ 今後の予定

⑩ 1月開催

ア 開催日時 令和7年1月14日 火曜日 10時00分～
会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について
理事会・評議員会について
給与年間スケジュールについて
パートタイマー雇用契約について
人材育成PJ発表会について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

・委員会

総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会

危機管理委員会 (危機管理、要望等解決、情報管理)

業務向上委員会

(家族、乳幼児、児童、子育て、一時預かり、QOL、公益)

ウ 今後の予定

⑪ 2月開催

ア 開催日時 令和7年2月10日 火曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について

理事会、評議員会について

給与明細について、拠点区分間貸借について

人材育成PJ、法人内研修について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告

利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

ウ 今後の予定

⑫ 3月開催

ア 開催日時 令和7年3月11日 火曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について

理事会・評議員会について

社会保険料率の変更

母子事業部内総務

人材育成PJ、法人内研修について

新年度に向けた準備について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告

利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

・委員会

総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会

危機管理委員会 (危機管理、要望等解決、情報管理)

業務向上委員会

(家族、乳幼児、児童、子育て、一時預かり、QOL、公益)

ウ 今後の予定

iii 委員会活動

(1) 委員会の目的と実施状況

母子事業部の委員会は、課題別の検討委員会に各施設の職員がそれぞれ所属し、実施事業の基本課題に対して、人材育成も兼ねながら広い視野の取り組みを行っています。取り組み方法としては、施設で事前検討された内容を委員会で検討・審議し、母子事業部による決定事項は速やかに施設へフィードバックして職員全体に周知し、基本情報の効率的な伝達を図りました。

(2) 委員会の内容

部	委員会	内容	開催
本部機能	総務委員会	①経営・運営企画 ・経営方針立案および事業デザインを行い、事業計画の策定や事業計画、諸規定の検討。 ・理事会・評議員会、法人連絡会、運営会議、連絡調整会議準備。 ・ガバナンス（会計・労務・庶務等） ・広報誌・ホームページ ・採用 ・事業計画 ・事業報告 ・会議等実施	原則 週 1 回 年 30 回
	制度企画委員会	第三者評価・指定管理等審査	適宜
	人材育成委員会	・人材育成プロジェクトとして、各事業所にて業務改善提案と、SDGsに関する取り組みを行った。 ・人材育成プロジェクト発表会を参集型で実施 ・研修については、法人内研修に力を入れ、階級別、担当別、心理専門研修等を実施。	各月 1 回 1 月に実施
	地域福祉委員会	ゆうわ会・家庭福祉研究会等 青少年応援事業	適宜
支援	危機管理委員会 危機管理	・危機管理マニュアルの理解の学習を行った。BCP、BCM、BCMS についての一般的な学習と、法人で作成している BCP の内容について学習を行い、理解を深耕。 ・安全計画の意義や内容について学習。子どもの安全確保に関する取り組みの実践について検討。 ・事業所ごとにアクシデント・インシデントについての要因分析を行い、再発防止策について検討。 ・災害時の利用者の心身の状況についての学習や事業所の事例をもとに、災害時の対応方法を検討した。	年 6 回 各事業所は毎月
	危機管理委員会 要望等解決	・子どもの権利擁護についての学習を行い、意見表明を保障していけるような対応等について理解を深めた。 ・要望等解決における基本姿勢や適切な対応について学び、それらを基に事例検討・ロールプレイ。 ・苦情対応に関する学習を実施。	

支 援	業 務 管 理 部	危機管理委員会 情報管理	・個人情報保護法を踏まえた利用開始時の個人情報の取扱いと同意について学んだ。 ・情報管理に関する規定、個人情報保護マニュアルの理解と浸透のための学習。 ・情報管理の視点からの、正しい記録の書き方と表現を学習。	年 6 回 各 事 業 所 は 毎 月
		業務向上委員会 家族	・親子関係再構築支援の理解を深め、支援の質の向上。 ・アセスメントシートの周知・活用方法の統一を行い、資料を活用してアセスメント力向上のための学習。 ・ソーシャルワークの方法と技法について学習し、汲み取り力を高める取り組みを行った。	
		業務向上委員会 乳幼児	・保育所保育指針を活用し、保育実践について学習。 ・教材や辞令検討集を用いて、アセスメント力、支援・対応スキルの専門性の向上を図った。 ・産前産後マニュアルを理解し、周産期支援の学習を行った。	
		業務向上委員会 児童	・母子の連動性を踏まえた自立支援計画票作成の学習。 ・児童用アセスメントシート作成。 ・虐待防止マニュアルを活用した虐待防止と虐待発見時の対応の学習。 ・業務マニュアルを見直し、修正。	
		業務向上委員会 子育て	・安全計画を基に安全性の確保の方法、送迎時の安全対策の学習を行った。 ・家庭的保育のメリットや保育の環境構成について理解を深めた。 ・異年齢保育のメリットや保育プログラムの充実を図った。 ・要支援ショートケアの学習や取組の検討を行い、理解を深めた。 ・子育てマニュアルの改訂。	
		業務向上委員会 一時預かり	・こどもの成長発達段階の学習やカリキュラム作成を行う上での視点について確認と意見交換を行い、考え方を深めた。 ・不適切保育防止について適切なかわりができるように学習を行い、ロールプレイや意見交換を通して、実践に近い形で学んだ。 ・保護者対応のポイントの学習。	
		QOL	・すこやかだより年 4 回の発行 ・感染症マニュアルの変更点の確認と周知。 ・メンタルヘルスチェックを行い、生活習慣を見直し人間らしい生活をし幸福度を測る。 ・食中毒に関する知識や対処方法の学習。 ・ストレスの対処方法と自己コントロール力を身につける。 ・利用者の安全や衛生面を考慮した環境配置の実践。	
		地域支援	・公益的取り組みの目的や意義、他法人との連携についての学習を行った。 ・地域利用者に対する相談業務の方法の学習。支援内容の共有やフォーマットの確認を行った。 ・アフターケアを含む地域支援内容の進捗状況の確認を行った。	

2024(令和 6)年度

事業報告

自 2024(令和 6)年 4月 1日(月)

至 2025(令和 7)年 3月31日(月)

社会福祉法人 大洋社

ひまわり苑

Ⅱ 事業別サービス実施報告

ⅰ 母子生活支援施設（第 1 種社会福祉事業）

大田区立ひまわり苑

【事業概要】

施設名		大田区立 ひまわり苑
事業開始		平成 10 年 2 月 1 日
事業内容		18 歳未満の子どもを養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届出ができないなど、母子家庭に準じる家庭の女性が、子どもと一緒に利用できる施設です。 緊急一時保護事業（1 世帯）、子育て支援事業、母子一体型ショートケア事業を付帯事業で行っています。
世帯数		20 世帯
入退所	入所世帯	4 世帯
	退所世帯	6 世帯
	平均世帯構成	2.7 人
	母親平均年齢	33.5 歳
	平均在籍年数	17 か月
建物状況	構造	鉄筋コンクリート 地上 3 階建, 588.57 m ²
	内訳	母子室 20 室 緊急一時室 1 室 ショート・トワイライト室 事務室・医務室・相談室・静養室・宿直室・警備員室・ 保育室兼多目的室・ 学習室・ オープンスペース・ 談話コーナー・屋上

Ⅰ 総括

母子生活支援施設ひまわり苑は、被虐経験や再統合、養育不安等母子間で葛藤を持つ世帯が多く入所しています。その為、母親・子ども・心理の担当者が連携し、世帯の状況や課題に応じて、日々の生活の見守りや養育支援、母子関係調整といった親子関係再構築支援を実施しました。また、今年度から配置された自立支援担当職員が退所後、居宅訪問を行う等、アフターケアを更に充実させることで、切れ目のない支援を行いました。さらに、地域担当の心理職員の配置により、地域の子育て世帯への心理支援を行うなど、アフターケアを含む地域支援の幅を広げることができました。

危機管理体制の強化では、防災訓練をより実践に近い形で実施し、また不審者対応訓練や応急救護など実践的な取り組みも行い、職員の危機管理意識の向上を図りました。

（重点事項実施状況）

各職員がアセスメント力、支援の専門性の向上を目指し、事例検討やロールプレイ、心理士によるコンサルテーションによって利用者理解を深め、日々の支援に落とし込み、利用者支援を行いました。チーム力や専門性の向上を目的として、家族支援担当職員と子ども支援担当職員それぞれでチームコンサルテーションを行いました。

また、「児童の意見表明」に力を入れ、児童会、学童や生活場面でも積極的に児童から意見や要望、困り事の聞き取り等を行い、児童から出た要望を反映することで、考えや気持ちを自由に表明し、その意見が尊重されるという機会を増やし、児童の権利擁護に努めました。

アフターケアを含む地域支援として、地域公益活動や食支援の取り組みに加え、今年度から配置された自立支援担当職員が退所後、訪問支援を行うなど切れ目のない支援、地域担当心理職員は、地域子育て世帯への心理支援を行い、地域に必要とされる施設を目指し、取り組みを行いました。

2 良質なサービスの提供

（Ⅰ）利用者状況

ひまわり苑の利用者状況として、被虐経験や再統合、養育不安等母子間で葛藤を持つ世帯が多く、日々の生活の見守りや子育ての知識の助言、母子関係調整といった親子関係再構築支援を実施しました。また、子育てに関する不安が高い世帯に対しては、心理士と連携し、心理相談や生活場面面接にて心理的な関わりを行いました。

入所期間満了に伴い、今年度退所する世帯が多かったです。今年度から配置された自立支援担当職員が退所面談に同席してアフターケアについて説明を行い、電話や来所時の関わりだけでなく居宅訪問を行う等、インケアだけでなく、リービングケアからアフターケアを更に充実させることで、切れ目のない支援を行いました。

(2) 自立支援への取り組み

①母親支援

様々な逆境体験を持つ母親に対して、気持ちに寄り添い受け止め、エンパワメントすることで、利用者自身が選択・決断できるように関わりを行いました。職員同士で小さな気づきを共有し、得た情報を基に利用者像のアセスメントを行い、母親一人ひとりの強みや課題を理解し支援に臨みました。支援においては、利用者と共に課題の整理を行い、課題に向き合えるようスモールステップで自立支援計画を組み立て、日々の関わりに落とし込み支援を実践しました。

(子育て支援)

子どもの特性の理解や、実際の関わり方についての相談を多く受けました。発達特性の知識や声掛けの仕方などの助言を行い、マザリングや見守りを行いました。育児に対する負担を抱えている世帯に対しては、一時的に補助保育を提供し母親の負担軽減や虐待防止に努めました。

(親子支援)

母親と子どもの間で認識にずれが生じている世帯には、母子関係調整を行いました。双方の意向を整理し互いに向き合う場を意識した関わりを行いました。また、子どもへの関わり方を悩む利用者に対しては、実際の場面を想定した助言を行い、母子関係の再構築を目指して取り組みを行いました。

(生活支援)

日常生活の中で親子の生活リズムを整える、健康状態、経済面、対人関係の築き方など多岐に渡ります。子育てにふさわしい居室の環境整備を一緒に行うことや、家計支援から自立に繋がるように支援を行いました。様々な場面で対人関係のトラブルが生じる場面でも自身の関わりを振り返る場を設けることで自立を促す取り組みを行いました。日常場面で声掛けを行い、必要に応じて医療機関の情報提供を行い、母子共に成長を促す関わりや助言を行いました。

(その他の支援・夫関係等)

未離婚や養育費等の取り決めが決まらないまま入所に至り、離婚に向けた調停を行う世帯がありました。弁護士との打ち合わせ前には利用者の意思確認を含めた状況整理を行いました。また、養育費や面会交流の相談を受ける中で、子と父親との関わり方についても考える場を提供しました。退所が近い利用者には、不動産業者の同行や書類の記入サポートと並行して転宅に対する不安を聞き取り、安定した転宅となるよう支援を行いました。

（就労支援）

就労と育児の両立を維持できるように支援を提案しました。保育園との併用で出勤状況を確認しながら、必要に応じて土曜保育を受け入れ勤務日数を維持する取り組みを行いました。更なる就労のスキルアップとして、ママれいんぼうの参加を通じ学習の機会を提供しています。個別で学習時間を確保し就労に向けた準備を行うなど、個々のスキルや特性に応じて適切な学習の環境を設定しひとりひとりに合わせた取り組みを行いました。

入所状況

	ひまわり苑
住宅困窮	1 世帯
生活困難	1 世帯
夫の暴力等	1 世帯
生活環境の不良	0 世帯
その他	1 世帯
計	4 世帯

退所状況

	ひまわり苑
公営住宅入居	2 世帯
民間住宅入居	4 世帯
他福祉施設	0 世帯
実家	0 世帯
その他	0 世帯
計	6 世帯

母親支援状況

	ひまわり苑
子育て支援	2,508 件
就労支援	74 件
生活支援	11,050 件
夫等との関係調整	31 件
家族等との関係調整	131 件
他機関との関係調整	150 件
その他の対人関係	54 件
入退所時の支援	92 件
上記に含まれない支援	1,974 件
計	16,064 件

世帯状況

		ひまわり苑
世帯	平均世帯人数	2.7 人
	母親平均年齢	33.5 歳
	子ども平均年齢	4.3 歳
令和 6 年度退所世帯平均在籍年数		18 月
令和 6 年度平均充足率		51.7%

生活保護受給状況(令和 7 年 3 月 31 日)

受給の有無		ひまわり苑	
無		6 人	
有	一部	1 人	3 人
	全部	2 人	
合計		9 人	

雇用形態(令和 7 年 3 月 31 日)

		ひまわり苑	
就 労	正社員	3 人	5 人
	パート・アルバイト	2 人	
未 就 労	学 生	0 人	4 人
	未就労	4 人	
合 計		9 人	

職種(令和 7 年 3 月 31 日)

	ひまわり苑
専門・技術	1 人
事務	2 人
販売	0 人
軽作業	1 人
サービス	0 人
その他	1 人
合計	5 人

②児童支援

今年度は、ひまわり苑の重点事項にある「児童の意見表明」に力を入れました。具体的には、児童会の中で要望の聞き取りの時間を設けました。また、学童や生活場面でも積極的に児童から意見や要望、困り事の聞き取り等を行いました。自立支援計画の策定に当たっては、昨年度同様、家族支援担当と情報共有をしたうえで児童面談での聞き取りを行い、母子の連動性を意識した目標設定を行いました。学童保育に参加していない児童に対しては、個別学習会の実施や、積極的な行事参加の声掛けを行い、コミュニケーションを図りながら、学校や生活、母子関係の見守りや介入を行いました。退所児童の支援については、行事や公益活動への参加の声掛けを行いながら、子どもの様子や近況を確認し、丁寧に子ども話を聞くことで、子どもたちが退所後もいつでも訪ねることができる場所になっています。

（学童保育）

今年度は要望の聞き取りを強化しました。聞き取った要望に対して、児童の自立支援に結び付くよう検討し、自由遊びの内容や補食である「おやつ」を児童が手作りするお菓子作りなど児童の要望を反映しながら学童保育の中に取り入れました。児童から出た要望を反映することで、考えや気持ちを自由に表明し、その意見が尊重されるという機会を増やし、児童の権利擁護に努めました。また、日々の学童保育の中で、学校生活や家族との関係性の中で不安に感じていることをこまめに聞き取り、日々の支援に繋げました。

（児童・補助保育）

今年度は通常の補助保育の受け入れはありませんでしたが、夜間や休日の母子関係調整の為に緊急補助保育を実施しました。

（子ども会活動・児童健全育成活動）

こども会活動では社会体験の機会を提供するとともに、施設・年齢を超えた関わりの中で人間関係の構築を図りました。特に林間保育は、親元を離れて友人と協力しながら宿泊をすることで、児童の成長の機会となりました。

※実施状況は9ページ「子ども会実施状況」参照

（児童会）

児童会では、児童が各月ごとに合った内容を盛り込んだ「ともだち新聞」を作成し、読み合わせを行いました。そして、園芸教室で児童に栽培してもらった野菜や花を決定し、ひまわり祭りやハロウィン、クリスマス会などの季節の行事での出し物について話し合いました。

また、今期の重点事項の一つであるこどもの意見表明支援のために、毎月の児童会の中で児

童に要望の聞き取りを行い、実践することで児童が意見表明しやすい環境を作り、児童一人一人の主体性を育みました。

（施設行事）

月1回、乳幼児と合同で誕生会を実施し、異年齢の子ども同士の交流を深めることができました。食事は QOL を考慮し、四季の食材を使ったメニューを選定し、温かく楽しい雰囲気作りなどを心掛けました。準備の際には、生活能力の向上を目指し、食事の盛り付けおよび配膳を行いました。役割を決め、作業する中で協力する為の声掛けが自然と出てくる姿が見られました。

春と秋に行った園芸教室では、自分たちで野菜や花を決め、苗から育てました。学童保育内での水やりを通して成長の様子を学び、食材を作ることの楽しさと大変さを学びました。また、料理クラブでは育てた野菜を収穫し、カレー作りを行うことで、収穫した食材を頂くということへの理解を深める事ができました。

（児童・個別支援）

児童間トラブルに関して、職員が仲介し、学童保育や生活場面で他児の気持ちを代弁し、適切な距離の取り方や接し方を伝え、適切な関わり方の練習をしました。また、職員と一緒に気持ちの整理をして手紙で気持ちを伝える等、児童が自分自身で相手に気持ちを伝えることができるよう支援しました。心理職員とも連携し、SST の中でも他児の気持ちを想像し、自分の気持ちを伝えるための練習を取り入れました。気持ちが落ち着かない児童に対しては、落ち着く方法を一緒に模索し、ひとりで落ち着くことができる空間を作る等、様々な方法を試しました。また、パニックになった際には気持ちが落ち着いてから出来事を振り返り、自身の心の動きを客観的に見られるよう、気持ちの整理のサポートを行いました。

（学習指導）

今年度は、児童の学習状況に合わせた個別学習支援計画の策定を行い、学童保育や週2回実施する学習会の中で個別学習支援計画に基づいた学習指導を実施しました。学習会と別に個別学習を希望する児童については、本児が取り組みたい教科や学習内容について聞き取りを行い、ニーズに合わせた学習指導を実施することで、継続的かつ意欲的に個別学習に参加することができました。

児童支援状況

		ひまわり苑
令和6年度 延在籍数	学童保育	4人
支援 延 人数	学童保育	375人
	(地域児童)	(47人)
	補助保育	1人
	学習指導	330人
	学習会(個別)	25人
	児童会	23人
	誕生会	19人
	その他行事	0人
	計	773人

子ども会実施状況

月日	活動名	目的及び内容	参加人数
5月11日	子ども会 入会式	ひまわり苑にて、他施設の子ども会メンバーと交流し、共同作業を通して、子ども会への意識や参加意欲を高めることができました。	4名
7月20日	子ども会 キャンプ集会	陽だまり荘にて、他施設のメンバーと交流し、会林間保育の意識づけやメンバーシップの強化を行いました。	6名
7月30日～ 31日	子ども会 林間保育	宿泊を通して、3施設の児童間交流と親睦を深め、身近な自然の学びや関心を深めるとともに、子ども会活動の意識の向上、集団行動を意識した社会性を養いました。	7名
2月1日	子ども会 ハイキング	葛西臨海水族園にて海洋生物の生態などの生物学的知識を学び、関心を深めた。また、3施設の児童間交流と関係性を深め、集団行動を意識した社会性の習得を図りました。	7名

③乳幼児支援

今年度は、乳幼児面談の中で子どもから「お母さんと一緒にやりたいこと」の聞き取りを行い、お母さんと共有を行いながら自立支援計画の作成を行いました。面談という形での聞き取りが難しいお子さんには、遊びを提供する中で聞き取りを行い、日々の関わりの中でお子さんの様子をアセスメントし、家庭での様子と照らし合わせながら、専門的な視点を持って、助言を行いました。また、母子関係に課題のある家庭に対し、その都度お母さんに家庭での関わり方や困っていること等の聞き取りを行いながら、家族支援担当職員と連携を行い、心理相談に繋げる等、母子関係の改善を目指し支援を行いました。

（未入所児保育）

今年度の未入所児保育は、乳児の受け入れを行いました。受け入れを行う事で生活リズム調整や家族関係調整を目指しました。また、保育園へ入園している幼児に対しては、日々の関わりの中で保育園での様子をお母さんや幼児から伺ったり、信頼関係の構築や成長発達を促すことを目的に、帰所時に絵本を一緒に読むことやスキンシップを多く取るなど、その日の出来事を伺いながら子ども達と感情の共有を行いました。

（乳幼児・補助保育）

補助保育の利用要件は、通院や母の体調不良、行政手続きや心理相談、行事参加、母子関係調整、生活支援での利用でした。要件の中で産後支援における登降園介助や生活支援に由る補助保育の受入れが多くありました。また、年齢や発達度合い、子どものそれぞれの状態に合わせた環境設定を行うことで、室内で遊ぶ際に、じっくりと集中して遊びことができ、また、子ども同士で遊びを展開させていくことができました。

（病後児保育）

今年度は病後児保育の受入れはありませんでしたが、子どもが体調を崩した際には、通院結果や昨日からの子どもの様子の聞き取りを詳細に行いました。

（誕生会）

保育室で会食を行いました。季節に合わせた食事や離乳食を準備し、迎え入れました。他児と会話を楽しみながら食事を行う中で、職員へ完食できたことや何が美味しいかを話すなど、活気ある会食になりました。誕生会後の乳幼児会では季節の制作やダンスを行いました。

乳幼児支援状況

		ひまわり苑
未入所児保育		18 人
補助保育	日中保育	131 人
	(内 緊急)	(0 人)
	時間外保育	130 人
	(内 緊急)	(0 人)
	日曜祝日保育	14 人
	(内 緊急)	(0 人)
	計	275 人
病後児保育		0 人
(内 緊急)		(0 人)
誕生会		62 人
保育延数		355 人

乳幼児保育入園状況

		ひまわり苑
令和 6 年度 延べ在籍数 (月平均)	未入所(未就園)児	16.4 人
	未入所児保育	1.5 人
保育園 入所状況 (月平均)	男	2.4 人
	女	5.3 人
保育園 入所者内訳 (令和 7 年 3 月 31 日)	私立保育園	8 人
	公立保育園	2 人
	認証保育園	0 人
	計	10 人

④アフターケア

退所後も継続的に関わることができるように、計画に基づき、アフターケアを実施しました。今年度より、自立支援担当職員が設置され、居宅訪問や電話や来所時など定期的な近況伺いを行うことで、母子が地域で孤立することなく、安定した生活を送ることができるよう、支援を継続しました。公益的取り組みについては、区外から参加する方もおり、切れ目のない支援を行いました。

（相談支援）

退所者の相談を来所や電話で随時受け付けました。今年度から、自立支援担当職員による居宅訪問を開始し、転宅後の生活環境を含めた具体的な生活状況や家族関係の把握に努めました。家族関係、体調、子どもの発達や就学、就労等、多岐にわたる相談がありました。公益的取り組みに参加した子どもからも、進路や就職、家族についての話や相談があり、助言を行いました。また、「子ども虹の架け橋プロジェクト」を通じて、退所者と繋がり続け、相談先として関わることができました。継続して来所してくださる方の中には、母子で来所をしてくださる方も増え、子どもから直接お話を伺うこともできました。

（施設行事招待）

ひまわり祭りや新年お楽しみ会等の地域交流行事や、クリスマス会といった施設内行事に招待いたしました。退所者同士や退所者と入所者の積極的な交流が見られました。行事に参加して下さった際には、母子それぞれから近況を伺い、退所後の生活や母子関係等の状況の把握に努めました。

アフターケア

		ひまわり苑
母親	電話	187 人
	来所	48 人
	訪問	7 人
	心理相談	7 人
	その他行事	120 人
子ども	学童保育	47 人
	学習会	15 人
	子ども会	4 人
	心理相談	12 人
	その他行事	284 人
計		731 人

⑤心理

入所時に心理検査と成育歴の聞き取りを併せて実施し、それを基に心理的視点からアセスメントを行いました。母に対しては心理相談を行い、不安の傾聴やストレスコーピング、心理教育など、利用者に合わせた内容を提供しました。子どもに対しては、安心できる空間で自己表現ができるようプレイセラピーを継続して行いました。また、ソーシャルスキルトレーニングでは、聞き取りスキルなど学習態勢の獲得に努めました。学齢に合わせた役割を与え、個々のソーシャルスキルの向上に努めました。家族支援担当職員や子ども支援担当職員と打合せを行い、連携して支援を行いました。

地域支援では、地域利用者宅への訪問支援や心理相談、プレイセラピーを行いました。

精神科医によるケースカンファレンスや、外部心理士によるコンサルテーションを行い専門的市援力の向上を目指しました。

心理支援利用状況

		施設内	アフター	地域
母親	心理療法	23 人	6 人	2 人
	心理検査	6 人	0 人	0 人
	生活場面面接	459 人	32 人	45 人
	訪問	0 人	0 人	7 人
	施設職員等への助言・指導	66 人	14 人	31 人
	支援検討会議への出席	75 人	0 人	3 人
	クラブ等グループワーク	2 人	0 人	0 人
	SST	0 人	0 人	1 人
	その他（同行など）	6 人	13 人	15 人
子ども	心理療法	20 人	4 人	2 人
	心理検査	0 人	0 人	1 人
	生活場面面接	651 人	54 人	70 人
	訪問	0 人	0 人	25 人
	施設職員への助言・指導	155 人	31 人	83 人
	支援検討会への出席	80 人	0 人	3 人
	クラブ等グループワーク	1 人	3 人	6 人
	SST	19 人	12 人	6 人
	その他（同行など）	119 人	121 人	608 人
計		1,682 人	290 人	908 人

⑥危機管理（事故・災害等）

今年度は、保育中の子どもの怪我といった職員要因によるアクシデントが多く発生しており、特に重大なものについては全職員で要因分析や対策について話し合いを行いました。インシデントは、各部屋を使用した後の片付けて見落としやすい事柄が多く上がっていました。中にはそのまま放置することでアクシデントになりかねないものもありましたので、都度注意喚起を行いました。

○災害対策（防災訓練）

実施日 時間	訓練内容						場所／実施方法	参加人数
	初期消火	通報	避難	総合	BCP	その他		
4月23日 13:30～14:30	○	○	○	○			施設内/避難経路・場所の確認、火災発生を想定した訓練	利用者 4人 職員 13人
5月28日 13:00～13:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練 地震発生を想定した訓練	利用者 3人 職員 10人
6月16日 6:00～6:45						○	緊急連絡網通報訓練施設内	利用者 0人 職員 15人
6月28日 15:00～15:30	○	○	○	○	○		施設内/水害を想定した訓練（BCP） 施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 2人 職員 13人
7月23日 15:00～15:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 1人 職員 11人
8月28日 21:30～21:45	○	○	○	○			夜間の施設内/火災発生を想定した訓練	利用者20人 職員 1人 その他 1人
9月25日 13:00～13:30	○	○	○	○			施設内/地震発生後に火災発生を想定した訓練	利用者 2人 職員 6人
10月31日 13:00～13:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 6人 職員 14人
11月28日 15:00～15:30	○	○	○	○			施設内/ガス漏れを想定した訓練	利用者 5人 職員 5人
12月8日 20:30～21:32						○	緊急連絡網通報訓練施設内	職員 15人
12月5日 13:00～13:45		○				○	応急救護訓練	職員 13人
12月25日 13:00～13:35	○	○	○	○	○		施設内/地震発生後、火災、津波を想定した訓練（BCP）	利用者 4人 職員 6人
1月29日 21:00～21:15	○	○	○	○			夜間の施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 17人 職員 3人 その他 1人
2月18日 15:00～15:30						○	不審者対応訓練	職員 11人

2月26日 14:30~14:40	○	○	○	○		施設内/地震発生後、火災発生を 想定した訓練	利用者 5人 職員 6人
3月27日 14:10~14:45	○	○	○	○		施設内/地震発生後、火災発生を 想定した訓練	利用者 4人 職員 10人

⑦要望等解決(苦情解決)

令和6年度は、昨年度に引き続き、委員会学習の中で、ロールプレイや事例検討を行いました。また、今年度は、子どもの意見表明という視点から、子どもの意見の汲み取りに力を入れました。その結果、昨年度よりも子どもからの要望は増加してしました。要望等の内容としては学童保育中の学習環境の要望や保育プログラムに関する要望、玩具の増設や学習室内の大掃除等でした。その他にも、行事内での個人情報の取り扱いや子育てサービスの内容についての要望等を受け付けました。

⑧情報管理(個人情報保護・情報開示・セキュリティ)

個人情報保護や情報管理に関する法人の規程の理解を深め、業務において正しい情報の取り扱いが出来ているか確認を行いました。情報管理上のアクシデント対応や情報漏洩防止の対応等、ロールプレイや事例を通じて学習の強化に努めました。また、人権尊重や情報開示を意識した文章表現の学習を行い、適切な文章の書き方や表現について検討を行いました。

(3)総務委員会

○建物・設備維持管理(保守・点検)

実施日	項目	点検の種類
4月16日 18日 18日 19日	電気設備 自動ドア 建物設備 エレベータ	定期保守点検 定期保守点検 居室内安全点検 定期保守点検
5月13日 17日 21日	建物設備 エレベータ 建物設備	害虫駆除 定期保守点検 居室内安全点検
6月11日 14日 18日 21日 22日 27日	消防設備 電気設備 建物設備 エレベータ 水道設備 消防設備	定期保守点検 定期保守点検 居室内安全点検 法定点検・定期保守点検 定期保守点検 非常用バッテリー点検
7月5日 16日 24日	施設設備 建物設備 エレベータ	定期保守点検 居室内安全点検 定期保守点検
8月15日 19日 21日 20日	建物設備 建物設備 電気設備 エレベータ	居室内安全点検 植木剪定消毒 定期保守点検 定期保守点検

9月17日 17日	エレベータ 建物設備	定期保守点検 居室内安全点検
10月8日 11日 15日 15日 18日	自動ドア 防火扉 エレベータ 建物設備 電気設備	定期保守点検 定期保守点検 定期保守点検 居室内安全点検 定期保守点検・年次点検
11月18日 19日 19日	建物設備 建物設備 エレベータ	害虫駆除 居室内安全点検 定期保守点検
12月10日 10日 17日 17日 26日	消防用設備 防火設備 エレベータ 建物設備 電気設備	定期保守点検 定期保守点検 定期保守点検 居室内安全点検 定期保守点検
1月17日 21日	エレベータ 建物設備	定期保守点検 居室内安全点検
2月14日 18日 19日 21日 27日	電気設備 建物設備 建物設備 エレベータ 建物設備	定期保守点検 居室内安全点検 貯水槽点検 定期保守点検 定期保守点検・加圧給水ポンプ点検
3月18日 21日	建物設備 建物設備	居室内安全点検 定期点検

○修繕

各居室や共用部分の修理を始め、年数経過による修繕箇所が増え、特に修繕が必要と判断した2部屋は、全面的に修繕すると共に、退去に伴う各箇所の修繕やレンジフード、洗面台の交換を行いました。また、全居室の網戸の交換作業を行い、今後の入居に向けた準備を整えました。

○保健衛生

感染症が発生した場合には、感染症マニュアルに基づいた迅速な対応を行い、適切な情報を周知し感染防止に努めました。また、利用者と日々関わる中で体調確認を行い、必要に応じて情報提供や通院を促し、早期発見・治療を促しました。

① 健康管理（母親・児童・乳幼児）

月 日	内 容	参 加 人 数
4月23日	健康診断、歯科検診	2人（母）
4月30日	歯科検診	1人（母）
5月14日	歯科検診	1人（母）
6月22日	歯科検診	1人（母）
6月25日	施設内健康診断	30人（母12・子18）
6月27日	健康診断	1名（母）
7月30日	健康診断	1名（母）

8月5日	歯科検診	1人(母)
10月8日	歯科検診	1人(母)
10月17日	健康診断	2人(母)
11月12日	歯科検診	1人(母)
11月20日	歯科検診	1人(母)
11月26日	施設内健康診断	24人(母10・子14)

② 乳幼児の健康管理

区 分	説 明
健 康 診 断	① のとおり 保育園にて実施 未入所児：嘱託医により実施 または各病院で実施
歯 科 検 診	保育園にて実施

(4) 地域活動

①地域交流事業

○地域交流行事

○自治会活動・地域行事

職員が自治会会合や祭事、新年会等の活動にも参加し、相互の協力を得ることが出来ました。利用者の退所後の地域生活における基盤作りの一環となっています。

施設	行事名	実施日	実施内容	参加者
ひまわり苑	ひまわり祭	令和6年 8月24日	今年度は地域の自治体や大田区の関係機関の方々、退所者等をご招待し地域交流を行いました。 「真夏の大航海!めざせ ひまわり宝島」をテーマに母子それぞれが出し物を披露し、またゲームコーナーや軽食を用意しました。近隣に住む子育て世帯の来所も多くみられました。地域の方々にひまわり苑の施設への理解を高めるとともに、日頃からの感謝を伝える機会となりました。	来賓 33 名 母親 11 名 児童 4 名 乳幼児 10 名

	新年お楽しみ会	令和6年 1月18日	今年度は、新年お楽しみ会としてクラシックコンサートとお楽しみ会の2部制で実施しました。クラシックコンサートは、入所者親子で楽しみましたが、新年お楽しみ会は、だるま落としや福笑い、射的等、様々なゲームを体験できるブースをつくり、地域の親子や子どもたちが遊びを通して交流できる場としました。また、エントランスホールには「ひまわり神社」を設置し、参加した方々におみくじを引いてもらいました。	母 8 名 児童 2 名 乳幼児 8 名 地域 172 名
--	---------	---------------	--	--

○ボランティアの受入

状況に合わせて受け入れを行いました。

○ボランティア受け入れ状況

	ひまわり苑
保育	0人
学童保育	7人
学習支援	0人
子育て支援	0人
行事	0人
子ども会	0人
クラブ	0人
その他	0人
計	7人
1か月平均	0.58人

②次世代育成

○実習生の受入

福祉施設現場を理解する福祉人材育成のため、保育コース・社会福祉コースを設けています。保育士コースは11校から、社会福祉コースは7校から実習生の受け入れを行いました。

(5) 関係機関との連携

① 行政機関

○ 実施状況(回数)

	ひまわり苑
入所面談	2 回
退所面談	2 回
定期面談	14 回
サービス調整会議	12 回
ネットワーク会議	3 回
要保護児童	5 回
配偶者等暴力	0 回
関係機関行事 (入卒園式等)	2 回
計	40 回

② 地域団体

大田区社会福祉協議会

児童贈物事業(クリスマスプレゼント)を申請し、クリスマス会の際に子どもたちにプレゼントを贈りました。また、企業からの寄贈品等を仲介していただき、「子ども虹の架け橋プロジェクト」では、利用者や地域の登録者の方へ多くの物資を頂きました。そして、「おおたスマイルプロジェクト」にご尽力いただき、れいんぼう活動においては、活動費や関係機関との仲介等の協力をいただきました。

③ 法人サポート組織

ゆうわ会

昭和 40 年代から、大洋社大森寮に協力してくださっている個人のボランティアが集まって出来た、ゆうわ会(友輪会)ボランティア団体は、二代目ゆうわ会会長の須佐知行先生(密乗院住職)が引き継ぎ、また、平成 20 年度よりはじめた施設の退所児童の受け皿として青少年健全育成の目的で、活動会員の育成を始めましたが、施設の行事や特にハイキング・夏のキャンプへの協力を頂いています。

家庭福祉研究会

地域交流事業等、家庭福祉研究会会員の方達のお力添えがあって多くの施設行事を行うことができました。今後も法人を支えて下さり、ご理解して下さいの会員の方達との交流を大切にしていきたいと考えています。

月 日	活 動 人	目 的 及 び 内 容	参加人数
5月11日	座禅会	座禅・紙芝居	5人
8月24日	ひまわり苑 ひまわり祭り	施設行事を通じて、施設との連携を図る	6人
9月28日	練馬夏祭り	施設行事を通じて、施設との連携を図る	3人
10月26日	コスモス苑 ハロウィン	施設行事を通じて、施設との連携を図る	4人
12月21日	ひまわり苑 クリスマス会	行事協力	2人
12月21日	コスモス苑 クリスマス会	行事協力	2人
1月18日	ひまわり苑 新年お楽しみ会	行事協力	4人
2月8日	報告会 (ゆうわ会合同行事)	令和5年度事業計画 令和6年度事業報告 活動状況報告	9人

(6) 施設機能強化推進事業

① 社会復帰等自立促進事業

○ 心身機能低下防止研究事業

施設	実施時期	内 容
ひまわり苑	令和6年 8月24日	今年度は地域の自治体や大田区の関係機関の方々、退所者等をご招待し地域交流を行いました。 「真夏の大航海!めざせ ひまわり宝島」をテーマに母子それぞれ出し物を披露し、またゲームコーナーや軽食を用意しました。近隣に住む子育て世帯の来所も多くみられました。地域の方々にひまわり苑の施設への理解を高めるとともに、日頃からの感謝を伝える機会となりました。
	令和6年 1月18日	今年度は、新年お楽しみ会としてクラシックコンサートとお楽しみ会の2部制で実施しました。クラシックコンサートは、入所者親子で楽しみましたが、新年お楽しみ会は、だるま落としや福笑い、射的等、様々なゲームを体験できるブースをつくり、地域の親子や子どもたちが遊びを通して交流できる場としました。

○処遇困難事例研究事業

施設	実施時期	内 容
ひまわり苑	令和7年 1月20日	被虐待経験から再統合した世帯の支援については他職種連携の大切さだけでなく、アウトリーチに移行してからのひまわり苑の在り方を考えることができました。また、精神疾患を抱えた方への支援については特性だけでなく生育歴を踏まえた上でアセスメントすることで、病理との関連性を意識しながら関わることができました。
	令和6年 4月より 令和7年 3月	外部心理士による定期的なコンサルを実施しケースの支援方針や対応について検討を重ねました。母子世帯で入所に至るまでの背景や生育歴を心理的視点から捉え助言を頂きました。家族支援担当と児童担当が同席し、世帯全体に焦点をあてアセスメントする力を高める機会となりました。また、ケースについてだけでなく、職員に対してのコンサルテーションも定期的の実施し、支援や業務についての幅広い悩みをグループワークで扱っていただき、職員のモチベーション向上につながりました。

○施設入所児等社会（家庭）復帰促進事業

施設	実施時期	内 容
ひまわり苑	令和6年 4月 より 令和7年 3月	公益事業（JOY）地域児童（退所児童）、入所児童を対象に、子どもの貧困防止を目的として、体験型学習支援を実施しました。学習の後は、一緒に調理を行い、会食をしました。各種検定などのサポートもしました。
		公益事業（ママれいんぼう）母親を対象に、体験型就労支援として、長期的な就労の安定を目指し、資格取得やスキルアップの為の学友や、職業適性検査等の就労に関するプログラムを実施しました。

②総合防災対策強化事業

○総合防災強化事業

施設	実施時期	内 容
ひまわり苑	令和6年 4月 より 令和7年 3月	危機管理委員会の中で、危機管理に関する基礎的な学習に加えて、今年度より新たに安全計画の学習を行い、子どもの安全な保育について学びを深めました。昨年度と同様、実践に近い形で毎月一回自衛消防訓練を実施しました。また、非常時に備え、防災備品や非常食の購入を行いました。

ii 緊急一時保護事業

施設名	大田区立ひまわり苑
定数	1 世帯
利用世帯	10 世帯
母子	3 世帯
单身	7 世帯
利用総数	17 人
大人	10 人
子ども	7 人
滞在延べ日数	160 日
対象	緊急に保護を要する母子または单身女性に対し、 適当な施設に入所させる事が出来ない場合、一時的に入所させ必要な保護、相談および支援を行い、応急的支援を図ります。
利用条件	○利用期間 概ね2週間(14日) ○利用料金 無料

I 総括

利用世帯については、例年とほぼ同数であり、単身世帯の利用が半数以上を占めています。緊急一時保護室で安心して過ごすことが出来るよう環境整備を行い、関係機関と連携し、退所に向けての支援を行いました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

関係機関と連携を図り利用者の共有を図り、緊急時の対応を適切に行うことが出来るよう取り組みました。また、危機管理の視点から不審者対応、虐待対応、災害時の緊急対応、個人情報保護を意識した対応を適切に行うことが出来るよう努めました。

・安全で安心な場の提供

利用者が安心して過ごすことが出来るような環境を提供し、落ち着ける空間の整備を行いました。また、関係機関と連携し、利用者の状況に応じて配慮が必要な場合は対応を職員間で統一しました。

2 良質なサービスの提供（支援状況）

今年度は入所者の多くが単身世帯で、10代から70代と幅広い年齢層の方が入所しています。住居困難に至る背景として、夫やその他の家族から暴力を受けている場合が多く、日常的な見守りや声掛けを行うことで、心身の状況の把握に努めました。

利用状況

区分	項目	ひまわり苑
世帯	単身	7世帯
	家族	3世帯
	合計	10世帯
人数	大人	10人
	子ども	7人
	合計	17人
滞在延日数		160日

入所状況

区分	項目	ひまわり苑
入所理由	夫からの暴力	2世帯
	その他家族からの暴力	4世帯
	借金	0世帯
	失業	0世帯
	住宅困窮	4世帯
	その他	0世帯
	計	10世帯
入所前の居所	自宅	5世帯
	親せき宅	2世帯
	友人宅	2世帯
	宿泊所	0世帯
	社会福祉施設	0世帯
	その他	1世帯
	計	10世帯

退所状況

区分	項目	ひまわり苑
退 所 先	自宅	1世帯
	親せき宅	0世帯
	母子生活支援施設	2世帯
	他社会福祉施設	6世帯
	アパート	1世帯
	その他	0世帯
	計	10世帯

iii 子育て短期支援事業（第2種社会福祉事業）

【事業概要】

施設名		大田区立ひまわり苑
事業開始		平成10年2月1日
ショート ステイ	定員	4人
	延べ	391人
トワイライト ステイ	定員	6人
	延べ	793人
休日 デイ	定員	4人
	延べ	219人
対象者		大田区内在住 2歳以上15歳（中学生）以下

I 総括

今年度の子育て短期支援事業は、「残業」「育児疲れ」での要件が多数を占めました。利用児の保護者に対して、家庭や保育園、学校での様子を伺いながら育児の不安などを傾聴し、保育での専門的な視点をお伝えしました。育児不安のある世帯やレスパイトで利用される世帯については、子ども家庭支援センターと連携しながら対応しました。また、社会的養護の一環として要支援児童の受け入れ体制もあります。

（重点事項実施状況）

年少児から高学年児までの幅広い年齢の利用があり、家庭的な雰囲気づくりを意識し、安心安全な環境設定・保育を行いました。また、特性のある子どもや虐待防止についての学習を行い、専門性を高めました。保護者に対して、お迎え時や申込時に家庭での様子や育児不安や悩みなどを傾聴し、職員間で連携をとりながら必要に応じて関係機関と情報共有を行いました。

2 良質なサービスの提供

（1）サービス内容

- ①食事の提供および身の回りの世話
- ②学習の援助および遊びの指導
- ③通園または通学の援助
- ④その他

（2）利用状況

①利用の要件

ショートステイでは、昨年度と同様に「育児疲れ」の要件が大半でした。その他の要件では、「入院」「出張」等、様々な要件での利用がありました。休日デイは、「残業」「育児疲れ」での利用が多くありました。

②利用状況

昨年度からの継続利用の方に加え、新規で登録し定期的に利用する方がいました。ショートステイでは定期的に「育児疲れ」で利用される方の他に、出張や出産等で要件に合わせてご利用される方もいました。トワイライトサービスは、「残業等」で定期的に利用される方が多くいました。休日デイは、「残業等」と「育児疲れ」の利用がありましたが、体調不良等で当日キャンセルされる方が多くいました。

○利用児童の傾向

いずれのサービスとも2歳児から小学校中学年までの利用が約9割を占め、発達障がい等、情緒的な関わりを求める子ども達もいました。定期的に利用する子どもたちがあり、子ども同士関係を築き、遊び合ったりする様子がありました。

休日デイ、トワイライトステイではきょうだいでの利用も多く、家庭での様子を窺えました。

○家庭状況

ショートステイでは、ひとり親家庭の方が育児負担軽減のために定期的に利用されることが多く、利用児の保育中の様子をお伝えしながら、家庭の様子を伺う事で困り事の聞き取りをして、育児不安の軽減に努めました。トワイライトステイでは、残業の要件のご家庭の定期利用が多くありました。休日デイも、残業等や育児づかれのひとり親家庭の利用がほとんどで、子ども家庭支援センターなどの関係機関と情報共有を行いました。

利用要件別利用人数（ショートステイ）

	ひまわり苑
残業等	47人
出張	39人
出産	6人
疾病	0人
入院	24人
公的行事	0人
冠婚葬祭	0人
介護	0人
その他	235人
計	351人

利用要件別利用人数（トワイライトステイ）

	ひまわり苑
残業等	604 人
出張	3 人
出産	4 人
疾病	0 人
入院	0 人
看護	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護	0 人
その他	132 人
計	743 人

利用要件別利用人数（休日デイサービス）

	ひまわり苑
残業等	98 人
出張	0 人
出産	0 人
疾病	0 人
入院	0 人
看護	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護	0 人
その他	103 人
計	201 人

家庭状況

		ひまわり苑
ステイ ショート	父母世帯	116 人
	母子世帯	223 人
	父子世帯	16 人
	計	355 人
ステイ トワイライト	父母世帯	171 人
	母子世帯	154 人
	父子世帯	418 人
	計	743 人
サービス 休日デイ	父母世帯	94 人
	母子世帯	70 人
	父子世帯	37 人
	計	201 人
延べ数		1,299 人

行事の実施状況

	ひまわり苑
4 月	こいのぼり工作
5 月	親へのプレゼント工作
6 月	虫歯予防学習
7 月	七夕短冊製作
8 月	ひまわり祭り
9 月	お月見体験
10 月	ハロウィン
11 月	避難訓練
12 月	クリスマス工作
1 月	お正月遊び
2 月	節分体験
3 月	お楽しみ会

Ⅳ 母子一体型ショートケア事業

施設名	大田区立ひまわり苑
定数	0 世帯
利用世帯	0 世帯
利用総数	0 人
大人	0 人
子ども	0 人
滞在延べ日数	0 日
対象	生活基盤が脆弱であったり、育児疲れや事故に遭遇した事により精神的に不安定な状態になった母と生後 6 カ月以上かつ未就学の児童。
利用条件	○利用期間 概ね 1 週間(7日) (行政判断で延長可) ○利用料金 無料

(Ⅰ) 総括

今年度は、相談はありましたが、母子一体型ショートケアの利用には至りませんでした。また、子ども家庭支援センターと連携をして情報共有を行い、産前産後の母子世帯の入所等、様々なニーズに合わせた環境整備を行いました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

子ども家庭支援センターと連携し、利用者状況の共有を図り、緊急時の対応が適切に行える体制を整えました。また、危機管理の観点から、不審者対応、虐待対応、災害対応、個人情報保護を意識し、適切な対応が行えるように努めました。

・安全で安心な場の提供

利用者が安心して過ごすことが出来るように安心安全で、落ち着ける空間の整備を行いました。また、感染症対策も意識し、日々の体調把握と衛生面の整備も行いました。利用者の状況に応じて、配慮が必要な場合は、関係機関とも連携し、職員間で統一した対応を行いました。

2024(令和 6)年度

事業報告

自 2024(令和 6)年 4月 1日(月)
至 2025(令和 7)年 3月31日(月)

社会福祉法人 大洋社
コスモス苑

Ⅱ 事業別サービス実施報告

ⅰ 母子生活支援施設（第Ⅰ種社会福祉事業）

大田区立コスモス苑

【事業概要】

施設名		大田区立コスモス苑
事業開始		平成 5 年 4 月 1 日
事業内容		18 歳未満の子どもを養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届出ができないなど、母子家庭に準じる家庭の女性が、子どもと一緒に利用できる施設です。 緊急一時保護事業（1 世帯）、子育て支援事業、母子一体型ショートケア事業を付帯事業で行っています。
世帯数		20 世帯
入退所	入所世帯	1 世帯
	退所世帯	5 世帯
	平均世帯構成	2 人
	母親平均年齢	33 歳
	平均在籍年数	2 年
建物状況	構造	鉄筋コンクリート 地上 4 階建, 689.50 m ²
	内訳	母子室 20 室 緊急一時室 1 室 事務室兼医務室 応接室・静養室 宿直室・警備員室 保育室 学習室

Ⅰ 総括

母子生活支援施設コスモス苑は、利用者の主体性の尊重を念頭に置き、母と子、それぞれの思いをよく聞いて、個別性の高い支援を提供していきました。様々な困難や難しい状況がある中でも、常に親身に考え、利用者の気持ちを受け止めることを徹底し、その上で最適な選択を選び進めるよう何でも言い合えるような関係性を退所後も繋がり続けられるように、利用者との関係性の構築に努め、公益的取り組みや食支援プログラム等を展開しました。その結果、近隣に転宅される利用者が増え、アフターケアの件数も増加しました。

（重点事項実施状況）

今年度は母子の連動性を意識した自立支援計画の作成、個人情報取り扱いの明確化と同意を得る方法の確認と書類の整備、事故の未然防止を目的とした「ヒヤリハット」の導入を掲げ、取り組みを行いました。自立支援計画については、打ち合わせや会議体系を整備することで、母の思いと子の思い、それぞれに対する支援について担当を超えて話し合う機会を作り、母子の連動性を確保しました。

個人情報に関する取り組みに関しては、特に利用者の入所時に行う個人情報に関する同意書を整備し、実際に活用できるよう取り入れました。「ヒヤリハット」の取り組みは日々支援を行う中で職員の気づく力を醸成することを目的としていましたが、アクシデントやインシデントが起こる前段階に注目していくことで、事故等の未然防止の視点が芽生え、職員の気づく力が育ちました。

2 良質なサービスの提供

（Ⅰ）利用者状況

令和6年度利用者の入所理由は、DV避難でした。広域利用の利用者は1世帯おりました。入所前から丁寧な聞き取りを行い、母親と職員の関係構築に努めました。また、必要に応じて関係機関とも入所前から打ち合わせを行い、支援体制を整えていきました。家族関係不和、母親のトラウマ体験による生活不安、離婚調停等、様々な課題を抱えた世帯に対して、心理士や関係機関と連携し利用者の個々の課題をひとつひとつ解決していきながら安定した生活が営めるよう、生活支援や子育て支援を行いました。

退所前には職員と利用者でアフターケア計画を策定し支援を行いました。退所後も繋がり続けられるような関係構築を日頃より意識し、食支援や公益的取り組み、子育て短期支援事業等、アフターケアの情報提供を行い、支援体制を整えました。退所した子どもたちも施設の学童保育や心理支援に繋がり、地域生活での安定を見守ることができました。近況報告や相談、必要に応じて関係機関に繋げる支援を行い、利用者の退所後の地域生活に対する不安軽減を図りました。

(2) 自立支援への取り組み

①母親支援

利用者と日々の会話を中心に関わりを積み重ねて信頼関係構築に努めました。様々な事情を抱えて入所する利用者と同じ目線に立ち、気持ちに寄り添ったり、利用者が自身の課題と向き合えるよう、時には厳しく接しながら母子ともに安定した生活が営めるよう支援を行いました。

(子育て支援)

母親の成育歴やひとり親になった背景を理解し、子育てと家事や就労が両立して行えるよう日々支援に取り組んできました。乳幼児を抱えた世帯に対しては、子の成長発達について母親と一緒に共有した上で、助言を行ったり、子の健康状態の把握のために通院同行を行うなどの支援を行いました。子育てに疲弊している母親には、回復をする為の補助保育提案を行いました。小学生以上の子を抱えた世帯に対しては、学童保育や心理支援、登校支援を行いました。

(親子支援)

母子関係の安定を念頭に置き、各世帯の課題について職員間で検討を重ね、関係調整を行いました。母親に対しては、日々の生活の中での親子関係に対しての困りごとを共有し、対応策と一緒に考えながら親子支援を行いました。

ネグレクトや虐待の傾向が見られる世帯に対しては、職員が日々の関わりを強化するとともに、子の保育時に衣服や身体の状態確認を行いながら、関係機関と密に連絡を取り対応にあたりました。

(生活支援)

生活支援は、日常生活の相談、体調管理、家事、経済、人間関係、関係機関との調整など多岐にわたり、各世帯の意向や状況、課題に合わせた支援を展開しました。子の成長に合わせた生活リズムや住環境を整えられるよう、助言や居室介入を行いました。また、希望する母親に家計相談支援を行いました。

(その他の支援・夫関係等)

再統合世帯や精神科通院を行っている世帯には、母子関係等を配慮しながら、状況に応じた支援を積極的に行いました。母自身の成育歴や心の傷付きの影響で、生活面や母子関係に支障をきたしている世帯に関して関係機関と連携しつつ、子どもの心身の安定ができるように支援を行いました。離婚後の手続きや面会交流がある世帯について、DV被害の影響で精神が不安定になる世帯には各種手続きの介助や調整、同行支援を行うことで不安を軽減していきました。

（就労支援）

母親の就労や就職活動に伴い補助保育の受け入れを行い、意欲的に就労や就職活動が出来るように配慮しました。仕事に悩みを抱えている母親には面談を行い、働き方や就労継続方法、転職について一緒に考えました。就労と子育てが両立できるよう、各世帯の状況と母親の意向を踏まえて就職活動から就労継続まで幅広い支援を行いました。

入所状況

	コスモス苑
住宅困窮	9 世帯
生活困難	0 世帯
夫の暴力等	5 世帯
生活環境の不良	0 世帯
その他	0 世帯
計	14 世帯

退所状況

	コスモス苑
公営住宅入居	2 世帯
民間住宅入居	3 世帯
他福祉施設	0 世帯
実家	0 世帯
その他	0 世帯
計	5 世帯

母親支援状況

	コスモス苑
子育て支援	3,160 件
就労支援	36 件
生活支援	4,968 件
夫等との関係調整	34 件
家族等との関係調整	55 件
他機関との関係調整	237 件
その他の対人関係	30 件
入退所時の支援	44 件
上記に含まれない支援	2,051 件
計	10,615 件

世帯状況

		コスモス苑
世帯	平均世帯人数	2人
	母親平均年齢	33歳
	子ども平均年齢	5歳
令和6年度退所世帯平均在籍年数		2年
令和6年度平均充足率		60.5%

生活保護受給状況(令和7年3月31日)

受給の有無		コスモス苑	
無		3 人	
有	一部	4 人	6 人
	全部	2 人	
合計		9 人	

雇用形態(令和7年3月31日)

		コスモス苑	
就 労	正社員	2人	7人
	パート・アルバイト	5人	
未 就 労	職業訓練校	0人	2人
	未就労	2人	
合計		9人	

職種(令和7年3月31日)

	コスモス苑
専門・技術	0人
事務	0人
販売	0人
軽作業	2人
サービス	5人
その他	0人
合計	7人

②児童支援

日々の児童支援では、個々のニーズに寄り添った自立支援計画と個別学習支援計画を作成し、それを基に、相談、家族関係調整、学習支援を行いました。グループ支援としては、学童保育、誕生会・児童会などの施設行事を行いました。その他にも、子どもたちの状況に合わせて性教育を実施し、自らを大切にしていくことの大切さを伝えました。また、ソーシャルスキルトレーニングを行い、児童の社会的スキルの向上につなげられるよう支援を行いました。

（学童保育）

まずは児童が安心・安全の下で過ごせるよう配慮しながら、子どもたちの生活状況に合わせた学童保育受け入れを行いました。子どもたちが安心できる生活空間、環境作りを行い、基本的生活習慣の習得や学習の習慣づけ、自己肯定感の向上に努めました。職員や他児との関わり合いの中で、コミュニケーションの基礎を学び、自分の気持ちを言葉で伝えることができるよう支援を行いました。

（児童・補助保育）

今年度の補助保育は、就労で母の帰りが遅い世帯の居室での見守り、お留守番練習や昼食時の見守り、学校を休みがちとなった児童の登校支援がありました。特に登校支援については、児童が少しでも登校できるようその日の世帯の状況や児童の様子に合わせて臨機応変に実施していきました。

（子ども会活動・児童健全育成活動）

こども会活動では社会体験の機会を提供するとともに、施設・年齢を超えた関わりの中で人間関係の構築を図りました。特に林間保育は、親元を離れて友人と協力しながら宿泊をすることで、児童の成長の機会となりました。※実施状況は9ページ「子ども会実施状況」参照

（児童会）

月に1回、児童会を行い、「児童会だより」と「予定表」を読み合わせし、翌月の生活目標の確認を行いました。また、その中で行事に関する要望等を聞き取り、実現することで子どもたちが意見を発信しやすい環境作りに努めました。

（施設行事）

月に1度、乳幼児と児童合同で誕生会を行いました。誕生者のお祝い、制作を楽しみました。ま

た、食育を目的として旬の食材を意識したメニューを提供しました。会の中では、日々の関わりだけでは把握できない成長発達面の様子を確認することができました。

（児童・個別支援）

個別支援として、児童面談、学習指導、母子関係調整、職員との関係構築、登校支援を行いました。自立支援計画をもとに、子どもたちが自身の興味関心のある事柄に関する取り組みを行うことで、多様な育ちの機会を提供しました。個別的な関わりの中で丁寧に気持ちの聞き取りを行い、受容を繰り返し行っていくことで信頼関係の構築を目指しました。

（学習指導）

学童保育の際の学習時間や週に 2 回の学習会を通して、子どもの学習に対する理解具合を把握し、学力の維持向上と学習意欲を持ち自ら進んで学びに向かう力を育むための学習環境づくりを基本に心掛けました。各々の学習進度に寄り添いながら教材を用意し、定着が図れるよう反復練習を意識しながら学習支援を行いました。退所児童の受け入れも行い、入所児童と同様に学習会の中で支援を行いました。

児童支援状況

		コスモス苑
令和 6 年度 延在籍数	学童保育	4 人
支援 延 人 数	学童保育	183 人
	（地域児童）	（32 人）
	補助保育	24 人
	学習指導	233 人
	学習会 （個別）	0 人
	児童会	30 人
	誕生会	16 人
	その他行事	18 人
	計	504 人

子ども会実施状況

月日	活動名	目的及び内容	参加人数
5月11日	子ども会 合同入会式	他施設との親睦を深め、子ども会活動の意識を高める。	36名
7月20日	キャンプ集会	他施設との親睦を深め、キャンプに関する内容の理解、事前の練習などを行い、交流及びキャンプに向けた機運の向上を図った。	512名
7月 30～31日	林間保育	自然との触れ合いを通して自然の尊さや強さを体感すると共に他者とのコミュニケーションや生活スキルについて学ぶ。また、夏の子ども会活動として楽しい思い出を作る。	711名
2月1日	子ども会 ハイキング	他施設との交流を深める。身近な科学の原理から応用まで様々な展示を見て、その不思議を体感する。	47名

③乳幼児支援

母親から育児に関する相談があった際には、その都度傾聴や助言を行い、育児不安の解消を目指しました。令和6年度は未入所児保育の受け入れは無かったものの、補助保育を実施する中で、子どもたちの遊びや行動の様子について観察を行い、必要に応じて保育園、保健師等の関係機関や施設内心理士と連携を取り、関係調整を行いました。

（未入所児保育）

昨年度の未入所児保育利用者全員が地域の保育園に入園することとなり、入園前準備や入園後の手続き、その後の連絡調整などの支援を行い、安心して地域の保育園に通い続けられるよう支援を行いました。また、未入所児保育を実施しない分、日々の一人一人への声掛けや関わりを意識して行い、個別支援や補助保育に力を入れて取り組みました。

（乳幼児・補助保育）

母の会、就労活動、面談、家族関係調整、家族の通院、家族の体調不良、役所手続きによる保育受入を行いました。自立支援計画に沿って保育受入し、就労や母子関係調整が必要な世帯は

その都度個別に声掛けを行い、個々に合わせた補助保育受け入れを行いました。保育園からアレルギー反応の確認を求められた乳児に対しては、補助保育受け入れの際にアレルギー食材の摂取を行い、アレルギー反応の有無を確認しました。また母子関係に課題のある世帯に関しては、保育園からの登園降園送迎補助保育を行うとともに、生活リズムに課題を抱える世帯に関して、子の生活リズムを整え、成長発達を確保する目的で、子の様子を共有しながら母の声掛けの仕方について助言をし、状況に合わせた補助保育の実施方法を母と検討していきました。

（病後児保育）

病気の症状を詳しく把握した上で病後児保育受け入れを行い、保育受け入れ時はこまめな水分補給と検温による体調確認を行いました。また、早めの通院促しや時には医療機関の情報提供を行うことで病後児保育の受け入れもスムーズにできました。

（誕生会）

誕生者のお祝い、製作活動を行いました。製作活動では季節に合わせた製作を行い、完成した作品を施設内に飾りました。完成した作品や子どもたちの写真を掲示することで、母親たちも季節感を感じたり、誕生会の内容を知ることができていました。食育に関しては旬の食材を使い食事提供を行い、皆で楽しく会食を行う事ができました。

乳幼児支援状況

		コスモス苑
未入所児保育		0人
補助保育	日中保育	273人
	（内 緊急）	（81人）
	時間外保育	134人
	（内 緊急）	（22人）
	日曜祝日保育	11人
	（内 緊急）	（0人）
	計	418人
病後児保育		3人
（内 緊急）		（0人）
誕生会		64人
保育延数		485人

乳幼児保育入園状況

		コスモス苑
令和 6 年度 延在籍数 (月平均)	未入所(未就園)児	0 人
	未入所児保育	0 人
保育園 入所状況 (月平均)	男	6.6 人
	女	3.8 人
保育園 入所者内訳 (令和 7 年 3 月 31 日)	私立保育園	3 人
	公立保育園	3 人
	認証保育園	1 人
	計	7 人

④アフターケア

退所前に作成した計画に基づき、アフターケアを実施しました。「子ども虹の架け橋プロジェクト」では、多くの退所世帯の来所があり、状況把握や相談支援を行いました。

「れいんぼう」「JOY」等の公益的取組では、定期的な関わりを通して居場所を提供し続けました。また、「子ども民生委員」として歳末助け合い募金やいつつのわふれあい祭りといった大田区地域の助け合いを体験出来、多くの退所児童が地域とのつながりを感じる事が出来ました。

(相談支援)

退所者の相談を来所や電話にて随時受付け、社会資源の情報提供などの支援を行いました。子どもの不登校や学習の遅れ、ステップファミリーの問題など、退所した後にライフステージの中で様々な課題が生じており、その身近な相談先としてコスモス苑が機能している状況がありました。育児疲れでの子育てサービス利用者に対しては、必要に応じて関係者会議を行う等、関係機関と連携しながらサポートを行いました。

その他、退所児童の学童保育受け入れや学習支援を継続し、退所後も母子ともに地域での生活を安定していけるような関わりを行いました。

(訪問支援)

転宅後初めて関係機関が訪問する際の顔合わせに同席を行ったり、転宅後の生活状況確認で訪問したりと訪問支援に力を入れ、退所した後も安心して地域生活に移行できるよう丁寧に支

援を行いました。

（施設行事招待）

退所者に対して施設行事への招待をしました。ハロウィンイベントには、多くの参加がありました。また、施設内で行ったクリスマス会やクラシックコンサートは多くの反響があり、参加者が楽しい時間を共有し、退所者同士また退所者と入所者の交流が見受けられました。

アフターケア

		コスモス苑
母親	電話	310 人
	来所	155 人
	訪問	1 人
	心理相談	6 人
	その他行事	8 人
子ども	学童保育	38 人
	学習会	33 人
	子ども会	54 人
	心理相談	34 人
	その他行事	276 人
計		915 人

⑤心理

入所時に心理検査や生育歴の聞き取りを行い、施設が利用者の状態の把握を行うと共に、入所者自身の自己理解や今後の生活に役立つ情報提供を意識して検査のフィードバックを行いました。生育歴の聞き取りの際に担当支援職員が同席する事で、面談から得た情報をその後の支援につなげ、連携していくことが出来ました。必要な方にはその後の定期的な心理相談やペアレントトレーニングを個別で実施しました。児童や乳幼児に対しては、安心できる空間で自己表現ができるよう継続してプレイセラピーやソーシャルスキルトレーニングを行いました。

退所後も必要とされる利用者に関しては、利用者に合わせて継続的もしくは単発的に来所や訪問にて、心理相談やプレイセラピーを実施し、母子が安心して地域で暮らしていけるように支援を行いました。

その他、精神科医によるケースカンファレンスや、外部心理士と継続的な学習会を設け、専門的支援力の向上を目指しました。

心理支援利用状況

		施設内	アフター	地域
母親	心理療法	32 人	6 人	0 人
	心理検査	5 人	0 人	0 人
	生活場面面接	681 人	68 人	14 人
	訪問	0 人	2 人	0 人
	施設職員等への助言・指導	78 人	4 人	0 人
	支援検討会議への出席	84 人	1 人	1 人
	クラブ等グループワーク	4 人	5 人	0 人
	SST	0 人	0 人	0 人
	その他（同行など）	77 人	9 人	4 人
子ども	心理療法	111 人	30 人	0 人
	心理検査	0 人	0 人	0 人
	生活場面面接	505 人	66 人	12 人
	訪問	0 人	0 人	0 人
	施設職員への助言・指導	73 人	2 人	1 人
	支援検討会への出席	86 人	2 人	1 人
	クラブ等グループワーク	27 人	63 人	1 人
	SST	18 人	19 人	0 人
	その他（同行など）	75 人	24 人	10 人
計		1,856 人	301 人	44 人

⑥危機管理（事故・災害等）

○災害対策（防災訓練）

実施日 時間	訓練内容						場所／実施方法	参加人数
	初期 消火	通報	避難	総合	B C P	そ の 他		
4月26日 16:00～16:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した 訓練	利用者 7人 職員 8人
5月28日 16:00～16:30	○	○	○	○			施設内/地震、火災発生を想定 した訓練	利用者 8人 職員 13人

6月20日 6:30~7:30						○	施設内/早朝継走訓練	職員 16人
6月25日 15:00~15:40	○	○	○	○	○		施設内/地震、津波、火災発生を想定した訓練,BCP訓練	利用者 10人 職員 8人
7月16日 15:30~16:00	○	○	○	○	○		施設内/地震、火災発生を想定した訓練,BCP訓練	利用者 3人 職員 8人
8月19日 19:15~19:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練(夜間想定)	利用者 19人 職員 4人
9月22日 16:00~16:30	○	○	○	○			施設内/地震発生後の火災発生を想定した訓練	利用者 13人 職員 5人
10月15日 16:00~16:30	○	○	○	○			施設内/地震発生後のガス漏れ火災発生を想定した訓練	利用者 4人 職員 9人
11月26日 15:00~15:30	○	○	○	○			施設内/地震発生後に火災発生を想定した訓練	利用者 5人 職員 8人
12月7日 21:45~22:10						○	施設内/継走訓練	職員 14人
12月24日 15:30~16:00		○	○	○		○	施設内/風水害発生を想定した訓練	利用者 11人 職員 6人
1月28日 18:00~18:30	○	○	○	○			施設内/地震発生後に火災発生を想定した訓練	利用者 17人 職員 3人
2月18日 13:00~13:40						○	施設内/不審者対応訓練	職員 11人
2月25日 15:00~15:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練/	利用者 4人 職員 9人
2月28日 19:00~19:30						○	施設内/応急救護訓練	利用者 4人 職員 5人
3月26日 16:00~16:30	○	○	○	○		○	施設内/地震発生後に火災を想定した訓練	利用者 4人 職員 8人

⑦要望等解決(苦情解決)

令和6年度は相談が7件、要望が17件、苦情が14件ありました。

今年度も引き続き、各人の意向の聞き取りと調整といった対応の質の向上を委員会活動の中で定期的に学習し、信頼関係を構築しながら実践を重ねていきました。また、今年度も子どものアドボケイトや意見表明についての学習を委員会で取り扱い、日常場面だけではなく児童会等で要望を受け付ける機会を設けたことで子どもからの要望も4件受け付けています。居室からの騒音に関する相談、要望、苦情が多く、その都度改善に向けて利用者への聞き取り、支援の提案と、コスモスだよりやポスター掲示で注意喚起を行いました。

⑧情報管理(個人情報保護・情報開示・セキュリティ)

個人情報保護マニュアルや情報管理に関する規定の確認を行い、情報取り扱いのルールを理解と浸透に努め、日々の業務で個人情報保護への意識を高める学習を行いました。

人権尊重・情報開示を意識した文章表現の学習や記録の目的を確認し、適切な文章表現を意識することに努めました。情報漏洩の事例を学び、利用者の情報共有時の配慮点について学習を深めました。

(3) 総務委員会

○建物・設備維持管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4月18日	建物設備	居室内安全点検
19日	エレベーター	定期保守点検
5月2日	建物設備	定期清掃
10日	建物設備	害虫駆除
13日	エレベーター	定期保守点検
16日	自動ドア	定期保守点検
16日	消防用設備	定期保守点検
21日	建物設備	居室内安全点検
6月21日	揚水ポンプ	定期保守点検
25日	建物設備	居室内安全点検
26日	エレベーター	定期保守点検
7月2日	建物設備	定期清掃
16日	建物設備	居室内安全点検
25日	エレベーター	定期保守点検
8月6日	自動ドア	定期保守点検
26日	エレベーター	定期保守点検
27日	建物設備	居室内安全点検
9月5日	建物設備	定期清掃
13日	エレベーター	定期保守点検
17日	建物設備	居室内安全点検
10月3日	消防用設備	定期保守点検
3日	防火設備	定期保守点検
8日	エレベーター	定期保守点検・法定点検
15日	建物設備	居室内安全点検

11月6日	建物設備	害虫駆除
6日	建物設備	定期清掃
13日	エレベーター	定期保守点検
18日	自動ドア	定期保守点検
19日	建物設備	居室内安全点検
12月17日	建物設備	居室内安全点検
24日	エレベーター	定期保守点検
1月9日	建物設備	定期清掃
21日	建物設備	居室内安全点検
27日	エレベーター	定期保守点検
2月3日	自動ドア	定期保守点検
17日	エレベーター	定期保守点検
18日	建物設備	居室内安全点検
21日	建物設備	貯水槽清掃点検
26日	建物設備	排水管清掃点検
3月6日	建物設備	定期清掃
10日	建物設備	植木剪定消毒
17日	建物設備	居室内安全点検
25日	エレベーター	定期保守点検

○修繕

今年度も利用者退所後の居室修繕整備として、畳替え、ふすまの張替え、壁、床等を行いました。宿直室の畳からレイフロアへの修繕（都監査助言）、共用部トイレの修繕等を行いました。

○保健衛生

すこやかだよりの発行を通し、利用者の健康意識の向上を図りました。施設内健康診断の結果を把握するとともに、外部での健康診断の結果についても把握を行い、必要に応じて医療機関の情報提供や通院の促しを行いました。また、感染症が発生した場合には感染症マニュアルに基づき迅速な対応を行うように心がけました。

① 健康管理（母親・児童・乳幼児）

月 日	内 容	参 加 人 数
6 月 18 日	施設内健康診断	29 人(母 13・児童 5・乳幼児 11) ※その他の利用者は会社・保健所にて実施

6月18日	歯科検診	30人(母13・児童5・乳幼児12) ※その他の利用者は会社・保健所にて実施
12月10日	施設内健康診断	22人(母10・児童3・乳幼児9) ※その他の利用者は会社・保健所にて実施

② 乳幼児の健康管理

区 分	説 明
健 康 診 断	① のとおり 保育園にて実施 未入所児：嘱託医により実施
歯 科 検 診	① のとおり 保育園にて実施

(4) 地域活動

①地域交流事業

○地域交流行事

○自治会活動・地域行事

地域の自治会に加入している中で、「わがまち久が原連絡協議会いしかし、個別で自治会の方々とお話するなど繋がりが切れない活動を行い、利用者の退所後の地域生活における基盤作りを継続しました。

施設	行事名	実施日	実施内容	参加者
コスモス苑	コスモスハロウィン	令和6年 10月26日	地域に対しコスモス苑の運営理解や交流を目的としてハロウィン行事を行いました。地域の方にも参加できる企画内容として、仮装してのフォトコーナーやゲームコーナーを設け、大好評でした。昨年度から開催しているハロウィン行事ですが、地域の方々のネットワークで情報が広がり、昨年度以上に地域の方に参加していただきました。また今年度は子ども実行委員会を設置し、入所児童と退所児童に行事の準備と当日の行事運営に携わってもらいました。母たちには装飾を手伝ってもらい、利用者と一緒に行事を作り上げることができました。	248名

	新年 お楽しみ会	令和7年 1月18日	おもちつき大会（地域交流事業）→新年 お楽しみ会に変更。 新年にちなんだ遊びや、施設内にお参り ができる神社やおみくじを用意し、日本の季 節感や伝統を感じられる空間の中で、利用 者とお茶をしながらゆったりと過ごすことがで きました。利用者と職員だけでなく、世帯間 での交流も見られました。	31名
--	-------------	---------------	---	-----

○ボランティアの受入

今年度は、コロナ禍以前に定期的にお願ひしていた、母の会の保育ボランティア受入れを再開しました。その他にも状況に合わせて受入れを行いました。

○ボランティア受け入れ状況

	コスモス苑
保育	2人
学童保育	15人
学習支援	0人
子育て支援	0人
行事	33人
子ども会	0人
クラブ	0人
その他	1人
計	51人
1か月平均	4.25人

②次世代育成

○実習生の受入

福祉施設現場を理解する福祉人材育成のため、保育コース・社会福祉コースを設けています。保育士コースは16校、社会福祉コースは4校から、実習生の受け入れを行いました。

(5) 関係機関との連携

① 行政機関

○ 実施状況(回数)

	コスモス苑
入所面談	1 回
退所面談	6 回
定期面談	14 回
サービス調整会議	12 回
ネットワーク会議	6 回
要保護児童	1 回
配偶者等暴力	0 回
関係機関行事 (入卒園式等)	3 回
計	43 回

② 地域団体

大田区社会福祉協議会

児童贈物事業(クリスマスプレゼント)を申請し、クリスマス会の際に子どもたちにプレゼントを贈りました。また、企業からの寄贈品等を仲介していただき、「子ども虹の架け橋プロジェクト」では、利用者や地域の登録者の方へ多くの物資を頂きました。

③ 法人サポート組織

ゆうわ会

昭和 40 年代から、大洋社大森寮に協力してくださっている個人のボランティアが集まって出来た、ゆうわ会(友輪会)ボランティア団体は、二代目ゆうわ会会長の須佐知行先生(密乗院住職)が引き継ぎ、また、平成 20 年度よりはじめた施設の退所児童の受け皿として青少年健全育成の目的で、活動会員の育成を始めましたが、施設の行事や特にハイキング・夏のキャンプへの協力を頂いています。

家庭福祉研究会

地域交流事業等、家庭福祉研究会会員の方達のお力添えがあって多くの施設行事を行うことができました。今後も法人を支えて下さり、ご理解して下さいの会員の方達との交流を大切にしていきたいと考えています。

月 日	活 動 人	目 的 及 び 内 容	参加人数
5月11日	座禅会	座禅・紙芝居	5人
8月24日	ひまわり苑 ひまわり祭り	施設行事を通じて、施設との連携を図る	6人
9月28日	練馬夏祭り	施設行事を通じて、施設との連携を図る	3人
10月26日	コスモス苑 ハロウィン	施設行事を通じて、施設との連携を図る	4人
12月21日	ひまわり苑 クリスマス会	行事協力	2人
12月21日	コスモス苑 クリスマス会	行事協力	2人
1月18日	ひまわり苑 新年お楽しみ会	行事協力	4人
2月8日	報告会 (ゆうわ会合同行事)	令和5年度事業計画 令和6年度事業報告 活動状況報告	9人

(6) 施設機能強化推進事業

① 社会復帰等自立促進事業

○ 心身機能低下防止研究事業

施設	実施時期	内 容
コスモス苑	令和6年 ① 10月26日 ② 12月21日	ミニ運動会(地域交流事業)→ハロウィン、クリスマスお楽しみ会に変更し行いました。 ハロウィンでは、地域の方にも参加できる企画内容として、仮装してのフォトコーナーやゲームコーナーを設け、大好評でした。 クリスマスお楽しみ会は、利用者と職員と地域関係者の交流を目的に行いました。乳幼児はダンス、児童は劇の発表を行いましたが、児童の劇は自分たちが提案し内容を考えたもので、大成功に終わったことで自信に繋がっていました。

	令和6年 1月18日	おもつき大会（地域交流事業）→新年お楽しみ会に変更。 新年にちなんだ遊びや、施設内にお参りができる神社やおみくじを用意し、日本の季節感や伝統を感じられる空間の中で、利用者とお茶をしながらゆったりと過ごすことができました。利用者と職員だけでなく、世帯間での交流も見られました。
--	---------------	--

○処遇困難事例事業

施設	実施時期	内 容
コスモス苑	令和6年 12月6日	精神科医を招き、統合失調症等の精神疾患に関する講義と事例検討を実施しました。精神疾患に関する医学的根拠に基づく学びの機会となり、客観的かつ専門的に利用者を理解する事に繋がりました。

○施設入所児等社会（家庭）復帰促進事業

施設	実施時期	内 容
コスモス苑	令和6年 4月 より 令和7年 3月	公益事業（JOY）地域児童（退所児童）、入所児童を対象に、子どもの貧困防止を目的として、体験型学習支援を実施しました。一緒に調理を行い、会食をしました。
		公益事業（ママれいんぼう）母親を対象に、体験型就労支援）として、長期的な就労の安定を目指し、資格取得やスキルアップの為の学習や、職業適性検査等の就労に関するプログラムを実施しました。

②総合防災対策強化事業

○総合防災強化事業

施設	実施時期	内 容
コスモス苑	令和6年 4月 より 令和7年 3月	BCP、BCM、BCMS の学習を行い、様々な状況を想定して自衛消防訓練を行いました。より訓練を充実させるために自衛消防訓練以外にも緊急時を想定した意見交換や防災機器の確認作業を行いました。

ii 緊急一時保護事業

施設名	大田区立コスモス苑
定数	1 世帯
利用世帯	12世帯
母子	2 世帯
単身	10 世帯
利用総数	15 人
大人	12 人
子ども	3 人
滞在延べ日数	126 日
対象	緊急に保護を要する母子または単身女性に対し、 適当な施設に入所させる事が出来ない場合、一時的に入所させ必要な保護、相談および支援を行い、応急的支援を図ります。
利用条件	○利用期間 概ね2週間(14日) ○利用料金 無料

I 総括

住宅困窮や夫または親族による暴力から避難する単身女性や世帯の受け入れを行いました。心身ともに安心して過ごすことができるよう、環境を整備し、傾聴や寄り添いを意識した関わりを行いました。また、必要に応じて行政機関へ情報共有をし、退所に向けた支援を行いました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

関係機関と連携し、正確に利用者の状況を把握するとともに、利用者が安心して過ごせるように事前に居室内の整備や清掃、備品の準備を行いました。

・安全で安心な場の提供

不安などを感じている利用者に対して、声掛けやお話の傾聴をすることで安心感を得られるよう配慮しました。

2 良質なサービスの提供（支援状況）

緊急一時保護入所理由は「住宅困窮」「夫・家族からの暴力」等でした。利用者の安全・安心を念頭に置きながら日々の生活を見守りました。必要に応じて利用者の気持ちに寄り添い、傾聴する等の支援を行いました。

利用状況

区分	項目	コスモス苑
世帯	単身	10世帯
	家族	2世帯
	合計	12世帯
人数	大人	12人
	子ども	3人
	合計	15人
滞在延日数		126日

入所状況

区分	項目	コスモス苑
入所理由	夫からの暴力	3世帯
	その他家族からの暴力	2世帯
	借金	0世帯
	失業	0世帯
	住宅困窮	6世帯
	その他	1世帯
	計	12世帯
入所前の居所	自宅	6世帯
	親せき宅	0世帯
	友人宅	0世帯
	宿泊所	2世帯
	社会福祉施設	1世帯
	その他	3世帯
	計	12世帯

退所状況

区分	項目	コスモス苑
退 所 先	自宅	0世帯
	親せき宅	1世帯
	母子生活支援施設	0世帯
	他社会福祉施設	9世帯
	アパート	1世帯
	その他	0世帯
	計	11世帯

※入所12世帯のうち1世帯は年度を越して利用のため、上記の表には反映なし

iii 子育て短期支援事業（第 2 種社会福祉事業）

【事業概要】

施設名		大田区立コスモス苑
事業開始		平成 19 年 4 月 1 日
ショート ステイ	定員	3 人
	延べ	467 人
トワイライト ステイ	定員	5 人
	延べ	321 人
休日 デイ	定員	5 人
	延べ	159 人
対象者		大田区内在住 2 歳以上 15 歳（中学生）以下

I 総括

今年度の子育て短期支援事業では、「育児疲れ」の要件が最も多く全体の約 40%を占め、次いで「残業等」の利用が多く見られました。また、出張要件の利用が増加したのは、父子家庭及び里帰り出産等で主たる養育者が一時的に父親のみとなるケースが増加したことが一因と思われます。

利用者に対する丁寧なサービス説明や対応を行い、安心して利用出来るよう努めました。

（重点事項実施状況）

利用者に対する丁寧な対応や安心・安全に配慮した支援を行いました。アレルギー食対応など、子どもの特性・発達・宗教、家庭の思想などに配慮をした保育を提供しました。

当事業所のサービス利用者の傾向を考慮に入れ、「育児疲れ」を要件とした定期的な利用の増加に伴い、保護者が来所された際の声掛けの方法や、子どもの様子に関する専門的視点を踏まえた伝え方など、保護者対応の学習・実践に取り組みました。

2 良質なサービスの提供

（1）サービス内容

- ①食事の提供および身の回りの世話
- ②学習の援助および遊びの指導
- ③通園または通学の援助
- ④その他

（2）利用状況

①利用の要件

「残業等」や「出張」の要件が昨年度より増加しました。休日デイに於いては「残業等」「育児疲れ」での利用が増加しました。第二子以降の出産に伴う利用登録の増加に伴い、「出産」要件による利用も多く見られました。

②利用状況

今年度、ショートステイでは 104%、トワイライトステイでは 110%、延べ利用件数が増加しました。

また、休日デイサービスにおいては、「育児疲れ」で利用が習慣化している家庭の利用が集中し、キャンセル待ちとなる傾向にありました。

○利用児童の傾向

休日デイサービスでは、「育児疲れ」の要件で定期的に利用する未就学児が多くいました。発達上の課題を抱えているケースが多く、「育児疲れ」を理由とする登録者が増えました。特性の見られる児童が大田区子ども家庭支援センターや児童相談所、乳幼児ショートステイ等からの紹介を受けて新規の登録を行い、定期利用に繋がるケースもありました。

○家庭状況

母子世帯の母親は疾病や生活上の課題を抱えている方が多く、育児への疲弊も見られた為、複数の関係機関と繋がりながら育児の負担軽減に努めました。必要に応じて子ども家庭支援センターの担当者と情報共有を行いました。ショートステイは母子世帯の利用が多く、他のサービスは二人親世帯の利用が多くありました。また父子家庭の利用が増えました。

利用要件別利用人数（ショートステイ）

	コスモス苑
残業等	75 人
出張	73 人
出産	29 人
疾病	6 人
入院	30 人
公的行事	4 人
冠婚葬祭	7 人
介護	0 人
その他	243 人
計	467 人

利用要件別利用人数（トワイライトステイ）

	コスモス苑
残業等	195 人
出張	6 人
出産	3 人
疾病	0 人
入院	2 人
看護	1 人
冠婚葬祭	2 人
介護	2 人
その他	110 人
計	321 人

利用要件別利用人数（休日デイサービス）

	コスモス苑
残業等	64 人
出張	1 人
出産	0 人
疾病	0 人
入院	1 人
看護	1 人
冠婚葬祭	3 人
介護	0 人
その他	89 人
計	159 人

家庭状況

		コスモス苑
ステイ ショート	父母世帯	178 人
	母子世帯	243 人
	父子世帯	46 人
	計	467 人
ステイ トワイライト	父母世帯	202 人
	母子世帯	111 人
	父子世帯	8 人
	計	321 人
サービス 休日デイ	父母世帯	117 人
	母子世帯	42 人
	父子世帯	0 人
	計	159 人
延べ数		947 人

行事の実施状況

	コスモス苑
4 月	さくら製作
5 月	こいのぼり製作
6 月	かたつむり製作
7 月	ひまわり製作
8 月	うちわ製作
9 月	月見 製作
10 月	かき 製作
11 月	おちば 製作
12 月	雪だるま製作
1 月	鏡餅製作
2 月	豆まき
3 月	ひなまつり製作

Ⅳ 母子一体型ショートケア事業

施設名	大田区立コスモス苑
定数	1 世帯
利用世帯	2 世帯
利用総数	4 人
大人	2 人
子ども	2 人
滞在延べ日数	120 日
対象	生活基盤が脆弱であったり、産前産後において、安全安心の確保が難しい妊婦及び生後 6 か月未満の乳児
利用条件	○利用時間 概ね 1 週間(7 日) (行政判断で延長可) ○利用料金 無料

(Ⅰ)総括

母子一体型ショートケア事業は特定妊婦 2 世帯(述べ 4 名)の利用がありました。入所理由は「育児支援」でした。安定した住環境と育児用品の提供を行いながら、出産準備や通院同行、産後は授乳、沐浴等の育児補助や子の預かりを行いました。また、入所が急遽決定した事により、入所後すぐに退所となる方もおりました。入所前から関係機関との連携を行い、支援計画に基づいた支援を行いました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

子ども家庭支援センターと利用者状況の共有を行い、緊急時の対応が適切に行えるように体制を整えました。特に新生児に関しては様々なリスクを想定し、こまめな安否確認を実施しました。また、母の状況を把握し状態に合わせて服薬管理に努めました。

・安全で安心な場の提供

居室環境を整え、利用者のニーズに合わせて支援計画を立て、同意を得る中で、食事提供、育児支援、生活支援、心理支援等を行いました。また、在宅に戻ってからも育児と家事の両立ができるようにリービングケアを意識した支援を行いました。

2024(令和 6)年度

事業報告

自 2024(令和 6)年 4月 1日(月)
至 2025(令和 7)年 3月31日(月)

社会福祉法人 大洋社
練馬区立母子生活支援施設

Ⅱ 事業別サービス実施報告

ⅰ 母子生活支援施設（第Ⅰ種社会福祉事業）

練馬区立母子生活支援施設

【事業概要】

施設名		練馬区立 母子生活支援施設
事業開始		平成 10 年 4 月 1 日
事業内容		18 歳未満の子どもを養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届出ができないなど、母子家庭に準じる家庭の女性が、子どもと一緒に利用できる施設です。 緊急一時保護事業（1 世帯）、子育て支援事業を付帯事業で行っています。
世帯数		20 世帯
入退所	入所世帯	5 世帯
	退所世帯	3 世帯
	平均世帯構成	2.1 人
	母親平均年齢	32 歳
	平均在籍年数	14 か月
建物状況	構造	鉄筋コンクリート （一部鉄骨） 地上 3 階建, 796.98 m ²
	内訳	母子室 20 室 緊急一時室 1 室・シャワー室 事務室・医務室・相談室・静養室・ 宿直室・警備員室・保育室・多目的室・ プレイルーム・オープンスペース・学習室・学童室・ 談話コーナー・和室

Ⅰ 総括

令和 6 年度より指定管理制度の運営委託を 5 か年再受託しました。

乳幼児を抱える世帯では、日々の親子への働きかけの中で養育不安の軽減を図り、子の発達と一緒に寄り添いました。学齢児の入所が増え、こどもと母の意向を確認しながら学童保育・学習会などの児童支援を行いました。関係機関との連携の中で母子関係調整、育児サポート、心理支援などの個別支援を行いました。

行事はコロナ以前の形に戻し、多くの方に参加していただきました。地域の行事にも積極的に参加・協力し、交流を深めました。

（重点事項実施状況）

人材育成プロジェクトを通して、若手職員のキャリアアップを図りました。安全計画の見直しや業務標準化をすすめ、利用者の安心・信頼、職員の安心・自信につなげました。支援計画に沿った支援体制やコロナ禍の影響を受けていたアフターケア体制を整え、切れ目のない支援の構築を図りました。退所者の来訪や相談支援の機会が増えました。

2 良質なサービスの提供

（1）利用者状況

入所理由は、住宅困窮、生活環境不良でした。令和 6 年度も広域利用で他区からの受け入れが 1 世帯ありました。利用期間に関しては、新入学等各世帯の節目を考えながら退所時期と一緒に考えました。また、退所先として都営住宅の提案を積極的に行い、2 世帯が都営住宅への転居となりました。感染症等に配慮しながら、地域の方の参加を含めた行事や日々の関わりの中での地域交流を図り、利用者同士、利用者と職員の交流がより活発になりました。

（2）自立支援への取り組み

①母親支援

面談を通して本人の意向を確認し支援を行いました。日々の対話や行事、母対象のクラブ活動を通して信頼関係の構築に努めました。関係機関と連携し、利用者状況や支援の方向性を共有し、役割を決めながら支援を行いました。職員同士も日々の利用者状況を共有し、迅速かつ専門性を活かした支援を行いました。

（子育て支援）

乳幼児世帯に対しては、こどもの成長発達について母親と共有し、こどもにあわせた食事の進め方や生活リズム、体調管理についてアドバイスをを行いました。発達に課題があるこどもには、こども発達支援センターへの同行や保健所と連携を図りながらこどもの成長をサポートしました。

学齢児の世帯に対しては、個々の状況に合わせて学童保育、学習支援、登校支援、関係機関との連絡調整を行いました。発達に課題があるこどもには、学校と連携を図り、関係機関につなげました。

就学予定のこどもに対して、地域の学童クラブの案内や留守番の方法についてアドバイスをを行いました。

（親子支援）

養育不安や育児疲れがみられる世帯には、話を傾聴しながら解消方法についてアドバイスをを行い、レスパイトを必要とする世帯には補助保育を行いました。また、こどもと母が一緒に楽しむことと母子関係調整を目的とした行事を行い、親子の時間も大切にできるよう支援しました。高齢児世帯においては、こどもと母に話をきき、親子関係が安定するよう支援しました。

（生活支援）

日々の健康状態を丁寧に把握し、感染症に罹患した世帯に対し、医療機関の情報提供や生活のサポートを行いました。日々、荷物の運搬介助や低月齢児を居室まで連れて行く介助、ベビーカーの運搬介助等を行いました。居室の環境整備が困難な世帯には、清掃介助を行いながら子育てに適した居室環境のアドバイスをを行いました。日本語を母語としない世帯や初めての手続きに不安がある母には書類記入や各種手続きのサポートを行いました。

（その他の支援・夫関係等）

こどもと父親の交流がある世帯に対して、継続的な見守りや親子交流の仕方についてサポートを行いました。離婚手続きのサポートとして、DV 世帯の裁判所への同行を行い福祉事務所と情報共有しながら安全面に配慮しました。

（就労支援）

面談で就労の意向を確認し、履歴書や職務経歴書の記入方法や就労面接についてアドバイスをしました。母の状況に応じて就労開始時期を一緒に考え、生活や育児とバランスをとって仕事に就けるよう支援をしました。

求人情報の提供や育児休業からの仕事復職をサポートしました。また、就労世帯へは、補助保育や病後児保育を行うことで、安定して仕事を継続できるよう支援しました。

入所状況

	練馬
住宅困窮	3 世帯
生活困難	0 世帯
夫の暴力等	2 世帯
生活環境の不良	0 世帯
その他	0 世帯
計	5 世帯

退所状況

	練馬
公営住宅入居	2 世帯
民間住宅入居	1 世帯
他福祉施設	0 世帯
実家	0 世帯
その他	0 世帯
計	3 世帯

母親支援状況

	練馬
子育て支援	864 件
就労支援	310 件
生活支援	6,367 件
夫等との関係調整	12 件
家族等との関係調整	43 件
他機関との関係調整	484 件
その他の対人関係	8 件
入退所時の支援	51 件
上記に含まれない支援	833 件
計	8,972 件

世帯状況

		練馬
世帯	平均世帯人数	2.1 人
	母親平均年齢	32 歳
	子ども平均年齢	3.8 歳
令和 6 年度退所世帯平均在籍年数		18 月
令和 6 年度平均充足率		63%

生活保護受給状況(令和 7 年 3 月 31 日)

受給の有無		練馬	
無		7 人	
有	一部	3 人	5 人
	全部	2 人	
合計		12 人	

雇用形態(令和 7 年 3 月 31 日)

		練馬	
就 労	正社員	4 人	8 人
	パート・アルバイト	4 人	
未 就 労	職業訓練校	0 人	4 人
	未就労	4 人	
合計		12 人	

職種(令和 7 年 3 月 31 日)

	練馬
専門・技術	0 人
事務	1 人
販売	1 人
軽作業	0 人
サービス	1 人
その他	5 人
合計	8 人

②児童支援

令和6年度の入所児童状況は延べ人数78人で月平均人数は6.5名でした。母と連動した支援を軸とし、世帯での自立を目標に支援を行いました。子が安心して意見表明できるような職員との関係性構築、安心して日々を過ごすことができるような住環境の提供を行いました。また、退所後の生活を見据え、そのために必要な支援を児童の意向とすり合わせながら行いました。世帯のニーズに合わせ、地域の学童クラブへの入会申請のサポートを行いました。

（学童保育）

放課後や長期休み中に児童がめりはりのある時間を過ごすことができるよう、学童保育を行いました。宿題や翌日の荷物の準備、外遊びの時間などを設け、ホワイトボードに予定を記し、時間を意識して行動できるよう支援しました。

（児童・補助保育）

母の就労や調停等の間、長時間の留守番に不安のある児童に対し見守り支援を行いました。居室だけでなく施設内の共有スペース、公園等を活用しながら留守番をする児童を見守り、定期的に声掛けや介入を行いました。

（子ども会活動・児童健全育成活動）

こども会活動では社会体験の機会を提供するとともに、施設・年齢を超えた関わりの中で人間関係の構築を図りました。特に林間保育は、親元を離れて友人と協力しながら宿泊をすることで、児童の成長の機会となりました。※実施状況は8ページ「子ども会実施状況」参照

（児童会）

児童の健全な発達を目的に、制作活動、調理、日本文化の学習を行いました。毎月配布した新聞では、感染症予防や通学路の歩き方等、児童の生活を再確認する内容を取り込むと同時に、目標や振り返りを記入するページも設け、自身の生活について考えるきっかけを提供しました。

（施設行事）

誕生会では、こども同士の祝う・祝われるの経験を通し、友人関係を育みました。会食では異年齢間のコミュニケーションの場にもなりました。防災訓練では、避難方法だけでなく、災害が起こる要因や二次災害の防止方法について考え、防災意識の向上に努めました。

（児童・個別支援）

定期面談、心理職によるセラピー、転校時の手続きに関する同行を行いました。同時に、登下

校時の声掛けや日々の会話を大切に、職員と児童の信頼関係構築を図りました。

（学習支援）

施設内学童の学習時間、学習会、びーのびーの教室では、児童の意思を尊重しながら、苦手科目にも取り組みました。得意不得意を把握し、それぞれに合った学習教材を準備しました。また、学力の向上だけでなく、分からない問題を「分からない」「教えてほしい」と伝えられるよう声掛けを行いました。

児童支援状況

		練馬
令 6 年度 延在籍数	学童保育	8 人
支 援 延 人 数	学童保育	364 人
	（地域児童）	（0 人）
	補助保育	7 人
	学習指導	483 人
	学習会（個別）	122 人
	児童会	50 人
	誕生会	42 人
	その他行事	233 人
	計	1301 人

子ども会実施状況

月日	活 動 名	目 的 及 び 内 容	参加人数
5 月 11 日	子ども会 合同入会式	他施設との親睦を深め、子ども会活動の意識を高める。	6名
5 月 11 日	座禅会	他施設との親睦を深め、子ども会活動の意識を高める。	6名
7 月 20 日	キャンプ集会	他施設との親睦を深め、子ども会活動の意識を高める。	5名
7月30日 ～7月31日	林間保育	自然とのふれ合いを通して自然の尊さや強さを体感するとともに、他者とのコミュニケーションや生活スキルについて学ぶ。また夏のこども会活動として楽しい思い出を作る。	7名
2月1日	子ども会 ハイキング	他施設との交流を深める。水族館の生き物を観察し、自然への興味関心を育む。	7名

③乳幼児支援

子ども家庭支援センターと連携し、母の休養を目的とした定期補助保育を計画的に行いました。新入所者に対しては、未入所児保育を行いました。母の育児に対する悩みをきき、必要に応じてアドバイスをし、母との信頼関係を育みながら支援を進めました。

（未入所児保育）

今年度は１歳児１名を受け入れました。入所後、生活リズムの構築と母の就労継続のため３月より週３日受け入れしました。未入所児保育開始前の聞き取りでは、食事についての相談があり、家庭でもスムーズに食事が進むよう工夫したメニューで給食を提供しました。

（乳幼児・補助保育）

補助保育受け入れの主な理由は、定期面談、母の休養、仕事のためでした。就労での補助保育に関しては、母の意向をきき、支援計画に沿って受け入れました。

（病後児保育）

母の就労のための依頼が多くありました。通院結果やこどもの体調を丁寧に聞き取り、受け入れました。病後児保育を行う際は、空気清浄機や定期的な換気により保育環境を整えました。また、季節に合わせた加湿や室内温度調整も行いました。

（誕生会）

誕生会の会食を通して、喫食状況や食べる様子を確認しました。こどもたちの他児との関わりの様子も確認することができました。乳幼児と児童の交流の場ともなりました。

乳幼児支援状況

		練馬
未入所児保育		11 人
補助保育	日中保育	125 人
	(内 緊急)	(10 人)
	時間外保育	97 人
	(内 緊急)	(1 人)
	日曜祝日保育	3 人
	(内 緊急)	(0 人)
	計	236 人
病後児保育		14 人
(内 緊急)		(0 人)
誕生会		96 人
保育延数		357 人

乳幼児保育入園状況

		練馬
令和 6 年度 延在籍数 (月平均)	未入所(未就園)児	0.08 人
	未入所児保育	0.08 人
保育園 入所状況 (月平均)	男	6.58 人
	女	4.67 人
保育園 入所者内訳 (令和 7 年 3 月 31 日)	私立保育園	7 人
	公立保育園	2 人
	認証保育園	0 人
	幼稚園	2 人
	計	11 人

④アフターケア

食支援「子ども虹の架け橋プロジェクト」や退所者の行事参加が定着化したことで、定期的に退所者が来所できる機会が増えました。季節の便りや入学祝の手紙等を通し、遠方の退所者も含めた支援を行いました。退所世帯への訪問を行い、生活状況を確認し適宜アドバイスを行いました。定期的に子育て短期支援事業を利用している世帯も複数あり、ショートステイ申込み時の母からの聞き取りや利用中のこどもの様子の把握を通して母子関係調整に努めました。

（相談支援）

退所者からの相談を来所や電話にて受けるだけではなく、食支援や行事の声かけの電話連絡の機会が増え、その際に聞き取りをしました。また、行事等での来訪時に相談につながることもあり、ました。主な相談内容は体調、仕事、生活、子どもの発達や就学に関するものでした。学習について悩んでいる家庭には親子の意向を確認し、学習支援としてびーのびーの教室を開始しました。子育て短期支援事業利用の保護者へは、来所時に不安に寄り添いつつ地域で安心して生活できるように支援を行いました。

（施設行事招待）

陽だまり祭りを実施し、退所者を招待しました。多くの親子が参加し、楽しい時間を共有し、退所者同士の交流もみられました。退所者からは「次の機会にも声をかけて欲しい」「また参加したい」との声がきかれました。ほっとJrも復活し入所児童と退所児童が関わる機会が増え退所した児童からも「参加できて楽しい」との声がきかれました。

アフターケア

		練馬
母親	電話	212人
	来所	80人
	訪問	1人
	心理相談	0人
	その他行事	89人
子ども	学童保育	0人
	学習会	49人
	子ども会	13人
	心理相談	0人
	その他行事	6人
計		450人

⑤心理

母親への心理支援では、虐待やDVの体験による心的外傷を抱えている利用者への継続的な心理支援によって精神の安定を図るよう努めました。利用者の状況について各担当職員と情報共有し、連携して支援にあたりました。

児童・幼児への心理支援では、プレイセラピーを中心に、安心・安全に自己を表現できる場を提供しました。

心理支援支援状況

		施設内	アフター	地域
母親	心理療法	36 人	0 人	0 人
	心理検査	6 人	0 人	0 人
	生活場面面接	615 人	0 人	0 人
	訪問	0 人	0 人	0 人
	施設職員等への助言・指導	25 人	0 人	0 人
	支援検討会議への出席	56 人	0 人	0 人
	クラブ等グループワーク	98 人	0 人	0 人
	SST	0 人	0 人	0 人
	その他（同行など）	17 人	0 人	0 人
子ども	心理療法	46 人	0 人	0 人
	心理検査	0 人	0 人	0 人
	生活場面面接	685 人	48 人	317 人
	訪問	0 人	0 人	0 人
	施設職員への助言・指導	34 人	1 人	1 人
	支援検討会への出席	57 人	0 人	1 人
	クラブ等グループワーク	4 人	1 人	0 人
	SST	0 人	0 人	0 人
	その他（同行など）	0 人	0 人	4 人
計		1679 人	50 人	323 人

⑥危機管理（事故・災害等）

アクシデント 14 件、インシデント 25 件の報告がありました。アクシデントは、鍵の返却忘れ等職員要因のものが多くありました。鍵の取り扱いについては時間を決めて鍵の所在を確認し送り時にも確認するよう再発防止に取り組みました。

○災害対策（防災訓練）

実施日 時間	訓練内容						場所/実施方法	参加人数
	初期 消 火	通 報	避 難	総 合	B C P	そ の 他		
4 月 18 日 15:00～16:30	○	○	○	○		○	施設内/火災発生を想定した訓練 防災教育 （避難経路や消火器など 基本的な消防設備の説明）	利用者 4 人 職員 10 人 ショート1人
5 月 16 日 14:00～14:30 15:10～15:25	○	○	○	○		○	施設内/火災発生を想定した訓練 防災教育 （避難梯子の訓練、通報専用 電話機、水消火器の訓練） 防災備蓄の確認	利用者 7 人 職員 11 人
6 月 27 日 15:30～16:30	○		○		○		風水害による浸水を想定した 訓練（BCP） 初期消火訓練	利用者 3 人 職員 11 人
7 月 23 日 15:00～16:30	○	○	○		○	○	地震による大規模災害を想定 した訓練 初期消火訓練 通報訓練 BCP 机上訓練 消防署員による応急救護訓練	利用者 4 人 職員 11 人
8 月 18 日 16:30～17:15	○	○	○	○		○	施設内/火災発生を想定した 訓練 夜間想定訓練	利用者 12 人 職員 6 人 ショート2名 その他1人
9 月 2 日 15:30～17:15 19:00～20:30	○		○		○	○	大規模災害（地震）を想定し た訓練（BCP） 初期消火訓練 災害用伝言ダイヤル訓練 夜間継走訓練	利用者 5 人 職員 7 人

10月22日 15:30~16:20	○	○	○			○	施設内／ガス漏れを想定した訓練 初期消火訓練（机上）	利用者5人 職員7人
11月18日 15:00~15:50							起震車体験 （豊玉学童クラブと合同訓練）	利用者2人 職員11人 学童クラブ20人
11月29日 14:00~14:30 16:00~16:15	○	○	○	○		○	施設内／火災発生を想定した訓練 通報専用電話機による通報訓練、避難梯子の訓練、水消火器の訓練、担架使用訓練	利用者4人 職員11人
12月8日 13:00~13:30 12月11日 10:30~11:30	○	○	○	○		○	施設内／火災発生を想定した訓練（不審火を想定） 警察職員による不審者対応の訓練	利用者25人 職員11人 ショート4人
1月18日 17:30~17:50	○	○	○	○			施設内／地震・火災発生を想定した訓練	利用者9人 職員6人 ショート5名
2月12日 15:30~15:55	○	○	○	○			地震を想定した訓練 豊玉学童クラブと合同訓練	利用者4人 職員10人 その他1人 学童クラブ33人
3月20日 11:00~11:45	○	○	○	○		○	施設内／火災発生を想定した訓練 夜間想定訓練	利用者11人 職員7人 その他1人 ショート3名

⑦要望等解決(苦情解決)

令和6年度は相談が1件、要望が20件、苦情が24件ありました。施設の共有部分の使用方法など、他の利用者との調整が必要な要望が聞かれました。また、支援内容や職員の対応については、第三者委員宛てのポストや「陽だまり箱」が活用され、各要望に対する改善や説明を行いました。

⑧情報管理（個人情報保護・情報開示・セキュリティ）

全職員が個人情報の重要性を理解するため、マニュアルを通して適切な管理と保護について理解の向上を図りました。また人権尊重や情報開示を意識した文章表現の実践学習を行いました。情報セキュリティ教材の読み合わせや、穴埋め問題を利用して理解度の確認をしました。外部からの問い合わせ事例が発生した際には、体制を強化し、具体的な対応方法を共有しました。

(3) 総務委員会

○建物・設備維持管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4月9日 17日 17日 17日 17日	建物設備 電気設備 建物設備 フロン 貯水設備	居室内安全点検 自家用電気工作物点検 自主点検 第一種特定製品の簡易点検 貯水槽自主点検
5月14日 16日 16日 16日	建物設備 消防設備 防火設備 貯水設備	居室内安全点検 消防用設備等点検 防火設備定期点検 貯水槽自主点検
6月6日 7日 7日 11日 14日 20日	建物設備 フロン 貯水設備 建物設備 建物設備 電気設備	自動扉保守点検 フロンガス定期点検 貯水槽自主点検 居室内安全点検 害虫駆除 自家用電気工作物点検
7月9日 22日 22日 22日 31日	建物設備 水道設備 貯水設備 建物設備 フロン	居室内安全点検 水質検査 貯水槽自主点検 自主点検 第一種特定製品の簡易点検
8月6日 13日 22日 22日	建物設備 環境 電気設備 貯水設備	居室内安全点検 空気環境測定 自家用電気工作物点検 貯水槽自主点検
9月9日 18日 18日	建物設備 建物設備 貯水設備	居室内安全点検 自動扉保守点検 貯水槽自主点検
10月8日 23日 23日 23日 23日	建物設備 電気設備 建物設備 貯水設備 フロン	居室内安全点検 自家用電気工作物点検 自主点検 貯水槽自検主点検 第一種特定製品の簡易点検
11月12日 19日 29日	建物設備 貯水設備 消防設備	居室内安全点検 貯水槽自検主点 消防用設備等点検
12月10日 16日 19日 19日 19日	建物設備 建物設備 建物設備 電気設備 貯水設備	居室内安全点検 害虫駆除 自動扉保守点検 自家用電気工作物点検 貯水槽自主点検
1月7日 15日 20日 20日	建物点検 フロン 貯水設備 建物設備	居室内安全点検 第一種特定製品の簡易点検 貯水槽自主点検 自主点検
2月4日 20日 21日 21日	建物設備 環境 貯水設備 電気設備	居室内安全点検 空気環境測定 貯水槽自主点検 自家用電気工作物点検

3月11日 26日 27日	建物設備 貯水設備 建物設備	居室内安全点検 貯水槽自主点検 自動扉保守点検
---------------------	----------------------	-------------------------------

○修繕

各居室や共用部分に年数経過による修繕箇所が複数みられました。居室修繕では、水回りの劣化による工事などを行いました。共用部分では、奥階段壁のクラック補修、男子トイレ換気扇修繕を行いました。生活福祉課工事として給湯器交換、高圧電気機器取替工事を行いました。

○保健衛生

すこやかだよりの発行を通し、利用者の健康意識の向上を図りました。毎月の嘱託医による健康相談、9月と2月に歯科健診を行いました。健康診断の結果を把握するとともに、必要に応じて医療機関の情報提供や通院の促しを行いました。また、感染症が発生した時には感染症マニュアルに基づき迅速な対応を行い、事業所内で感染症が発生した事を知らせるポスターを張り出し利用者へ周知することで感染防止を図りました。

① 健康管理（母親・児童・乳幼児）

月日	内容	参加人数
4月12日	施設内健康診断	9人（母親4・児童3・乳幼児2）
5月8日	施設内健康診断	21人（母親8・児童7・乳幼児6）
6月19日	施設内健康診断	18人（母親8・児童4・乳幼児6）
8月22日 ～9月12日	前期健康診断	8人（母親） ※その他の利用者は職場で実施。
7月10日	施設内健康診断	12人（母親4・児童5・乳幼児3）
8月7日	施設内健康診断	15人（母親7・児童3・乳幼児5）
9月4日	施設内健康診断	12人（母親5・児童4・乳幼児3）
10月2日	施設内健康診断	18人（母親8・児童4・乳幼児6）
9月3日	歯科健診（1回目）	18人（母親7・児童3・乳幼児8）
11月13日	施設内健康診断	14人（母親6・児童4・乳幼児4）
12月11日	施設内健康診断	9人（母親4・児童3・乳幼児2）
1月8日	施設内健康診断	11人（母親5・児童2・乳幼児4）
2月12日	施設内健康診断	14人（母親5・児童4・乳幼児5）
2月10日	歯科健診（2回目）	25人（母11・児童4・乳幼児10）
3月12日	施設内健康診断	12人（母親5・児童4・乳幼児3）
3月21日 ～4月2日	後期健康診断	11人（母親） ※その他の利用者は職場で実施。

② 乳幼児の健康管理

乳幼児の健康管理	
区分	説明
健康診断	① のとおり 保育園にて実施 未入所児：嘱託医により実施 または各病院で実施
歯科健診	① のとおり 保育園にて実施

(4) 地域活動

① 地域交流事業

○ 地域交流行事

○ 自治会活動・地域行事

地域の町会に加入し、毎月の町内パトロールや年 2 回の町内の清掃、年末の夜回りなどに参加しました。盆踊り大会やハロウィンスタンプラリーなどの季節行事に協力し、地域との交流を深めました。また、コロナ禍で縮小していた陽だまり祭りは本来の規模で実施することができ、地域からもたくさんの方に参加していただきました。

行事名	実施日	実施内容	参加者
夏祭り	令和6年 9月28日	猛暑に配慮して9月に開催しました。前年度までコロナ禍の影響で縮小していましたが、従来の規模で開催することができました。利用者、退所者、そしてお世話になっている関係機関、町会、地域のみなさまを招いて行いました。童話の森をテーマにフォトスポットを用意し、児童と乳幼児の出し物を行いました。ゲームや制作では、こども達が楽しめるコーナーを用意しました。飲食コーナーは交流の場となり、再会を喜ぶ姿が見られました。	118人

○ ボランティアの受入

今年度は、年忘れお楽しみ会や母のクラブ活動でボランティアの受け入れを行いました。

○ボランティア受け入れ状況

	練馬
保育	0人
学童保育	0人
学習支援	0人
子育て支援	0人
行事	10人
子ども会	0人
クラブ	1人
その他	0人
計	11人
1か月平均	0.9人

②次世代育成

○実習生の受入

今年度も、積極的に実習性を受け入れ福祉人材育成を行いました。
保育士コースは8校から、社会福祉士コースは1校からを受け入れました。

(5) 関係機関との連携

①行政機関

○実施状況(回数)

	練馬
入所面談	5回
退所面談	3回
定期面談	22回
サービス調整会議	11回
ネットワーク会議	2回
要保護児童対策 地域協議会	9回
配偶者等暴力防止 関係機関連絡会議	3回
関係機関行事 (入卒園式等)	13回
計	68回

②地域団体

練馬区ひとり親福祉連合会

8月3日(土)に、東京練馬ライオンズクラブ主催のデイキャンプにご招待いただき、練馬区ひとり親福祉連合会との交流を深めました。当日は3世帯がアメリカキャンプ村にてデイキャンプを楽しみました。参加した世帯からは練馬区ひとり親福祉連合会への加入の相談があり案内することが出来ました。

③法人サポート組織

ゆうわ会

昭和40年代から、大洋社大森寮に協力してくださっている個人のボランティアが集まって出来た、ゆうわ会(友輪会)ボランティア団体は、二代目ゆうわ会会長の須佐知行先生(密乗院住職)が引き継ぎ、また、平成20年度よりはじめた施設の退所児童の受け皿として青少年健全育成の目的で、活動会員の育成を始めましたが、施設の行事や特にハイキング・夏のキャンプへの協力を頂いています。

家庭福祉研究会

地域交流事業等、家庭福祉研究会会員の方達のお力添えがあって多くの施設行事を行うことが出来ました。今後も法人を支えて下さり、ご理解して下さいの会員の方達との交流を大切にしていきたいと考えています。

月 日	活 動 人	目 的 及 び 内 容	参加人数
5月11日	座禅会	座禅・紙芝居	5人
8月24日	ひまわり苑 ひまわり祭り	施設行事を通じて、施設との連携を図る	6人
9月28日	練馬夏祭り	施設行事を通じて、施設との連携を図る	3人
10月26日	コスモス苑 ハロウィン	施設行事を通じて、施設との連携を図る	4人
12月21日	ひまわり苑 クリスマス会	行事協力	2人
12月21日	コスモス苑 クリスマス会	行事協力	2人
1月18日	ひまわり苑 新年お楽しみ会	行事協力	4人
2月8日	報告会 (ゆうわ会合同行事)	令和5年度事業計画 令和6年度事業報告 活動状況報告	9人

(6)施設機能強化推進事業

①社会復帰等自立促進事業

○心身機能低下防止研究事業

実施時期	内 容
令和6年4月 より 令和7年3月	夏祭りは猛暑に配慮して9月に開催しました。前年度までコロナ禍の影響で縮小していましたが、従来の規模で開催することができました。利用者、退所者、そしてお世話になっている関係機関、町会、地域のみなさまを招いて行いました。童話の森をテーマにフォトスポットを用意し、児童と乳幼児の出し物を行いました。ゲームや制作では、こども達が楽しめるコーナーを用意しました。飲食コーナーは交流の場となり、再会を喜ぶ姿が見られました。（118名参加） ベビーマッサージ 地域交流を目的としたベビーマッサージを外部講師を招いて実施し、心身機能の低下防止を図りました。親子でスキンシップをとり、親子関係を深める機会となりました。地域で子育てをしている世帯の交流の場としても機能し参加者同士で育児や近隣の情報交換なども行い、有意義な時間となり好評でした。リピーターも多く談笑する姿がみられました。

○処遇困難事例研究事業

実施期間	内 容
令和6年 10月9日 12月11日 令和7年 1月17日	精神科医、臨床心理士を招いて事例検討をしました。また、講師から精神や心理分野についての知識のレクチャーも受け、支援技術の体得につながりました。入所世帯の事例を取り上げ、本質的な理解と対応について学習しました。

○施設入所児等社会（家庭）復帰促進事業

実施期間	内 容
令和6年4月 より 令和7年3月	入所者と退所者の交流の場を設け、会話や取り組みを通して社会性の向上を図りました。母親のクラブや、児童対象のクラブ活動（ほっとJr）を通して交流を深めました。

②専門機能強化事業

○養育機能等強化事業

実施時期	内 容
令和6年4月 より 令和7年3月	外部講師を招いての退所者のグループワークを通して、養育や課題解決の力を向上させました。

③総合防災対策強化事業

○総合防災強化事業

実施時期	内 容
令和6年4月 より 令和7年3月	食品、飲料の他、担架などを計画的に備蓄しました。防災食に関しては、低年齢児やアレルギーに配慮した防災食のストックも行いました。

ii 緊急一時保護事業

施設名	練馬区立母子生活支援施設
定数	1 世帯
利用世帯	9 世帯
母子	3 世帯
单身	6 世帯
利用総数	17 人
大人	9 人
子ども	8 人
滞在延べ日数	73 日
対象	緊急に保護を要する母子または单身女性に対し、 適当な施設に入所させる事が出来ない場合、一時的に入所させ必要な保護、相談および支援を行い、応急的支援を図ります。
利用条件	○利用期間 概ね1週間(7日) ○利用料金 無料

I 総括

緊急一時保護事業は、母子世帯よりも单身者の利用が多くありました。クーラーの故障やガス、電気料金の未納などによる利用が多くみられました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

関係機関と連携して正確に利用者状況を共有し、適切な対応ができるよう努めました。迅速に緊急対応できるように常に居室内の整備や清掃、備品の準備を行いました。エアコンの故障や洗濯機の経年劣化があり、担当課による工事・交換が行われました。

・安全で安心な場の提供

利用者の安全を確保し、安心して過ごすことができるよう関係機関との連携を図り情報共有しながら職員間で対応を統一して支援しました。

2 良質なサービスの提供（支援状況）

入所理由では、「その他」（クーラーの故障）、「住宅困窮」が多く、その他に「家族の暴力」「夫等の暴力」「住宅環境不要」「家族等の関係不良」がありました。受入れに際しては、安心して入所できるよう居室の清掃や整備を行い、心身の安定を図れる環境整備に努めました。

利用状況

区分	項目	練馬
世帯	単身	6世帯
	家族	3世帯
	合計	9世帯
人数	大人	9人
	子ども	8人
	合計	17人
滞在延日数		73日

入所状況

区分	項目	練馬
入所理由	夫からの暴力	1世帯
	その他家族からの暴力	1世帯
	借金	0世帯
	失業	0世帯
	住宅困窮	2世帯
	その他	5世帯
	計	9世帯
入所前の居所	自宅	7世帯
	親せき宅	0世帯
	友人宅	0世帯
	宿泊所	0世帯
	社会福祉施設	0世帯
	その他	2世帯
	計	9世帯

退所状況

区分	項目	練馬
退 所 先	自宅	7世帯
	親せき宅	0世帯
	母子生活支援施設	0世帯
	他社会福祉施設	2世帯
	アパート	0世帯
	その他	0世帯
	計	9世帯

iii 子育て短期支援事業（第2種社会福祉事業）

【事業概要】

施設名		陽だまり荘
事業開始		平成10年11月1日
ショート ステイ	定員	5人 (要支援親子入所型:母子1組)
	延べ	1,268人 (内要支援子ども型172人、親子入所型6人)
トワイライト ステイ	定員	
	延べ	
休日 デイ	定員	
	延べ	
対象者		練馬区内在住 2歳以上12歳 (小学生)以下 ※要支援親子入所型は、生後4か月以上12歳 (小学生以下)までの児童と保護者

I 総括

今年度の子育て短期支援事業は、継続世帯、新規世帯ともに「レスパイト」要件での利用が多くありました。低年齢児の新規登録が多く、その多くが子ども家庭支援センターからの紹介で利用に繋がった要支援家庭でした。要支援ショートステイでは、利用数は減少したものの、新規利用のケースが複数世帯あったほか、親子入所型の利用もありました。

要支援ショートステイを含め、背景を異にする児童の生活の丁寧なケアと保護者への支援、利用による家族間の関係調整に努めました。

（重点事項実施状況）

様々な背景から利用する児童・保護者に対して、関係機関と連携を保ちながら支援を行いました。要支援家庭を対象としたショートステイ事業では、今年度より「親子入所型」の支援を開始し、親子関係の調整や児童の行動観察等の支援を行いました。

日常の支援では、安心、安全な保育環境の提供に努め、毎月の陽だまりクラブでは、こどもが安定した環境を基盤に豊かな体験を得られるような機会を設けました。

2 良質なサービスの提供

（1）サービス内容

- ①食事の提供および身の回りの世話
- ②学習の援助および遊びの指導
- ③通園または通学の援助
- ④その他

（2）利用状況

①利用の要件

「レスパイト」を要件とする世帯は毎月定期的に利用があり、利用日数の増加につながりました。また、母子世帯における「介護」や「夜間勤務」での利用も定期的にありましたが、その多くが要支援

家庭でした。要支援ショートステイにおいては、「生活リズム構築」や「母のレスパイト」での利用が多くありました。

②利用状況

昨年度に引き続きショートステイの利用は増加傾向となり、11月以降は月に延べ100人を超える利用となりました。要支援ショートステイでは、利用世帯数は増加した一方で、利用日数は昨年度と比較して減少傾向にありました。「レスパイト」要件での利用は昨年度と同様、週末や祝日に利用が集中する傾向にありましたが、きょうだいの同時利用は曜日を問わず定期的な利用が多くなりました。

○利用児童の傾向

昨年度に引き続き、「レスパイト」要件での未就学児の利用が多くありました。2歳の誕生日を迎えたことを機に本施設の利用を開始する事例が多く、特に2、3歳児の利用が増加しました。年度後半は、保育園未就園児や長期休暇中の児童の日中利用も多くありました。小学生以上の割合は減少傾向にありましたが、昨年度に引き続き、児童の成長発達や特性に応じた支援に努めました。

○家庭状況

児童相談所の一時保護から家庭復帰する際に利用登録を行う世帯など、家族関係調整が望まれるケースが多くありました。また、こどもの寝かしつけや夜泣き対応等でレスパイトが必要とされる両親世帯が多く利用しました。母子家庭においては、「就労」「介護」の要件のほか、精神疾患に伴うレスパイトの必要から利用するケースが多くありました。

利用要件別利用人数（ショートステイ）

	陽だまり荘
残業等	97 人 (夜勤)
出張	15 人
出産	0 人
疾病	19 人
入院	0 人
公的行事	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護	15 人 (看護)
その他	944 人
計	1090 人

利用要件別利用人数（要支援）

	陽だまり荘
残業等	0 人
出張	0 人
出産	0 人
疾病	29 人
入院	0 人
看護	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護	0 人
その他	149 人
計	178 人

家庭状況

		陽だまり荘
ショートステイ	父母世帯	633人/ 要支援:118人
	母子世帯	613人/ 要支援:54人
	父子世帯	22人/(うちその他22人) 要支援:0人
	計	1,268人/ 要支援:178人
延べ数		1,268(178)人

行事の実施状況

	練馬
4月	春の絵の具制作
5月	こどもの日体験
6月	七夕制作
7月	歯磨き指導
8月	夏のうちわ制作
9月	お月見体験
10月	ハロウィン制作
11月	クリスマス制作
12月	クリスマス会
1月	お正月遊び
2月	ひな祭り制作
3月	進級祝い

2024(令和6)年度

事業報告

自 2024(令和6)年 4月 1日(月)

至 2025(令和7)年 3月31日(月)

社会福祉法人 大洋社

一時預かり事業

V 一時預かり事業 (第2種社会福祉事業)

【事業概要】

施設名		保育室サン御園	大田区立子ども家庭支援センター大森 一時保育室
事業開始		平成 24 年 6 月 1 日	平成 25 年 3 月 1 日
所在地		大田区西蒲田 7-49-2 大田区社会福祉センター1 階	大田区大森北 4-16-5
連絡先		Tel 03-6424-5088	Tel 03-5753-0805
		Fax 03-6424-4933	Fax 035753-0806
一時 預 か り	定員	10 人	12 人
	延べ	3,762 人	3,430 人
定期 利 用	定員	6 人	6 人
	延べ	661 人	1,056 人
対象者		一時預かり事業	生後 5 か月から就学時前の児童
		定期利用型事業	大田区在住の 1 歳児および 2 歳児

I 総括

保育室サン御園

「一時預かり事業」は定期利用児の利用の空があったため、前年度の 3,577 人を 200 名ほど上回りました。傾向として、主にリフレッシュでの利用が多く、就労での利用が年々減ってきています。予約開始日の毎月 1 日には、電話が鳴りやまず土曜日の利用は数時間で埋まってしまう状況でした。

「定期利用事業」は定員に満たない月がほとんどでしたが、その分一時預かりの子ども達と一緒に、お散歩や製作などを楽しみ年上の子どもの真似をしたり、年下の子どものお世話をしたりする姿が見られました。

（重点事項実施状況）

令和 6 年度はサン御園のチーム力の向上を目指し、職員、パート間の体制を見直し、情報の共有と一人ひとりに合った保育支援の統一行いました。サン御園独自のマニュアルを作成し、誰が見ても分かりやすく実状に即した内容で、インシデントの予防に繋がりました。また、安全計画に沿って環境や玩具の点検を意識し、安心安全な保育支援に繋げることが出来ました。

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

「一時預かり事業」は、月の予約開始日のみ電子申請での予約が可能となり、利用しやすさがまた一歩進みました。保育としては、「定期利用保育」を中心に夏から水耕栽培で種芋を作り、こども達も「大きくなった」と日々成長を観察し、水換え等も積極的に取り組みました。種芋を土に移し、秋の収穫では「私が育てたさつまいも」、「すっぱーん、大きい」と育てた野菜に大喜びで、野菜の成長過程や収穫の喜びを感じることが出来ました。室内では、個々に自由遊びをする中でも定期利用児が自然と集まり、保育者や友達と関わりながら安心して過ごす姿が見られました。その中で遊びが展開し、利用が多い一時保育のこども達も遊びの輪に加わる等こども同士の関わりも深まりました。こどもの気付きや気持ちに寄り添い、個々のペースを大切にしていた保育を行いました。

（重点事項実施状況）

令和 6 年度は、職員のこどもの成長発達段階の理解を深める学習や保育の検討を行いました。また、安全計画に基づいた取り組みや事故予防に関しては、職員の意識向上はしていますが、保育現場での視野角の広がりや細やかさにまでは至らず、結果的にアクシデント等が多い年度となりました。今後も継続的な課題として取り組みを行っていきます。不適切保育の防止に関してはパート職員も含めて取り組み、定義の理解やチェックリストによる自らの振り返りにより職員の意識を高めることが出来ました。また、保育室全体の望ましくない場面の傾向等を確認することで保育現場での意識向上も出来ました。

2 良質なサービスの提供

(1) サービス内容

- ①保育の質の向上を目指して、「定期利用保育」の子どもに対しては、一人ひとりの成長発達に合った保育カリキュラムを作成し、保育を行いました。
- ②子供が愛情に満ちた、安心できる環境の中で成長していけるように、保護者と協力し、子どもの健全な心身の育成・発達を目指しました。

主な年間行事

	保育室サン御園	大森 一時保育室
4 月	お花見	お花見
5 月	母の日	母の日
6 月	父の日	父の日
7 月	七夕飾り	七夕飾り
8 月	うちわ作り	うちわ作り
9 月	敬老の日、夏の思い出製作	敬老の日、夏の思い出製作
10 月	ハロウィン	ハロウィン
11 月	勤労感謝の日	勤労感謝の日
12 月	クリスマス会	クリスマス会
1 月	新年のお祝い	新年のお祝い
2 月	豆まき	豆まき
3 月	お雛様	お雛様

(2) 利用状況

①利用の提供と利用者状況

保育室サン御園

令和 6 年度の「一時預かり」は、例年より短時間での利用が増え、お買い物、役所や銀行など気軽に利用される方が多くいました。また、発達の気になるお子さまを 1 時間～2 時間預けられ、リフレッシュされる方や双子の利用も増えていました。「定期利用」は自営業の方で保育園には入れない就労状況の方で幼稚園希望の方がほとんどでした。

○利用児童の傾向

「一時預かり」は 0 歳児から 1 歳児の子どもが全体の 7 割になり、前年度より更に低年齢化となりました。春休

みや夏休みに 2 歳児以上の子どもが利用しています。また、一時預かりの後にそのままキッズな蒲田に親子で遊びに行く方も多く、地域の子育てサービスが浸透しているのを実感しました。「定期利用」は一時預かりを利用していた子どもがほとんどで、泣くこともなく体操やお散歩などでは、積極的に参加する姿が見られました。

○家庭状況

「一時預かり」は二人親世帯が大半を占めておりますが、シングルマザーの利用もあり年度途中で苗字の変わる子どもや実家に帰って来て長期間過ごしている子どももおりました。

「定期利用」はすべての利用者が二人親世帯でした。受け入れや引き渡しの際に会話を十分にすることにより、子どもの成長や悩み事を共有し信頼関係を構築することが出来ました。

利用要件

一時預かり		定期利用	
就労	665 人	就労	567 人
介護	5 人	求職	57 人
冠婚葬祭	0 人	介護	0 人
通院	463 人	その他	37 人
リフレッシュ	1,620 人	計	661 人
その他(※)	1,009 人		
計	3,762 人		

※兄弟姉妹の行事参加など

利用年齢

一時預かり		定期利用	
0 歳児	948 人	1 歳児クラス	604 人
1 歳児	1697 人	2 歳児クラス	57 人
2 歳児	568 人	計	661 人
3 歳児	197 人		
4 歳児	179 人		
5 歳児	173 人		
計	3,762 人		

利用時間

一時預かり		定期利用	
4 時間以内	1,265 人	4 時間以内	12 人
4 時間以上	2,497 人	4 時間以上	649 人
計	3,762 人	計	661 人

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

「一時預かり」の傾向としては、例年と変わらず保護者のリフレッシュを目的とした利用が多く、保育園の慣らし保育期間中の利用や資格取得の勉強の為の利用もありました。体調不良等による当日キャンセルもありますが、予約は常時定員に達しており、特に土曜日は就労やリフレッシュのリピーターが多く、予約開始直後に定員に達する傾向がありました。利用時間に関しては、4時間以上の利用が前年度より増加しました。

「定期利用保育」は「就労」と「求職」があり、前年度と比較して求職中で入園される方が多く、期間も増加傾向にありました。入園児には他の保育園から転園してきた方もおり、慣らし保育期間が短かった為、利用者の入退園が多い中、「その他」が前年度とほぼ変わらない件数となりました。退園児は、引っ越しによるものの他、2歳児は来年度を見据え、認可保育園や幼稚園入園を視野に入れた判断をされていました。

○利用児童の傾向

「一時預かり」は例年同様0～2歳児の利用が多いですが、前年度より2歳児の割合が減少傾向になりました。兄弟や双子利用も多くありました。頭部の矯正ヘルメットを着用や身体的に配慮が必要な方がおり、職員間でも配慮事項を情報共有して保育に臨みました。長期休みは例年通り3～5歳児の利用が多くなりました。

「定期利用保育」は2歳児3名、1歳児2名で始まり、2歳児2名、1歳児4名で終わりました。入退園の入れ替わりが多い年となり、年度末近くの入園も多くいました。一時預かりを利用していた子もおり、スムーズに生活の流れに慣れ、保育者とも信頼関係を築くことが出来ました。入園児には保育者が傍につき、無理なく生活に慣れることが出来ました。保育者やこども同士の言葉のやり取りをする中で、二語文で話すようになると益々こども同士の仲が深まり、共通の遊びを通して関わる姿が見られました。

○家庭状況

「一時預かり」は、二人親世帯が大半を占めていましたが、パートナーの単身赴任や離婚による一人で育児を行うことからのリフレッシュで利用する世帯も増加傾向にありました。子ども家庭支援センターが見守りを行っている家庭の利用が数件あり、情報共有を行いながら受け入れを行いました。

「定期利用保育」はすべての利用者が二人親世帯でした。半数が外国籍で、家庭と保育室で言語の異なる家庭が多く見られました。こどもの発した言葉を汲み取れるよう母国語や文化の理解を深め、母国語も交えながら保護者やこどもとコミュニケーションをとることが出来ました。どの家庭も夫婦で協力し、こどもの送迎を行う姿が多く見られました。

利用要件

一時預かり		定期利用	
就労	1,065 人	就労	913 人
介護	5 人	求職	136 人
冠婚葬祭	3 人	介護	0 人
通院	500 人	通学	0 人
その他(※)	1,857 人	その他	7 人
計	3,430 人	計	1,056 人

利用年齢

一時預かり		定期利用	
0 歳児	714 人	1 歳児クラス	573 人
1 歳児	1,431 人	2 歳児クラス	483 人
2 歳児	660 人	計	1,056 人
3 歳児	362 人		
4 歳児	96 人		
5 歳児	112 人		
6 歳児	55 人		
計	3,430 人		

利用時間

一時預かり		定期利用	
4 時間以内	997 人	4 時間以内	22 人
4 時間以上	2,433 人	4 時間以上	1,034 人
計	3,430 人	計	1,056 人

③危機管理（事故・災害等）

保育室サン御園

今年度はアクシデント 10 件、インシデント 14 件の報告がありました。室内の環境改善や乳児の予約時間を 4 時間と制限してとることで、昨年度に比べ、緊急通報に繋がるような大きな怪我、事故は減りました。アクシデントとして嘔み付き等の怪我や利用者対応で苦情に繋がった件、荷物の取り間違い、喉のつまり等がありました。それぞれの内容を踏まえ、保育者の対応方法、保育方法を検討し、共有することで再発防止に努めました。災害対応では、様々な時間帯、役割分担を設定した避難訓練と緊急時の対応訓練を通して、実践的な学習を行いました。また、BCP マニュアル、備蓄品の見直しを行い災害時に備えました。

○ 災害対策（防災訓練）

実施日 時間	訓練内容						場所/実施方法	参加人数
	初期 消火	通報	避難	総合	BCP	その他		
4 月 23 日 10:00~10:15	○	○	○	○			キッチンからの火災を想定した避難誘導の訓練	利用者 12 人 職員 6 人
5 月 30 日 16:00~16:15	○	○	○	○			夕方の時間帯を想定した避難誘導の訓練	利用者 5 人 職員 5 人
6 月 14 日 10:00~10:15	○	○	○	○			キッチンからの火災を想定した避難誘導の訓練	利用者 10 人 職員 5 人
7 月 31 日 14:50~15:00	○	○	○	○			午睡時間帯を想定した避難誘導の訓練	利用者 11 人 職員 6 人
7 月 24 日 10:00~10:15		○		○			喉のつまり発生時の発見、通報、処理、記録、緊急通報訓練	利用者 9 人 職員 5 名
8 月 14 日 10:00~10:15	○	○	○	○			地震発生後、保育室からの火災を想定した避難誘導訓練	利用者 8 人 職員 4 人
8 月 14 日 15:10~15:20		○	○	○			不審者対応訓練	利用者 6 人 職員 5 人
9 月 24 日 10:00~10:15	○	○	○	○	○		地震発生後、ビル上階からの火災を想定した避難誘導訓練	利用者 6 人 職員 6 人
10 月 22 日 16:50~17:00	○	○	○	○			夕方の時間帯を想定した避難誘導の訓練	利用者 3 人 職員 3 人
11 月 25 日 10:15~10:40	○	○	○	○			地震発生後、キッチンからの火災を想定し避難誘導訓練	利用者 8 人 職員 5 人
12 月 27 日 16:00~16:15	○	○	○	○			地震発生後、玄関口からの火災を想定した避難誘導訓練	利用者 5 人 職員 3 人
1 月 21 日 10:05~10:15	○	○	○	○			地震発生後、事務所コンセントからの火災を想定した避難誘導訓練	利用者 11 人 職員 6 人
2 月 18 日 16:30~16:40	○	○	○	○	○		地震発生後、近隣ビルより火災発生、津波を想定した避難誘導の訓練	利用者 6 人 職員 5 人

2月18日 16:05~16:15		○		○			アレルギー発生時の発見、通報、処理、 記録、緊急通報訓練	利用者 0人 職員 3人
3月4日 10:50~10:55		○	○	○			不審者対応訓練	利用者 8人 職員 2人
3月17日 10:00~10:15	○	○	○	○			キッチンからの火災を想定した避難誘 導の訓練	利用者 11人 職員 6人

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

アクシデント 39 件、インシデント 28 件の報告がありました。今年度はこどもの噛みつき、荷物間違い、誤食等がありました。戸外活動での転倒などの怪我が5件あり、いずれも職員間の情報共有不足が要因として挙げられました。誤食は、食事や筒間違いがあり、配る際には名前札をしっかりと確認し、名前を呼んで配るように徹底しました。また、複数の職員で対応する際は見守る範囲を明確に決め、間違いを防ぐことに努めました。危険が予測される箇所について情報共有の強化を行い、安全な活動となるように努めました。今後も保育環境を見直し、安全で安心な保育に努めていきます。

○ 災害対策(防災訓練)

実施日 時間	訓練内容						場所/実施方法	参加人数
	初期 消火	通報	避難	総合	BCP	その他		
4月22日 10:05~10:25	○	○	○	○			地震発生後、ハローワークからの火災発生を想定した訓練	利用者 9人 職員 5人
5月22日 15:15~15:35	○	○	○	○			保育室内からの火災発生を想定した訓練	利用者 9人 職員 7人
6月18日 11:00~11:20						○	不審者対応訓練 散歩帰園途中に不審者に遭遇したことを想定した訓練	利用者 6人 職員 8人
6月22日 11:20~11:40	○	○	○	○			地震発生後、キッチンからの火災発生を想定した訓練、	利用者 10人 職員 6人
7月22日 10:10~10:30	○	○	○	○	○		BCP 訓練 震度6の地震発生後、駐輪場から火災発生、初期消火失敗後、第一避難所までの避難訓練 引取り訓練実施	利用者 9人 職員 5人
8月22日 15:30~16:00	○	○	○	○			地震発生後、隣接する建物からの火災発生、津波を想定し、階段にて屋上までの避難訓練	利用者 11人 職員 4人
9月21日 15:30~15:45	○	○	○	○			地震発生後、給湯器からの火災発生を想定した訓練	利用者 11人 職員 5人

10月22日 15:35~15:55	○	○	○	○		地震発生後、トイレより火災発生を想定した訓練	利用者 職員	12人 6人
11月22日 16:10~16:25	○	○	○	○	○	BCP 訓練 震度6の地震発生後、給湯器から火災発生、初期消火失敗後、第一避難場所までの避難訓練 引き取り訓練実施	利用者 職員	9人 4人
12月23日 10:00~10:20					○	不審者対応訓練 不審者が窓から来訪しようとすることを想定した訓練	利用者 職員	8人 5人
12月23日 14:10~14:30	○	○	○	○		地震発生後、給湯器からの火災発生を想定した訓練	利用者 職員	12人 5人
1月23日 10:10~10:25	○	○	○	○		給湯器からの火災発生を想定し、第一避難所までの避難訓練	利用者 職員	14人 6人
2月22日 15:00~15:15	○	○	○	○		台所、給湯器からの火災・ガス漏れを想定した訓練	利用者 職員	10人 5人
3月21日 10:30~11:00	○	○	○	○		地震発生後のトイレより火災発生を想定した訓練	利用者 職員	13人 7人
3月25日 15:45~16:15		○				台風による大雨と集中豪雨を想定し、階段で3階までの避難する訓練	利用者 職員	13人 8人

④要望等解決(苦情解決)

保育室サン御園

令和6年度の要望等の件数は相談5件、要望7件、苦情3件の計15件でした。保護者とコミュニケーションを積極的に行うことを意識し、昨年度よりも苦情の件数を減らすことができました。相談はこどもの成長発達に関することが多く、保育室でのこどもの様子を伝えながら保護者の不安を取り除けるような対応に努めました。今後も、保護者とのコミュニケーションを意識して信頼関係を構築し、こどものことを一緒に考えていける事業所・職員でありたいと考えています。

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

相談が15件、要望が4件、苦情が3件でした。相談は、例年通りこどもの成長発達に関するものが多く、丁寧に返答をした結果、感謝の手紙が入っている等のうれしいご意見もありました。要望は保育内容や環境設定に関するもので、環境設定に関しては安全上難しいものもありました。職員の対応に関する要望もあり、一人ひとりに丁寧に関わる重要性を職員間でも周知をして改善に努めました。苦情1件は荷物の入れ方について、2件は月初めの予約が電子申請可能となり、その周知が不十分であったことに関するものでした。

⑤情報管理（個人情報保護・情報開示・セキュリティ）

保育室サン御園

情報を適切な扱い方をチェックし、保育室の課題の整理と情報管理に関する意識を高めました。また、情報漏洩の予防、起こった際の対応方法を学習し、対応力の向上に努めました。文章表現では自施設の記録を点検し、適切な表現方法の獲得をしています。新しい年度に伴い、書類とデータの整理を行い、管理方法の見直しを行い、整頓された状態で情報を管理するよう心掛けました。

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

情報管理は情報開示に向けて参考資料の読み合わせを行い、こどもの姿の正しい捉え方や適切な文章表現について理解を深めることが出来ました。また、連絡帳や記録の文章表現を抜粋し、検証したことで一人ひとりが適切な文章表現に対する意識向上へと繋げることが出来ました。個人情報保護の視点から、受け入れ引き渡し時の入室を一組ずつとなるよう利用者へ呼びかけたことで、利用者自身の個人情報保護に対する意識が高められ、より利用者が安心し、信頼して頂けるような環境づくりを行うことが出来ました。

(3)総務委員会

保育室サン御園

○建物・設備維持管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4月14日 11日	設備清掃 設備点検	床ワックス 自動ドア保守点検
5月3日～5日 12日	設備点検、清掃 設備清掃	照明器具、吸出口、フィルター他 床ワックス
6月7日 9日16日 18日	設備点検 設備清掃 設備点検	自動ドア保守点検 床ワックス 消防用設備法定点検
7月29日 14日 14日 14日	設備点検 設備清掃 害虫駆除 設備清掃	自動ドア保守点検 床ワックス 窓清掃 害虫駆除 エアコンフィルター
8月11日	設備清掃	床ワックス

9月8日 29日	設備清掃 設備清掃	床ワックス・エアコンフィルター 貯水槽清掃
10月13日	設備清掃	床ワックス
11月10日	設備清掃	床ワックス、吸出口
12月8日 24日	設備清掃 設備点検	床ワックス・エアコンフィルター 消防用設備法定点検
1月12日 12日 13日 31日	設備清掃 害虫駆除 設備点検 定期点検	床ワックス 害虫駆除 電気設備点検（法定点検） 自動ドア保守点検
2月9日	設備清掃	床ワックス
3月9日 14日	設備清掃 設備点検	床ワックス、エアコン 建築設備定期検査

○保健衛生

今年度も継続して毎月のおたよりや年4回のすこやかだよりの配布や掲示を行い、食育や感染症対策に関する情報提供を行うことで、利用者の保健衛生や健康の増進を図りました。感染症の流行時には、保育者・こどもの手洗いや保育室内の消毒を徹底し、感染症対策に努めました。また、受け入れ時の健康視診を丁寧に行い、保護者にも注意喚起しながら、家庭でも感染症対策への意識が高まるように働きかけました。

○健康管理（乳幼児）

月日	内容	参加人数
4月19日	入園前健康診断	入園前児童 1人
7月4日	健康診断	定期利用保育児 2人
11月28日	健康診断	定期利用保育児 2人
1月24日	入園前健康診断	入園前児童 1人
1月28日	入園前健康診断	入園前児童 1人
1月8日	入園前健康診断	入園前児童 1人
2月25日	入園前健康診断	入園前児童 1人

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

○建物管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4月9日	定期清掃	床清掃
12日	非常通報装置	定期保守点検
5月11日	特別清掃	窓ガラス、網戸、格子柵、空調機フィルター
14日	定期清掃	床清掃
26日	空調機洗浄作業	空調機洗浄
6月5日	自動ドア点検	定期保守点検
11日	定期清掃	床清掃
13日	エレベーター点検	定期保守点検
15日	害虫駆除	定期保守点検
7月9日	定期清掃	床清掃
8月1日	シャッター点検	定期保守点検
13日	定期清掃	床清掃
9月8日	電気設備点検	定期保守点検
8日	消防用設備点検	定期保守点検
10日	定期清掃	床清掃
12日	トイレ点検	定期保守点検
19日	エレベーター点検	定期保守点検
10月6日	排水管清掃	定期保守点検
8日	定期清掃	床清掃
15日	非常通報装置	定期保守点検
24日	トイレ修繕	トイレ修繕
28日	トイレ修繕	トイレ修繕
29日	自動ドア点検	定期保守点検
11月9日	特別清掃	窓ガラス、空調機フィルター、照明、ブラインド
12日	定期清掃	床清掃
20日	殺虫トラップ点検	定期保守点検
24日	電気設備点検	定期保守点検
12月10日	定期清掃	床清掃
12日	エレベーター点検	定期保守点検
22日	空調機清掃作業	空調機清掃
1月14日	定期清掃	床清掃
27日	ガスヒートポンプ定期点検	定期保守点検

2月10日	定期清掃	床清掃
11日	樹木剪定	樹木剪定作業
3月2日	消防用設備点検	定期保守点検
4日	トイレ点検	定期保守点検
11日	定期清掃	床清掃
14日	エレベーター点検	定期保守点検
22日	特別清掃	窓ガラス、空調機フィルター、照明、ブラインド

○保健衛生

感染症が発生した場合には、感染症マニュアルに基づいた迅速な対応を行うよう心掛け、引き続き玩具や保育室内、オムツ交換時の消毒などを徹底して行いました。また、感染症が流行する冬の時期には保育者のマスク着用を実施し、感染予防に努めました。食育や健康については、おたよりの配布と掲示の他、保育室で育てたさつまいもを持ち帰る等、家庭と連携して食育にも取り組むことが出来ました。

○健康管理（乳幼児）

月 日	内 容	参 加 人 数
6月18日	健康診断	定期利用保育児 4人
	入園前健康診断	入園前児童 1人
7月 1日	入園前健康診断	入園前児童 1人
11月26日	健康診断	定期利用保育児 4人
12月23日 27日	入園前健康診断	入園前児童 1人
	入園前健康診断	入園前児童 1人
1月24日	入園前健康診断	入園前児童 1人
3月18日	健康診断	定期利用保育児 2人
	入園前健康診断	入園前児童 1人

2024(令和6)年度

事業報告

自 2024(令和6)年 4月 1日(月)

至 2025(令和7)年 3月31日(月)

社会福祉法人 大洋社

ファミリー・サポート・センター事業

Ⅵ ファミリー・サポート・センター事業

(第2種社会福祉事業)

【事業概要】

施設名	ファミリー・サポート・センター事業	
事業開始	平成 25 年 3 月 1 日	
所在地	大田区大森北 4-16-5	
連絡先	Tel 03-5753-1152 Fax 03-3763-0191	
対象者	利用会員	大田区在住、もしくは在勤の方 対象年齢は生後 4 か月から、おおむね 12 歳までのお子さんをお持ちの方
	提供会員	大田区在住の 20 歳以上の心身ともに 健康な方で、 地域の子育て支援に熱意のある方 (提供会員養成講座を受講後の登録 となります)
	両方会員	上記の利用会員・提供会員のどちらに も該当で、 希望のある方

1 総括

令和 6 年度は、依頼の件数が夏～秋にかけて例年より少なく、3月は例年より多い等、繁忙期と閑散期の差が激しい一年となりました。

提供会員に関しては、提供会員養成講座の申し込みが電子申請でも可能となり、申し込みがしやすくなりました。参加者も感染症流行時より増加し、業務全体的に元の状態に戻りつつあります。

利用会員に関しては、小学生の不登校児対応の相談・依頼も増加しており、それぞれの家庭の様子に合わせた様々な依頼がありました。利用会員が求めるサービスが安全な活動となるよう吟味しながらマッチングを行いました。

（重点事項実施状況）

令和 6 年度の事業計画の重点事項のうち、職員のマッチング力向上の為、依頼聞き取り時の留意点等を学習し、理解を深めました。安全な活動の為の会員への働き掛けは会報誌にて行いました。災害対策面では、分室での避難経路や方法の確認を改めて行い、意識を高める事が出来ました。

2 良質なサービスの提供

（1）サービス内容

①提供会員に関する業務

年 4 回開催した提供会員養成講座では、新たに 72 名の方が登録をされました。年 2 回の地域交流会では、7 月にメイクアップ講座を行い、14 名の参加者と身だしなみについて知る事が出来ました。2 月には 18 名参加し、声を使った遊びについての内容で、声のもつ力を再実感出来ました。また交流時間では、活動に関する困りごとや工夫点等の意見交換を行う等、会員同士の交流を図る事ができました。フォローアップ講習会では救急救命講習を実施し、24 名が参加しました。

②利用会員に関する業務

令和 6 年度は、利用会員の年間登録数 417 名となりました。前年度から登録方法が変更し、Web で動画視聴後、書類提出をする事で登録可能となり、必要になった際に登録する方が多くなりましたが、登録者の多い時期等は例年と変わらない傾向にあります。登録時の利用会員登録説明会も参加人数は減少していますが希望者はおり、利用者が登録方法を選択出来る形となりました。

③その他の業務

会報誌は全会員向け 2 回(6・10 月)、提供会員向け 1 回(1 月)発行しました。例年、提供会員向けも 2 回発行していましたが、郵送費の改定により料金が高くなった為、発行回数を減らしました。

プログラムの実施状況

4 月	—
5 月	—
6 月	提供会員養成講座、会報誌発行
7 月	地域交流会
8 月	—
9 月	提供会員養成講座
10 月	提供会員養成講座、会報誌発行
11 月	フォローアップ講習会
12 月	—
1 月	会報誌発行
2 月	提供会員養成講座、地域交流会
3 月	更新手続き

(2)事業の普及及び会員拡大

①事業の普及

今年度も提供会員養成講座を大森地区と蒲田地区で各 2 回ずつ開催しました。前年度よりも登録者が増加しましたが、受講が終わらずに登録に至らない方もいました。また、2月の登録人数が平成25年度以降過去最少人数であったことから、今後の広報活動のさらなる強化が課題となります。

(3)利用状況

①サービスの提供

令和 6 年度の利用総延べ人数は 9,078 名で、前年度より大幅に減少傾向にあります。活動内容の割合は例年と変わらない傾向で、特徴的としましては療育施設への送迎依頼が例年より多かった点です。問い合わせ等も数多くあり、今後も増加する事が予想されます。依頼数は前年度と変わらず 484 件でした。事前打ち合わせ数は 265 件、書類追記対応は 72 件で、どちらも前年度よりやや減少しています。例年、年度末は繁忙期ですが、令和 6 年度は 3 月に依頼が多く、繁忙期の時期が遅く始まりました。その影響で事前打合

せの件数の減少しているものと考えられます。

②利用者の状況

利用児童の年齢は、例年通り乳幼児が多くを占めており、0歳児の割合が増え、2歳児の割合が減少しています。4～5歳児の割合は増加しましたが、小学1年生の活動は前年度同様に減少しています。保護者の在宅ワークの増加に伴い、ここ数年の傾向としては送迎のみの活動が増加しています。

（提供・両方会員の傾向）

提供・両方会員の傾向としては、半数以上の方が60代以上となりました。親世代の介護による休会者も多く、また様々な雇用形態が可能となり、70代の方も働いている方が多くなった現状、サポートの担い手が減少傾向にあります。

○提供会員年齢別人数

20代	6人
30代	13人
40代	59人
50代	190人
60代	210人
70代以上	102人

○利用児童年齢別人数

0歳	233人
1歳	511人
2歳	998人
3歳	1,326人
4歳	1,385人
5歳	1,430人
6歳	969人
7歳	601人
8歳	1,043人
9歳	348人
10歳	146人
11歳	85人
12歳	3人
13歳	0人
未振分け	0人
合計	9,078人

○活動利用人数

保育施設の送り(預かりを含まない)	1,692 人
保育施設の迎え(預かりを含まない)	2,938 人
保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	64 人
保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	542 人
子どもの習い事等の預かりや送迎	1,686 人
保護者等のリフレッシュのための預かり	134 人
小学生の預かりや送迎	1,054 人
学童保育施設の迎え及び帰宅後の預かり	201 人
産前(出産)産後の兄弟姉妹の預かりや送迎	183 人
子どもの病気後の預かり	0 人
保育所・学校等の休み時の預かり	85 人
保育所等施設入所前の預かり	10 人
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の預かり	112 人
保護者等の求職活動中の預かり	0 人
保護者等の冠婚葬祭による外出及び学校行事の場合の預かり	25 人
保護者等の買い物等外出の場合の預かり	172 人
保護者等の病気、急用などの場合の預かり	38 人
その他	142 人
マスターにない項目	0 人
合計	9,078 人

③危機管理(事故・災害等)

アクシデント 3 件、インシデント 8 件の報告がありました。アクシデントは、分室への書類持出しと FAX 誤送信があり、職員の確認不足等によるものでした。また、送迎活動時の提供会員の怪我が発生し、保険適用となりました。今後は業務ごとに複数人でチェックするよう留意していきます。

インシデント報告は、引き続き職員のケアレスミスによるものが多かった為、一つひとつ丁寧に作業を行うよう職員間にて度々確認をいたしました。今後も課題として意識向上を目指します。

○災害対策(防災訓練)

実施日 ／時間	訓練内容						場所／実施方法	参加人数
	初期 消火	通報	避難	総合	BC P	その他		
実施なし								

④要望等解決（苦情解決）

相談 0 件、要望 3 件、苦情 1 件でした。要望 2 件は、提供会員からの提出物のデジタル化に関する内容で、大田区にも情報共有しました。要望 1 件と苦情 1 件は地域の方から送迎活動の注意に関する内容で、会員にも注意喚起を行いました。安全な活動の為の会員への働き掛けは今後も課題となり、次年度も引き続き取り組みます。

⑤情報管理（個人情報保護・情報開示・セキュリティ）

毎月、情報管理に関する目標を掲示し、職員会議でも確認する等、職員一人ひとりが意識できるよう働きかけました。また、個人情報の取り扱いに関する留意事項を確認し、適切な処理が行われるよう周知をしました。

(4)総務委員会

○建物・設備維持管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4 月 9 日 12 日	定期清掃 非常通報装置	床清掃 定期保守点検
5 月 11 日 14 日 26 日	特別清掃 定期清掃 空調機洗浄作業	窓ガラス、網戸、格子柵、空調機フィルター 床清掃 空調機洗浄
6 月 5 日 11 日 13 日 15 日	自動ドア点検 定期清掃 エレベーター点検 害虫駆除	定期保守点検 床清掃 定期保守点検 定期保守点検
7 月 9 日	定期清掃	床清掃
8 月 1 日 13 日	シャッター点検 定期清掃	定期保守点検 床清掃
9 月 8 日 8 日 10 日 12 日 19 日	電気設備点検 消防用設備点検 定期清掃 トイレ点検 エレベーター点検	定期保守点検 定期保守点検 床清掃 定期保守点検 定期保守点検
10 月 6 日 8 日 15 日	排水管清掃 定期清掃 非常通報装置	定期保守点検 床清掃 定期保守点検

24日	トイレ修繕	トイレ修繕
28日	トイレ修繕	トイレ修繕
29日	自動ドア点検	定期保守点検
11月9日	特別清掃	窓ガラス、空調機フィルター、照明、ブラインド
12日	定期清掃	床清掃
20日	殺虫トラップ点検	定期保守点検
24日	電気設備点検	定期保守点検
12月10日	定期清掃	床清掃
12日	エレベーター点検	定期保守点検
22日	空調機清掃作業	空調機清掃
1月14日	定期清掃	床清掃
27日	ガスヒートポンプ定期点検	定期保守点検
2月10日	定期清掃	床清掃
11日	樹木剪定	樹木剪定作業
3月2日	消防用設備点検	定期保守点検
4日	トイレ点検	定期保守点検
11日	定期清掃	床清掃
14日	エレベーター点検	定期保守点検
22日	特別清掃	窓ガラス、空調機フィルター、照明、ブラインド

○修繕

ファミリー・サポートの事務局は大田区子ども家庭支援センター内の一室にある為修繕等は建物内全体で行われます。

○保健衛生

今年度も引き続き、感染症予防の消毒を徹底し、流行している時期に関しては事前打ち合わせの際にマスク着用を行う等、感染拡大防止に努めました。

令和 6 年度

事 業 報 告

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 3 1 日

社会福祉法人 大洋社

大 森 保 育 園

目 次

1. 運営のあらまし	1
「一年を振り返って」	
2. 保育事業実施実績	2
① 名称及び所在地	2
② 実施事業の内容	2
③ 利用児童数実施実績	2
④ 延長保育利用児童数実施実績	2
3. 保育内容、年間指導計画、環境	3
4. 職員関係	3
① 職員配置数	3
② 採用・退職	4
③ 各部分担の反省・感想	4
④ 職員会議実施実績	7
⑤ 保育会議実施実績	8
⑥ 職員研修実施実績	11
⑦ 細菌検査実施実績	12
⑧ 職員健康診断実施実績	12
5. 児童処遇関係	13
① 健康管理実施実績	13
② 健康診断実施実績	13
③ 歯科検診実施実績	13
④ 健康指導実施実績	13
⑤ ヒヤリハット・ケガ簿	14
⑥ 事故影報告書	14
⑦ 給食実施実績	14
⑧ 年間行事実施実績	14
6. 安全管理関係	18
① 災害・防犯訓練実施実績	19
② その他の訓練実施実績	19
③ 設備等点検実施実績	19

7. 保護者の関係	20
① 保護者懇談会実施実績	20
8. 自主事業関係	22
① パートナー保育登録実施実績	22
② 緊急一時保育実施実績	22
③ 一時保育実施実績	22
④ 体験保育実施実績	23
⑤ 年末保育実施実績	23
⑥ 育児講座実施実績	23
⑦ 老人ホーム交流会実施実績	23
9. 実習生・ボランティア・小中高大学生等受入関係	23
① 実習生受入実施実績	23
② ボランティア受入実施実績	24
③ 中学生・高校生職場体験受入実勢実績	24
10. 中長期計画・施設設備整備関係	24
① 給湯器老朽化に伴う入替	24
11. 苦情解決・対応について	24
① 利用者からの苦情解決の取り組み	24
② 苦情の件数	24
12. 東京都福祉サービス第三者評価	24
① 東京都福祉サービス第三者評価受審	24

1・運営のあらまし「一年を振り返って」

令和6年度は、保育士3名、調理師1名を採用し、退職者は前年度、調理員1名のみとここ十数年では久しぶりに保育士の退職者が無く、職員数を確保してのスタートとなりました。0歳児定員数を前年度10名から6名へ変更して運営し、その間に保育士の補充をしてきましたが、少数できめ細かい保育が行えることと、産休育休を取得している保育士やこれから産休を取得予定の保育士もいることから、定員数の変更をせずに0歳児の定員数を6名といたしました。

4月の新入園児は、0歳児4名、1歳児4名を受け入れ、全園児数合計54名となりました。年度途中での転居等で例年には珍しく、複数人の退園がございましたが、その分、入園もあり10月には定員数の56名のお子様をお預かりし、一年を過ごしてまいりました。

前年度に実施した働き方改革が功を奏し、職場環境はとても良く整い始めております。殆どの職員が残業をする事無く、定時で帰宅する事が出来ているにもかかわらず、各行事も充実した内容で実施する事が出来ており、また、日々の保育活動も少しずつ幅を広げて来ております。その様な中、毎年、年長児対象の林間保育において、今年度、初めて障害のある児童の参加について、もし山中での事故等が有ってはならないと保護者に相談し参加を見合わせて頂きました。一人だけお泊り保育を経験させてあげられない事について職員間で話し合い、保育園で一泊するお泊り保育を新たに企画し、年長児全員で8月末の土曜日に保育園にて一泊のお泊り保育を行いました。翌日に参加している年長児の保護者とご家族で集まって、「みんなでカレーライス作り」を行い、昼食として頂きました。初めての行事となりましたが、参加した園児、保護者や家族からは、「とても楽しい時間、良い行事でした」と大好評に終えることが出来ました。このことも、働き方改革によって職員の心にゆとりが出来、子ども一人ひとりを思う気持ちから、始まった行事であり、とても良い方向へ機能し始めております。

令和6年度は、第三者評価受審年度でありましたので、早々に取り組み準備して行き、12月4日には東京都福祉ナビゲーションへ公表することが出来ました。

令和6年度末において退職する職員が無いことから、職員にとっても働きやすく大切にされていると実感できる職場環境へと整備されてきております。子ども達とその保護者、皆が大切にされていると実感できる保育園となれるよう、これからも職員一同、努めてまいります。

2・保育事業実施実績

① 名称及び所在地

社会福祉法人 大洋社 大森保育園
 東京都大田区大森南4丁目10番4号
 TEL 03-3741-7645

② 実施事業の内容

- ・保育所事業、定員56名
- ・延長保育事業、定員20名
- ・年末保育事業

③ 利用児童数実施実績（定員数：もも16名・さくら20名・うめ20名）

0歳児定員数を6名へと変更した。5歳児は昨年度より1名欠員の9名から年度途中での入退園が少し多い年となった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
もも	14	14	15	16	16	16	16	16	16	16	16	16	187
0歳児	4	4	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	67
1歳児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
さくら	20	19	19	19	19	19	20	20	20	20	20	20	235
2歳児	10	10	10	10	9	9	10	10	10	10	10	10	118
3歳児	10	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	117
うめ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
4歳児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
5歳児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
合計	54	53	54	55	55	55	56	56	56	56	56	56	662

④ 延長保育利用児童数実施実績（定員数：20名）

延長保育定期利用を申請する児童が年々減少している傾向にあります。また、臨時利用児童も少なく、働き方改革の影響もあり、延長保育を利用する児童は全体的に減少傾向にある。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施 日数	21 日間	21 日間	20 日間	22 日間	21 日間	19 日間	22 日間	20 日間	20 日間	19 日間	18 日間	20 日間	243 日間
申請児	9	9	5	7	3	6	7	11	9	10	4	10	90

臨時	5	2	3	13	4	8	15	12	20	15	17	17	131
合計	14	11	8	20	8	14	22	23	29	25	21	27	221
一日 平均	0.6 名	0.5 名	0.4 名	0.9 名	0.4 名	0.7 名	1.0 名	1.2 名	1.5 名	1.3 名	1.2 名	1.4 名	0.9 名

3・保育内容、年間指導計画、環境

保育所保育指針を根底に登園の保育の理念、方針を基に年間指導計画案、月案、週案を作成した。子ども達一人ひとりに寄り添い、主体性を大切にしながらも協調性、規範意識が育まれるように時には一斉保育も取り入れて活動を展開させてきた。その結果、落ち着いた姿が見られていた。

【*各クラスカリキュラム・記録等参照】

4・職員関係

① 職員配置数

職 種	国定数	都・区加算		基準外配置	合 計
		常勤	非常勤		
計 算 上 の 職 員 数 (必 要 数)					
園 長	1				1
保 育 士	9	1	1		11
調 理 員 等	2	1	1		4
看 護 師	1				1
嘱 託 医			1		1
嘱 託 歯 科 医			1		1
合 計	13	2	4		19
在 籍 職 員 数					
園 長	1				1
幼児部主任保育士	1				1
乳児部主任保育士	1				1
幼児部副主任保育士	1				1
乳児部副主任保育士	1				1
保 育 士	5	1	1	5	12
栄 養 士	2				3
看 護 師	1				1

調 理 員 等		1	1		1
保育アシスタント				2	2
嘱 託 医			1		1
嘱託歯科医			1		1
会 計 士				1	1
社 労 士				1	1
合 計	1 3	2	4	9	2 8

② 採用・退職

採用は、保育士 3 名、調理員 1 名となる。退職者はなし。

区 分	職 種	人 数	日 付
採 用	保育士	3 名	令和 6 年 4 月 1 日
	調理師	1 名	令和 6 年 4 月 1 日

③ 各部分担の反省・感想

各部署の担当は一年を振り返り、新年度の担当へ引き継ぎ・申し送りができるよう以下のように総評を行なう。

部 署 名	目 標	反省・感想
地域交流部 4 名	☆ 保護者、地域の方々、職員の交流を深め、皆が楽しめる行事計画をする。 ☆ 行事やその準備が、円滑に進むように、全職員に分かりやすく知らせ、協力し合って作り上げていく。 ☆ 多くの保護者にたたえる賞を授与できるよう企画・運営をする。 ☆ 地域の方が参加しやすい行事を企画運営し、子育て支援部と連携する。	☆ 連絡会議で進行状況を報告した為、皆で協力して進めてこられた。 ☆ 観劇会の劇団が見つからず、日程のスケジュールが合う劇団にお願いをした。来年度は 4 月中に決めておいた方が良い。
子育て支援部 4 名	☆ 地域で子育てをしている家庭が気軽に保育園を利用したり、親子で講座に参加したり出来るように計画をする。	☆ パートナー保育登録者へ行事のおたよりを送付し、参加してもらえた。

	☆ 育児講座では、保護者に子育ての楽しさを伝えていけるようにする。また、企画・計画に当たっては、連絡会議等でこまめに進捗状況等を報告し、計画性を持って取り組み、全職員で準備が出来るようにする。 ☆ 保護者や地域の方々との交流を深め、気軽に相談できる雰囲気を作ったり、環境を工夫したりする。また、社会資源の活用、アドバイス等ができるように職員が学び、共有し支援に努める。	☆ 育児講座では、講師の決定に検討し、現代の問題になっている話題について提供できた。 ☆ パートナー保育登録者が一組増えた。
研修部 2名	☆ 保育園の理念・方針、また、保育所保育指針から、自身や園の役割を理解する。 ☆ 一人ひとりが積極的に意見を出せる会議を目指す。 ☆ 職員同士の意見を積極的に交換しながら、子ども理解に繋がる会議を目指す。 ☆ 研修会に参加したり、学びを深めたりしながら、保育の質を高め、保育士としての意識の向上を図る。	☆ キャリアアップ研修を計画的に受講することが出来た。 ☆ 会議では、職員の意見交換を積極的に行えた。 ☆ 救命講習は、順番に参加する事が出来た。
災害・防犯対策部 3名	☆ 非常災害時に落ち着いて速やかに避難行動できるよう、常日頃から、様々な想定をした訓練を実施する。 ☆ 各職員が、災害や防犯への意識を高く持ち、日々の職務につけるよう働きかける。	☆ 昼食、おやつで備蓄品の水を使用したり、備蓄品を提供したりした。 ☆ 実際に備蓄品で作る時に子ども達に詳しく伝えられると良か

	☆ 防犯訓練では、不審者対応の様々な知識を深めていく為、訓練が実施できるよう、計画性を持って準備を行なっていく。	った。
環境美化部 3名	☆ 日々子ども達が、清潔で安全な環境の中で過ごせるように、職員一人一人が取り組めるように働きかけていく。 ☆ 年間を通して、季節に合った自然や身近なもの等、家庭的な雰囲気となるような装飾を、園内外に取り入れていく。 ☆ 子どもと一緒に、身近な野菜や、四季折々の植物を育てたり、生き物の世話をしたり出来るよう、職員同士協力していく。また、知識を身に付け、わかりやすく伝えていく。	☆ 季節にあった物を飾って行った。 ☆ かぶとやひな人形を飾るタイミングが分からず、他の職員に教えてもらいながら行ったので、早めに取り掛かれた。 ☆ 花壇の雑草は、子ども達と一緒に رفتり、保育者もやったりし、きれいに保つことが出来た。 ☆ 絵本コーナーの整理、掃除は、乳児部の職員が行ってくれた。また、絵本の破損部分は見つけたら直していくようにした。
写真管理・ホームページ部 3名	☆ 写真販売方法を前年度に変更した。写真販売がスムーズに行えるよう進めて行く。 ☆ 気軽に楽しんで見る事ができる、分かりやすいホームページ作成を心掛ける。	☆ 毎月5日までに前月の様子を入れてもらう事になっていたが、声掛けが遅くなっていた。また、追加で入れてあることもあり、声掛けと確認をしっかりとすれば良かった。

		☆ ホームページは、園だより記載に当たり、園長に更新してもらった。
--	--	-----------------------------------

④ 職員会議実施実績

全職員が自分の意見を発言できるように進め、一つ一つ話し合いで決めて行った。また、次年度の職員配置についても職員の話し合いのもと、最終、主任職員で確定させた。そうする事により、一人ひとりが保育園運営に係わっている自覚が芽生え、好循環している。【* 職員会議録参照】

日 付	会 議 名	内 容	人数
4 月 6 日	職員会議	令和 6 年度事業計画について 業務目標制度等について 自衛消防計画・災害時避難経路確認 遠足について その他連絡事項	17
5 月 11 日	職員会議	初期消火・通報訓練 業務目標設定シート各自目標発表 その他連絡事項	17
6 月 10 日	職員会議	保育参加、試食会の振り返り 保健研修・安全管理 事業報告について その他連絡事項	16
7 月 6 日	職員会議	防犯研修 電話対応 その他連絡事項	15
9 月 7 日	職員会議	防災研修 ファミリースポーツデーについて 処遇改善等加算手当について 観劇会について その他連絡事項	15
10 月 5 日	職員会議	不適切保育について研修 ファミリースポーツデーについて 冬季賞与について その他連絡事項	15

11 月 9 日	職員会議	保険研修 もちつき活動展について 冬季賞与について その他連絡事項	12
12 月 7 日	職員会議	もちつき大会、活動展振り返り 環境美化研修 その他連絡事項	16
1 月 18 日	職員会議	第三者評価振り返り 新年度クラス配置について 業務目標、実績シートについて 発表会について その他連絡事項	16
2 月 8 日	職員会議	業務目標・各部署より振り返り 新年度計画案（クラス配置、担当部署） その他連絡事項	14
3 月 1 日	職員会議	発表会の振り返り 新年度各部署担当について 規程改定について その他連絡事項	15

⑤ 保育会議実施実績

事業計画を基に研修部が企画・実行。特に子どもの姿や週案の振り返りの時間を多く持ち、職員間での共通理解に努め、子どもたちにより良い環境を提供する。

【＊保育会議録参照】

日 付	会 議 名	内 容	人数
4 月 18 日	幼児部保育会議	子ども理解と保育の振り返り 安全対策について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	11
4 月 25 日	乳児部保育会議	週案の振り返り 安全対策について その他連絡事項	8
5 月 16 日	幼児部保育会議	週案の振り返り 現状報告 クラスの業務目標	11

		ヒヤリハット報告 その他連絡事項	
5 月 23 日	乳児部保育会議	子どもの理解と保育の振り返り クラス目標報告 その他連絡事項	8
6 月 20 日	幼児部保育会議	週案の振り返り 夕涼み会の内容について プール遊び、水遊び、について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	11
6 月 27 日	乳児部保育会議	週案の振り返り 水遊びの確認 その他連絡事項	8
7 月 18 日	幼児部保育会議	週案の振り返り 現状報告 ファミリースポーツデーについて ヒヤリハット報告 その他連絡事項	11
7 月 25 日	乳児部保育会議	週案の振り返り ファミリースポーツデーについて その他連絡事項	9
9 月 19 日	幼児部保育会議	子ども理解と保育の振り返り ファミリースポーツデーについて 令和 7 年度行事について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	10
9 月 26 日	乳児部保育会議	Ⅱ期の振り返り 週案の振り返り 来年度の行事案について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	9
10 月 18 日	幼児部保育会議	週案の振り返り 現状報告 活動展について	9

		ヒヤリハット報告 その他連絡事項	
10月24日	乳児部保育会議	週案の振り返り 活動展について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	9
11月20日	幼児部保育会議	週案の振り返り 活動展について 育児に関するアンケート その他連絡事項	9
11月28日	乳児部保育会議	週案の振り返り 活動展について 育児アンケートについて ヒヤリハット報告 その他連絡事項	7
12月19日	幼児部保育会議	週案振り返り 発表会について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	9
12月26日	乳児部保育会議	週案の振り返り 発表会について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	7
1月16日	幼児部保育会議	週案の振り返り 発達記録第Ⅲ期報告 書類の見直しについて その他連絡事項	9
1月23日	乳児部保育会議	子どもの理解と保育の振り返り 指導案Ⅲ期の振り返り報告 ヒヤリハット報告 その他連絡事項	9
2月20日	幼児部保育会議	週案の振り返り クラス目標の振り返り 巡回相談報告	11

		ヒヤリハット報告 その他連絡事項	
2月27日	乳児部保育会議	週案の振り返り クラス目標・1年の振り返り 令和7年度職員配置について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	9
3月13日	幼児部保育会議	進級児申し送り 新入園児申し送り 週案の振り返り ヒヤリハット報告 その他連絡事項	11
3月21日	乳児部保育会議	進級児申し送り 新入園児申し送り 週案の振り返り ヒヤリハット報告 その他連絡事項	9

⑥ 職員研修実施実績

前年度、保育士の退職により保育士不足の中、外部研修を受講する事が難しかった。また、キャリアアップ研修が必要な職員へ順次、受講出来るようにして行くようにしているが、保育士不足により受講が一人となった。

【＊研修報告書参照】

各団体研修会

日 付	内 容	開 催	参加者
5月15日	特定給食施設指導連絡会	大田区保健所	1名
6月13日	安全、保育の質と園内（保護者）コミュニケーション	大田区私立保育園連合会	1名
1月17日	食育を進めるうえでの連携の取り方～それぞれの質を高めるために必要なこと～	大田区私立保育園連合会	1名

キャリアアップ研修

日 付	内 容	開 催	参加者
4月24日	食物・アレルギー対応	母子栄養協会	1名

5月22日			
5月23日			
7月3日	乳児保育	全国企業主導型保育事業 連合会	1名
9月11日	保護者支援・子育て支援	日本保育協会	1名
9月11日	食育アレルギー対応	ちゅーりっぷの心	1名
12月13日	幼児教育	全国企業主導型保育事業 連合会	1名
1月27日	障害児保育	ちゅーりっぷの心	1名
2月17日	幼児教育	ちゅーりっぷの心	1名
3月5日	食育・食物アレルギー	ちゅーりっぷの心	1名

⑦ 細菌検査実施実績

・通常細菌検査

対象（栄養士、調理員、看護師、乳児担任職員他）

検査項目：赤痢菌・サルモネラ・腸管出血性大腸菌 O-157・腸管出血性大腸菌 O-26・腸管出血性大腸菌 O-111

日付	4 ／ 9	5 ／ 14	6 ／ 11	7 ／ 11	8 ／ 16	9 ／ 10	10 ／ 8	11 ／ 14	11 ／ 25	12 ／ 16	1 ／ 15	2 ／ 10	3 ／ 11	合 計
人数	14	14	14	14	14	13	13	14	1	14	14	14	13	166

・調理従事者細菌検査

11月より3月の冬季期間 検査項目：ノロウイルス

【＊細菌検査結果報告書参照】

日付	10 ／ 29	11 ／ 27	12 ／ 18	1 ／ 30	2 ／ 26	3 ／ 26	合 計
人数	3	5	4	4	4	4	24

⑧ 職員健康診断実施実績

検査項目：胸部X線直接撮影・血液検査・心電図検査・生化学検査・オーディオメーターによる聴力検査（1名産休取得中の為未実施）

【＊職員健康診断結果参照】

一般財団法人 産業保健協会	10 月 28 日	22 名
---------------	-----------	------

5・児童処遇関係

① 健康管理実施実績

年間保健計画に沿って園児の健康管理、衛生管理、手洗い指導、歯磨き指導、うがい指導を実施した。またヒヤリハットの集計を行い、事故の未然防止に努めるよう、職員は周知をした。

② 健康診断実施実績：人数

もも組0．1歳児は毎月1回、さくら組2．3歳児・うめ組4．5歳児は4月・10月に実施。

【＊保健記録表、保健日誌、0歳児健康日誌、施設日誌等参照】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
もも	10	12	11	12	9	12	11	9	13	14	13	13	139
さくら	19		1				16	3					39
うめ	16	2					15	1	2		1		37
合計	45	14	12	12	9	12	42	13	15	14	14	13	215

③ 歯科検診実施実績：人数

年2回実施。検診時フッ素添付実施。

【＊保健記録表、保健日誌、0歳児健康日誌、施設日誌等参照】

月 日	も も	さくら	う め	合 計
6 月 20 日	13 名	18 名	19 名	50 名
11 月 21 日	15 名	20 名	18 名	53 名
合 計	28 名	38 名	37 名	103 名

④ 健康指導実施実績

月 日	ク ラ ス	指導内容	人 数
5 月 16 日	3 歳児	手洗い指導	7 名
5 月 29 日	うめぐみ	手洗い指導	15 名
6 月 19 日	3 歳児	うがい指導	9 名
6 月 19 日	うめぐみ	歯磨き指導	15 名
10 月 22 日	3 歳児	手洗い指導	10
10 月 22 日	うめぐみ	手洗い指導	18 名

11 月 20 日	3 歳児	歯磨き指導	8 名
11 月 20 日	うめぐみ	歯磨き指導	16 名

⑤ ヒヤリハット・ケガ簿

各クラスから報告書を提出してもらい毎月集計をし、会議等で報告・周知。

【*ヒヤリハット集計報告・ケガ簿参照】

⑥ 事故怪我報告書

【*園児事故記録簿参照】

・発生件数 1 件

※先天性疾患等によるもので、職員等の不注意等ではないが、通院した為。

クラス	年 齢	事故発生日	事故内容
さくら組 2 歳児	4 歳 5 ヶ月	11 月 28 日	自然脱臼により
うめ組 5 歳児	6 歳 6 ヶ月	3 月 27 日	先天性疾患により

⑦ 給食実施実績

事業計画を基に毎日、楽しみになるように献立を工夫していった。また、喫食の状況を配膳時に確認しながら、調理方法や材料の量等、微調整をして行った。また、アレルギー児への対応を間違えの無いように慎重に全職員が把握出来るようにした。

今年度は、食育の一環として、ジャム作り、ジュース作り、たこ焼きパーティー、ピザ作りを実施した。

【*食育計画・献立表・検食簿・保育日誌等参照】

⑧ 年間行事実施実績

新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行となり、例年通りの行事として開催した。各行事、実施にあたり職員でよく話し合い、アイディアを出し合い、今までにないほど、順調に準備を進めることが出来、ほぼ残業をせずに終わられた事は収穫であった。また、コロナ前の行事内容になり、在園児はもちろん、卒園児とその家族もとても楽しみに参加していた。

【*年間行事記録参照】

月 日	行 事 名	参 加 者 数	内 容
4 月 1 日	入園式	園 児 31 名 保護者 14 名	・ 園長・事業部長挨拶 ・ 新入園児紹介 (在園児よりプレゼント) ・ 新入園児保護者代表挨拶 ・ 職員紹介

			・ 在園児より歌のプレゼント (5 歳児ステージで披露) 「せんせいとおともだち」 「今日からおともだち」 ・ 写真撮影
5 月 17 日	春の親子遠足 葛西臨海水族園	うめ組 4.5 歳児 19 名 さくら組 3 歳児 8 名 保護者 35 名 合計 62 名 (0 歳児、1 歳児、2 歳児は通常保育)	親子遠足の参加学年を 3 歳児、4 歳児、5 歳児とし、保護者参加は制限をせずに実施した。乳児が通常保育となる為、園に残る保育士と遠足引率保育士と少人数での実施となるが、事故等無く無事に終えられた
6 月 8 日	保育参加 ・ 試食会	園 児 46 名 保護者 62 名 その他 18 名	保育参観として実施し、子ども達の保育園での様子を見て頂き、一緒に遊んでもらった。また、試食会は通常開催となり、給食の試食をしてもらう。
7 月 5 日	七夕	園 児 51 名	◎乳児部・幼児部に分かれて開催。 ◎パートナー保育登録者の参加は無かった。 ・ 写真撮影 ・ 七夕装飾の作り方 ・ 歌「きらきら星」 ・ 短冊披露 * 笹は森ヶ崎自治会副改良の荒木氏より紹介を受け、第一中学校近隣の方より頂く。 * 給食は七夕にちなんだ献立を提供。
7 月 20 日	夕涼み会	園 児 53 名 保護者 86 名	地域の方々や卒園児とその家族ととても楽しみに参

		兄 弟 19 名 地 域 95 名	加していた。後日、実施したアンケートにもお礼や楽しかった言葉が沢山書かれていた。
7 月 31 日、 8 月 1 日、2 日	妙義山 林間保育	園 児 9 名 (うめ組 5 歳児)	今年度は通常実施となる。しかし、障害のある園児の参加について、保護者へ相談し見合わせて頂いた。子ども達にとって必要な行事と実施するたびに感じさせられる。保護者もとても期待しているのがよくわかる行事である。
8 月 31 日	お泊り保育 親子でカレー 作り	園 児 9 名 保護者 16 名 その他 10 名	今年度、林間保育の参加を見合わせて頂いた園児に同じお泊りを経験してもらいたく、保育園内にて実施した。翌日の昼食を家族でカレー作りをし、みんなで食べた。
10 月 12 日	ファミリース ポーツデー	園 児 53 名 保護者・他 151 名	大田区立中富小学校校庭にて開催した。午前開催とし、保護者、職員の負担を軽減する事が出来たように感じた。子ども達も保護者も十分に満足していた。最後の演目に親子ダンスを追加し、全員で盆踊りを行い、大変、盛り上がっていた。
10 月 25 日	秋の遠足	園 児 19 名 うめぐみ 4・5 歳児	神奈川県厚木市の畑でサツマイモの芋掘り体験を洗足池保育園の 4 歳児、5 歳児と合同で行った。昼食をぼうさいの丘公園にていただき、

			公園にて遊んだ。
11 月 1 日	焼き芋づくり	園 児 52 名	4 歳児、5 歳児が秋の遠足で収穫してきたサツマイモを園児皆で調理して午後のおやつとして焼き芋を食べた。何個も何個も食べる子どももいた。また、お迎えの保護者にも試食して頂いた。
11 月 6 日	ポニーふれあい体験	園 児 51 名	ポニーふれあい体験は定例行事となり、子ども達もとても楽しみにしている。のちの活動展での共同制作になるほど、子ども達の印象に残っている。
11 月 11 日	育児講座 「幼児で顕在化してきた視力低下と見え方の異常～適切な使い方を子どもも保護者も知ろう～」	保護者 10 名	子どものネットリスク教育研究会代表を講師にお招きし、子どもの視力低下の原因やモバイル等の使い方、与え方について講義を受けた。
11 月 15 日	七五三参拝	園 児 51 名	浦森稻荷神社へ全園児で七五三の参拝に行く。記念撮影をし、千歳あめをもらう。
12 月 7 日	もちつき・活動展	園 児 55 名 保護者 71 名 兄 弟 15 名	例年通りに開催をする。もち米も 25 キログラムをお手伝いのお父さん達とつきあげる。ここ数年、実施していなかったなので、おもちつきを知っているお父さんがほばいなく、初めから教えて行く。久しぶりのおもちの試食

			に皆、喜んでたくさん食べていた。
12月20日	クリスマス会	園児 50 名 保護者 1 名 保護者（サンタ）1 名	乳児は二階にて実施する。 幼児は一階にて行い、サンタクロースから一人一人プレゼントをもらい、記念撮影をする。給食はクリスマスにちなんだ献立を提供。
1月18日	観劇会	園児 27 名 保護者 41 名 兄弟 6 名 地域 4 名	劇団パンタルカによる「おおきなかぶ」「こびとのくつや」を鑑賞する。本物の人形劇を親子で楽しんで鑑賞する。
1月31日	節分・豆まき	園児 54 名	もも組 1 歳児、0 歳児、2 歳児の順に豆まき開始する。 3 歳児、4 歳児、5 歳児は子どもの鬼役も作り、職員と一緒に鬼役を演じ行う。
3月1日	発表会	園児 54 名 保護者 116 名	今年度も二部開催として実施した。乳児、幼児と分けることで、会場が広く使えて良かったが、参加人数が多かった。内容も職員が良く検討し、だらだらと長くならず、コンパクトだが内容のあるものとなった。
3月22日	卒園式	園児 24 名 保護者 20 名 家族 7 名	例年同様に卒園児を送る会として、卒園式が行えた。

6・安全管理関係

非常災害時に備え、火災、地震、防犯訓練を実施した。また、非常災害時の連絡網としてセコム緊急連絡網システムを利用し緊急時連絡を毎年行っている。

【* 自衛消防計画・任務と編成・災害訓練記録簿・各種マニュアル参照】

① 災害・防犯訓練実施実績

日 付	訓 練 種 別	園児	職員	他	合計
4/11	火災・初期消火・通報・避難誘導	40	20	0	60
5/9	地震・初期消火・通報・避難誘導	45	21	0	66
5/9	津波発生時避難歩行訓練	45	21	0	66
6/13	火災・初期消火・通報・避難誘導	48	20	0	68
7/11	地震・初期消火・通報・避難誘導	45	18	0	63
7/25	防犯訓練・通報・避難誘導	45	19	2	66
8/16	洪水・避難	21	15	0	36
8/18	火災・初期消火・通報・避難誘導	43	16	0	59
9/19	地震・初期消火・通報・引渡し	44	17	1	62
10/15	火災・初期消火・通報・避難誘導	51	18	1	70
11/14	地震・初期消火・通報・避難誘導	50	14	0	64
11/14	津波発生避難誘導	50	14	0	64
12/12	地震・火災・初期消火・通報	47	19	0	66
1/9	地震・初期消火・通報	48	18	0	66
2/13	火災・初期消火・通報	47	19	0	66
3/13	地震・初期消火・通報	51	16	0	67
合 計	合計 16 回				

② その他の訓練等実施実績

緊急連絡テストメールの実施、引き渡し訓練に接続。

【* 非常災害訓練実施記録】

日 付	内 容	時 間	参加者数
9 月 19 日	・緊急連絡テスト メール配信 ・引渡し訓練	16：00～19：15	保護者 44 名

③ 設備等点検実施実績

通常の設備点検を、随時日程を調整しながら行なう。

【* 各種記録簿参照】

日 付	点 検 事 項	実 施 者
毎 月	昇降機 ブレーキの安全性確保に関す	日本オーチス・エレベータ 株式会社

	る検査	
4月5日	非常/火災通報装置保守点検	テルウェル東日本(株)
6月28日	消防用設備等（特殊消防用設備等）点検	(株) 奥島産業
7月4日	非常/火災通報装置保守点検	テルウェル東日本(株)
10月7日	非常/火災通報装置保守点検	テルウェル東日本(株)
10月14日	給水設備保守点検	富士水質管理（株）
11月8日	建築設備定期検査	(株) よつばメンテナンス
12月9日	防火設備	(株) 奥島産業
12月9日	消防用設備等（特殊消防用設備等）点検	(株) 奥島産業
1月10日	非常/火災通報装置保守点検	テルウェル東日本(株)

7・保護者の関係

① 保護者懇談会実施実績

対面式とオンライン式の双方を利用し実施した。また、当日、対面式での参加が出来なくなった保護者にはオンライン式も利用し参加出来るように併用した事により全員参加が実現できた。【*各クラス懇談会・説明会記録参照】

月日・方法	懇談会名	参加人数	内 容
4月6日 対面式	ももぐみ 0歳児 1歳児 9時30分から	保護者 10名 職 員 8名	・職員紹介 ・保護者紹介 ・園長挨拶 ・安全計画 ・入園のしおり、年間行事予定 ・質疑応答
4月12日 対面式	さくらぐみ 2歳児 3歳児 17時00分から	保護者 15名 職 員 6名	・クラスの様子 ・職員紹介 ・保護者自己紹介 ・年間行事予定について ・園長挨拶 ・入園のしおり読み合わせ ・質疑応答
4月19日	うめぐみ	保護者 14名	・職員紹介

対面式	4 歳児 5 歳児 17 時 00 分から	職 員 6 名	・ 保護者自己紹介 ・ 園長挨拶 ・ 入園のしおり読み合わせ ・ 年間行事予定について ・ 安全計画について ・ 質疑応答
7 月 6 日 対面式	うめぐみ 5 歳児	保護者 10 名 園児 9 名 ボランティア 3 名 職員 6 名	・ 林間保育説明会
9 月 6 日 対面式	さくらぐみ 2 歳児 3 歳児 17 時 00 分から	保護者 14 名 職員 6 名	・ 子どもの様子 ・ 保護者懇談 ・ ファミリースポーツデーについて ・ 園長挨拶
9 月 7 日 対面式	ももぐみ 0 歳児 1 歳児 9 時 30 分から	保護者 14 名 職員 8 名	・ 子どもの様子 ・ グループ交流 ・ ファミリースポーツデーについて ・ 園長挨拶
9 月 10 日 対面式	うめぐみ 4 歳児 17 時 00 分から	保護者 14 名 職員 3 名	・ クラスの様子 ・ ファミリースポーツデーについて ・ お子様や家庭について懇談 ・ 質疑応答 ・ 園長挨拶
9 月 13 日 対面式	うめ組 5 歳児 17 時 00 分から	保護者 10 名 職員 4 名	・ クラスの様子 ・ ファミリースポーツデーについて ・ 就学に向けて ・ 子どもの興味、関心あること、就学について ・ 質疑応答 ・ 園長挨拶

1 月 24 日 対面式	うめぐみ 5 歳児 卒園懇談会	保護者 12 名 職 員 4 名 大森警察 1 名	・ 交通ルールと防犯について（警察より） ・ 質疑応答 ・ 園長挨拶 ・ 保育所児童保育要録について ・ その他連絡事項
3 月 7 日 オンライン	ももぐみ 0 歳児 1 歳児	保護者 6 名 職 員 8 名	・ 子どもの様子 ・ 保護者挨拶 ・ 職員挨拶 ・ 園長挨拶 ・ 新年度に向けて ・ 年間行事予定案 ・ 入園のしおり（持ち物について）
3 月 11 日 対面式	さくらぐみ 2 歳児 3 歳児 17 時 00 分から	保護者 16 名 職 員 6 名	・ クラスの様子 ・ 保護者挨拶 ・ 職員挨拶 ・ 園長挨拶 ・ 新年度に向けて
3 月 14 日 対面式	うめぐみ 4. 5 歳児	保護者 17 名 職 員 4 名	・ 一年間の成長と振り返り ・ 保護者挨拶 ・ 職員挨拶 ・ 園長挨拶 ・ 各学年連絡事項

8・自主事業関係

業務内容の見直しにより、子育て講座、情報誌の発行等、一部削減をした。

【＊各種子育て支援関係書類参照】

① パートナー保育登録事業実施実績

・ 登録者数 4 世帯 4 名

② 緊急一時保育実施実績

・ 利用実績なし

③ 一時保育実施実績

・利用実績なし

④ 体験保育実施実績

・利用実績なし

⑤ 年末保育実施実績

・29日に2名、30日に1名、園児の申込みあり。園児外の申込みはなかった。

日 付	うめ組	さくら組	もも組	園児外	合計
12月29日	0名	0名	0名	0名	0名
12月30日	0名	1名	0名	0名	1名

⑥ 育児講座実施実績

親子で楽しめる講座を考え絵の具を使って親子で楽しく学べる講座を実施した。

【＊育児講座、録参照】

日 付	内 容	参加人数
11月11日	育児講座 「幼児で顕在化してきた視力低下と見え方の異常～適切な使い方を子どもも保護者も知ろう～」	保護者 10 名

⑦ 老人ホーム交流会実施実績

・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施実績なし

9・実習生・ボランティア・小中高大学生等受入関係

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となり、実習生等の受入れを再開した。

【＊各受入簿参照】

① 実習生受入実施実績

大学、短期大学、養成校より実習生の受入れ、指導。

期 間	日 数	人 数
5月7日～5月28日	4日間	1名
6月4日～6月25日	4日間	1名
9月17日～9月18日	2日間	1名
10月8日～10月29日	4日間	1名

11月5日～11月26日	4日間	1名
--------------	-----	----

② ボランティア受入実施実績

受入実績なし

③ 中学生・高校生職場体験等受入実施実績

期 間	日 数	人 数
10月9日～11日	3日間	4名

10・中長期計画、施設設備整備関係

① 学校 110 番非常通報装置入替

期 間	内 容
12月 15日	給湯器老朽化に伴う入替

11・苦情解決・対応について

- ① 苦情解決・対応については、入園オリエンテーション時や4月の懇談会時に入園のしおりを用いて説明する。また、玄関先等に投書箱の設置やホームページ内に掲示板を設置し、広く受付を実施している。

・苦情等を解決するための体制

- ・苦情等解決責任者 園長
- ・苦情等受付担当者 主任
- ・第三者委員 2名

- ② 苦情の申し出件は無く、日々の送迎時等に保護者とは良く各担任職員が会話をしている。

苦情の件数	0件
-------	----

12・東京都福祉サービス第三者評価

- ① 契約・事前説明 5月23日
- ② 職員説明 7月23日
- ③ 訪問調査 10月17日
- ④ 評価結果報告 11月26日
- ⑤ 福祉ナビゲーション公表 12月4日

令和 6 年度

事 業 報 告 書

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

社会福祉法人 大洋社

洗 足 池 保 育 園

目 次

1. 運営のあらまし	1
「一年を振り返って」	
2. 事業の概要	2
① 名称及び所在地	3
② 実施事業の内容	3
3. 保育内容・年間指導計画・環境	3
4. 給食関係	3
5. 職員関係	3
① 職員配置数	3
② 採用、退職	3
③ 各部分担の反省・感想	4
④ 職員会議実施実績	6
⑤ 保育会議実施実績	8
⑥ 職員研修実績	9
⑦ 細菌検査実績	10
⑧ 職員健康診断実績	10
6. 児童処遇関係	10
① 利用児童数実績	11
② 延長保育利用児童数実績	11
③ 健康診断実施実績	11
④ 歯科検診実施実績	11
⑤ 年間行事実施実績	12
⑥ 保護者懇談会実施実績	14
7. 安全管理関係	15
① 災害訓練実施実績	15
② その他の訓練等実施実績	16
③ 設備等点検実施実績	16
8. 自主事業関係	16
① パートナー保育登録事業実績	16
② 緊急一時保育実績	16
③ 年末保育実施実績	16
④ 育児講座実施実績	16

9. 実習生・ボランティア・小中学生受入関係	・ 16
① 実習生受入実績	・ 16
10. 中長期計画、施設設備整備関係	・ 16
11. 苦情解決・対応について	・ 16
12. 危機管理、ヒヤリハットについて	・ 16

1. 運営のあらまし「一年を振り返って」

令和 6 年度は、1 歳児 9 名の新入園児を迎え、その後 5 月に 4 歳児 1 名、9 月 5 歳児 1 名を迎え 45 名で過ごし、3 月には、9 名の卒園児を無事に送り出すことができ、行事の開催も一つひとつ職員同士で話し合い、子ども達の健やかな成長と様々な経験ができるようにという想いを軸にし、行事や保育活動の制限もなく、活動もしやすく、本来の子ども達が経験すべき日々が戻ってきました。

今年度は、3 年に一度の福祉サービス第三評価を実施しました。回収率は 69.2%と高く、園に対する総合満足度においては『大変満足』が 100%という結果となりました。日々、職員が子ども達の成長を第一に愛情をもって保育や活動を行っている努力が評価され、大変嬉しく思っております。引き続き、子ども達が真に行いたい遊びや興味を敏感に捉えながら、各クラス担任同士で話し合う機会を多く設けるような工夫をしたりし、保育者が少し先の未来を予測し、想像して活動に取り入れていき、子ども達一人ひとりが多くのことを経験し、学びが深くなるように寄り添い、共に日々の生活を楽しみながら過ごしていきたいと思います。子ども達の生活を通して、保護者とも更なる信頼関係を深めていけるよう『第二のおうち』として、当園の理念・方針に沿いながら、今の時代にあった乳幼児期からの発達や学びの連続性、小学校との接続に向けて等、子ども達にとっての人格形成の大切な時期を担っていることをよく理解して職員も成長できる職場環境を整えながら、努めていきたいと思います。

在園児はもちろん地域全体に目を向け、今後も、社会福祉法人で運営している保育園という専門機関として、地域貢献に引き続き力を注いでいきたいと思

2. 事業の概要

①名称及び所在地

社会福祉法人 大洋社 洗足池保育園
東京都大田区南千束3丁目24番15号
Tel 03-3748-7088

②実施事業の内容

- ・保育所事業、定員45名
- ・延長保育事業、定員15名
- ・年末保育事業
- ・緊急一時保育事業
- ・体験保育事業
- ・育児相談事業
- ・地域活動事業

3. 保育内容・年間指導計画・環境

各クラス、理念・方針、保育目標等を基に年間指導計画・月案・週案・発達記録・ポートフォリオ・ドキュメンテーション・おたより等を用いて、園児一人ひとりに丁寧に関わり、振り返り、たいわを重ねて保育を行う。また、研修で得た学びを職員間で共有し、実践する。日々子ども達が楽しめる環境構成に取り組んだ。

※各クラスカリキュラム、記録等参照

4. 給食関係

食育を見据え、年間指導計画を作成。様々な食材や行事食に触れられるように栄養士会議や献立、給食会議を行い、企画・実行した。年一回の保護者参加の試食会を実施し、給食の味付けを知ってもらった。

食物アレルギーを持つ子どもを対して、個別の献立を作成。保護者にも確認を取り発行する。提供の際のマニュアルを複数人で共有し、写真付きトレイや食器や机を分け、提供している。

今年度は食や食材に興味を持つ子どもが多く、ジャム作りやシロップ作りピザ作り等の子ども達が興味を持った物を作り、試食した。

※食育計画、各企画書等 参照

5.職員関係

①職員配置数

職 種	国定数	都・区加算		基準外配置	合 計
		常勤	非常勤		
計 算 上 の 職 員 数 (必 要 数)					
園 長	1				1
保 育 士	6	1	1		8
調理員・栄養士	2				2
嘱 託 医			1		1
嘱託歯科医			1		1
合 計	9	1	3		13
在 籍 職 員 数					
園 長	1				1
主任保育士	1				1
副主任保育士	2				2
保 育 士	4	1	1	3	9
栄養士・調理員	1		1	1	3
嘱 託 医			1		1
嘱託歯科医			1		1
事務兼保育士				1	1
会 計 士				1	1
社 労 士				1	1
合 計	9	1	4	7	21

② 採用・退職 ・該当なし

③ 各部分担の反省・感想

各部署の担当が一年を振り返り、次年度の担当へ引き継ぎが円滑に行える。

部 署 名	目 標	反省・感想
地域交流部 4 名	☆ 保護者と共に行事を盛り上げていけるよう、当日までの雰囲気作りを充実させる。 ☆ 地域の方々が、様々な行事を楽しみにし、園児や職位運と交流できる場となるようにする。 ☆ 保護者・地域の方々と行事を通して積極的に交流し「共育て」の関係を深めていく。	☆ 各クラスドキュメンテーションを配布したり、行事の様子を掲示したりし、クラスの様子を伝えられてよかった。 ☆ 地域との交流の場を持てなかったのも、ホームページ等を通して伝えられるとよかった。 ☆ 部内では仕事の分担がうまくできた。 ☆ 掲示板の装飾は毎月季節感のあるものに変えることができた。 ☆ 地域の方を行事へ招待することを再開し、ご好評頂いた。
子育て支援部 2 名	☆ 保護者の悩みや疑問を把握し、相談しやすい環境を作り、子育てについて共有する。 ☆ 内容が伝わるような魅力的なポスター作りをし、子育て支援の活動内容を多くの方に知ってもらう。 ☆ 参加者が増えるよう、地域の方に合わせた魅力的な講座内容にする。また、保育園ならではの玩具で遊べる機会も多く設ける。 ☆ 子ども一人ひとりの現状を把握し、主体的な保育ができるようにする。 ☆ 職員一人ひとりがきちんと考え、学びある会議内容にする。	☆ 育児強化月間の際に育児講座やアンケートを通して保護者の悩みや疑問を共有できたので良かった。 ☆ 育児講座はパートナー保育登録者数が減少しているが、ZOOMでなく来園して参加いただける形でできれば良い。 ☆ パートナー保育登録者への行事の案内を見直していく。

	☆ 保育所保育指針を基に自園の理念や保育目標に合わせた保育が行えるようにする。	
研修部 2名	☆ 各年齢の発達段階をきちんと捉え、一人ひとりが意欲的に活動できる保育を目指す。 ☆ 職員一人ひとりがきちんと考え、積極的に意見を出すことの出来る会議を実施する。 ☆ 実践的な研修を重ね、保育の質を高める。	☆ 子ども一人ひとりの現状の把握は「子どもの姿」から引き続き、把握することができた。 ☆ 職員が少ない年度であった分お互いの顔をしっかりと見て話し合うことができた。コミュニケーションが例年より多く取れたと思う。 ☆ 外部研修に参加できるよう情報提供を行えると良かった。 ☆ 研修報告ができていなかったことを反省する。
災害・防犯対策部 2名	☆ 地震、火災、水害等様々な想定での実践的な訓練を重ね、災害時に迅速に対応できるようにする。 ☆ 園児の安全確保のために、日頃から各部屋の点検をし、災害防止に努める。 ☆ 様々な状況に応じた、不審者や侵入者への対処方法を身に付け、防犯に努める。	☆ 起震車や煙体験を取り入れることができた。 ☆ 非常食の買い替えを行った。 ☆ 災害備蓄品の補充ができた。 ☆ 災害訓練はもっとさまざまな時間帯・状況で行えると良かった。 ☆ 災害だけでなく、防犯対策の訓練も子どもがいる状況で行えると良かった。 ☆ 災害防止の点検を毎月行えていなかったなので、反省する。
環境美化部 2名	☆ テーマに則した季節感のある装飾を行う。 ☆ 四季折々の花を子どもと一緒に育て、園舎内外に咲かせる。 ☆ 野菜や果物、草花を子ども達と一緒に育て、育つ過程や命の大切さを伝	☆ テーマに沿った装飾を毎月行えた。乳児クラスが作品を階段に展示することで華やかになった。 ☆ 部内で園舎内外に花を植えることはできたが、各クラスへの働きかけができなかった為、反省する。

	える。 ☆ 園内を清潔・安全に保つ。	☆ 掃除チェックリスト見直し、わかりやすくなった。 ☆ 砂場の消毒を定期的に行えるとよかった。
ホームページ 写真部 2名	☆ 園の特色、雰囲気が伝わるようなホームページを作成する。 ☆ 多くの方に見て貰えるようなブログを作成する。 ☆ 園での活動内容を、写真掲示を用いて保護者へ伝え、理解を深める。 ☆ 販売写真は、速やかに掲示し、渡せるようにする。	☆ 園の様子や行事の様子など少し更新が遅れることがあったが、更新できた。 ☆ 作業計画表は必要に応じて見直し、進められた。 ☆ 写真の販売についてスムーズに行えた。 ☆ ホームページ点検、更新を行えるようにする。

④職員会議実施実績

研修部により企画立案。職員が働く上で必要な社会人としての現任訓練や研修報告の計画、職員同士の質を上げる会議を行う事を目的とする。

※職員会議録参照

日 付	会 議 名	内 容	人数
4月6日	職員会議	・ 現任訓練「電話対応」「来客対応」 ・ 令和5年度事業計画 ・ 自衛消防計画、災害時避難経路について ・ 親子遠足について ・ その他連絡事項	9
5月11日	職員会議	・ 業務目標各自発表 ・ 震災火災対策について ・ 親子遠足について ・ 平日の仕事の見直しについて ・ 実践研修「職員コミュニケーション」について ・ その他連絡事項	8
6月8日	職員会議	・ リスクマネジメント研修「食中毒」 ・ プール遊びについて ・ 夕涼み会について	10

		・令和 5 年度事業報告 ・子どもの権利について ・その他連絡事項	
7 月 6 日	職員会議	・AED の使い方について ・夕涼み会について ・その他、連絡事項	10
9 月 7 日	職員会議	・リスクマネジメント研修「不審者・運動会」 ・ファミリースポーツデーについて ・その他連絡事項	9
10 月 12 日	職員会議	・園内研修「子育て支援自主事業」 ・園内研修「虐待予防について」 ・各部前期の振り返り ・カレー作りについて ・もちつき大会作品展について ・賞与について ・その他連絡事項	9
11 月 9 日	職員会議	・リスクマネジメント「散歩について」 ・衛生美化研修について ・もちつき大会・作品展について ・その他連絡事項	10
12 月 14 日	職員会議	・進級に向けて ・その他連絡事項	11
1 月 18 日	職員会議	・発表会について ・業績評価について ・第三者評価結果について ・その他連絡事項	10
2 月 3 日	職員会議	・新年度職員配置発表 ・発表会について ・各部分担反省・感想と新年度担当決め ・その他連絡事項	10
3 月 1 日	職員会議	・業務目標成果報告 ・規程の改正点報告 ・その他連絡事項	9

⑤保育会議実施実績

幼児部、乳児部で行ない、年２回合同で行う。保育について理解を深めること、実践研修や事例研修を通して、より細分化した議題で話し合う

※保育会議記録参照

日 付	会 議 名	内 容	人数
4 月 25 日	合同 保育会議	・ 各クラス年間指導計画について ・ クラス現状報告 ・ その他連絡事項	9
5 月 23 日	合同 保育会議	・ 実践研修 ・ ヒヤリハット ・ クラス現状報告 ・ 発達支援について ・ その他連絡事項	8
6 月 19 日	合同 保育会議	・ 水遊び・プール遊び ・ 感染症について ・ 研修報告「第一回幼稚園教諭・保育士合同研修会」 ・ 発達支援について ・ ヒヤリハット ・ その他連絡事項	5
7 月 18 日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ その他連絡事項	8
9 月 18 日	合同 保育会議	・ 各クラス前期反省 ・ 発達支援について ・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ その他連絡事項	5
10 月 17 日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ 自己の保育の振り返り ・ その他連絡事項	9
11 月 15 日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ 実践研修「手洗い・嘔吐処理」 ・ 「すぐ手が出てしまう子へ」読み合わせ	8

12月19日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ 研修報告 ・ その他連絡事項	9
1月15日	合同 保育会議	・ ヒヤリハット ・ クラス現状報告 ・ 発達について ・ 書類見直し ・ その他連絡事項	8
2月20日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ その他連絡事項	8
3月26日	合同 保育会議	・ ヒヤリハット年間総括 ・ 今年度反省と新年度計画 ・ 新入園児面接内容報告 ・ コーナー遊び担当者決め ・ その他連絡事項	7

⑥職員研修実績

様々なテーマを自主的に受講するように促し、また、園より推奨し、園の保育、個人の質の向上を目的として受講しできるようにした。

日 付	内 容	主 催	参加者
5月15日	第一回幼稚園教諭・保育士合同研修会	幼児教育委員会	1名
5月15日	特定給食施設指導連絡会	大田区保健所 調布地域健康課	1名
6月14日	栄養士懇談会	大田区保育サービス課	1名
8月28日	アプローチカリキュラム研修会	大田区立幼児教育センター	1名
10月1日～ 11月15日 11月28日	東京都保育士等キャリアアップ研修 乳児保育	一般財団法人保健福祉振興財団	1名
11月13日	第5回幼稚園教諭・保育士合同研修会	大田区立幼児教育センター	1名
1月21日	特定給食施設講習会「給食施設での防災備蓄や災害時の対応について」	大田区保健所 調布地域健康課	1名

1月17日～ 3月21日	心地良い信頼関係をつくる保護者対応 ～職場のチーム力を高めるには～	社会福祉法人東京都 社会福祉協議会保育 部会	1名
1月17日～ 3月21日	乳幼児期の子どもの育ちを考える ～保育って楽しい！明るい未来に向け て保育の魅力を見つめなおす～	社会福祉法人東京都 社会福祉協議会保育 部会	1名

⑦細菌検査実施実績：人数（栄養士、調理員、主任保育士等）

検査項目：赤痢菌、サルモネラ、腸管出血性大腸菌 O-157、腸管出血性 O-26
腸管出血性大腸菌 O-111

実 施 日	4 ／ 26	5 ／ 24	6 ／ 21	7 ／ 25	8 ／ 29	9 ／ 27	10 ／ 24	11 ／ 28	12 ／ 27	1 ／ 24	2 ／ 21	3 ／ 21	合 計
人数	5	5	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5	61

⑧職員健康診断実施実績

検査項目：胸部 X 線触接撮影、血液検査、心電図検査、オーディオメーターに
よる聴力検査、生化学検査

財団法人 産業保健協会	10月31日	14名
-------------	--------	-----

6.児童処遇関係

①利用児童数実績（定員数：ふたば9名・みつば9名・わかば9名・あおば18名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
ふたば	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
みつば	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
わかば	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
あおば	16	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	210
合計	43	44	44	44	44	45	45	45	45	45	45	45	534

②延長保育利用児童数実績（定員数：15名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施 日数	21 日間	21 日間	20 日間	22 日間	21 日間	19 日間	22 日間	20 日間	22 日間	21 日間	18 日間	20 日間	248 日間
定員内	29	25	18	29	17	10	12	15	14	18	15	17	219
臨時	22	19	24	22	23	27	30	28	22	24	20	27	288
合計	51	44	42	51	40	37	42	43	36	42	35	44	507
一日 平均	2 名	1 名	2 名	2 名	2 名	1 名	1 名	2 名	1 名	2 名	1 名	2 名	1.2 名

③健康診断実施実績：人数（嘱託医）

月 日	ふたば	みつば	わかば	あおば	合 計
4月24日	9	8	9	16	42
10月9日	7	8	8	17	40
11月22日	2	0	0	0	2
11月29日	0	0	0	1	1
12月2日	0	1	0	0	1
12月5日	0	0	1	0	1
3月24日	0	1	0	0	1
合 計	18	18	18	34	88

④歯科検診実施実績：人数（嘱託歯科医）

月 日	ふたば	みつば	わかば	あおば	合 計
6月19日	8	8	9	17	42
11月19日	9	8	8	16	41
合 計	17	16	17	33	83

⑤年間行事実施実績

各行事、地域交流部を中心に園全体、利用者と作り上げる行事を行えることを目指した。行事終了後には保護者にアンケートをとり、集計結果を掲示、また、次年度の企画に反映している。※行事記録参照

月 日	行 事 名	参加者数	内 容
4月1日	入園式	園 児 38名 保護者 15名	・ 職員紹介 ・ 新入園児紹介 ・ プレゼント贈呈

			・ パネルシアター ・ 在園児より歌
5 月 17 日	親子遠足	園 児 26 名 保護者 36 名	・ 葛西臨海水族園
6 月 8 日	保育参観	園児 41 名 保護者 59 名	・ 普段の保育の様子を参観頂く ・ 保育園の給食の試食
7 月 5 日	七夕まつり	園 児 40 名	・ 歌 ・ 職員劇 ・ 短冊願い事発表
7 月 20 日	夕涼み会	園児 39 名 保護者 58 名 その他 109 名	・ 夏祭りの雰囲気を感じる ・ 卒園児や地域の方参加
7 月 31 日 ～ 8 月 2 日	妙義山 林間保育	園 児 8 名 卒園児 2 名	・ 年長児お泊り保育 (群馬県妙義山) ・ ポニーとの触れ合い ・ 畑での野菜収穫 ・ キャンプファイヤー ・ 妙義神社参拝
	老人デーサービス 施設交流会	中止	
9 月 28 日	ファミリースポー ツデー	園児 45 名 保護者 74 名 その他 64 名	・ 運動会
10 月 2 日	ポニー触れ合い体験	園児 45 名	・ ポニーにブラッシングやえさ やりをする
10 月 25 日	あおば組遠足	園 児 17 名	・ 芋ほり遠足
10 月 31 日	ハロウィン	園 児 45 名	・ ハロウィン仮装 ・ 歌 ・ 職員劇 3～5 歳児近隣を回り 菓子を貰う
11 月 6 日	焼き芋作り	園 児 45 名	・ 芋洗いからの焼き芋準備 ・ おやつで食べる
11 月 15 日	七五三参拝	園 児 43 名	・ 千束八幡神社にて参拝

12月14日	もちつき大会・作品展	園児 43名 保護者 62名 その他 34名	・ 作品鑑賞 ・ もちつき
12月25日	クリスマス会	園児 45名	・ パネルシアター ・ キャンドルサービス ・ 歌 ・ 年長児ハンドベル演奏 ・ 職員劇 ・ サンタクロース登場 ・ プレゼント
1月18日	観劇会	園児 45名 保護者 15名 その他 3名	・ 劇団による観劇
2月3日	節分・豆まき	園児 45名	・ 歌、手遊び ・ 職員劇 ・ 鬼登場・豆まき
3月1日	発表会	園児 45名 保護者 75名	・ おゆうぎ
3月14日	お別れピクニック	園児 17名	・ 4. 5歳児遠足
3月22日	卒園式	園児 18名 保護者 18名 その他 1名	・ 卒園式 ・ 在園児代表 4歳児出席

⑥ 保護者懇談会実施実績

子ども達の成長や発達について読み合わせ、行事等の説明を行った。

月 日	懇談会名	参加人数	内 容
4月17日	みつば組	保護者 8名 職員 4名	・ 園の決まり、与薬について ・ 入園のしおり
4月19日	わかば組	保護者 7名 職員 3名	・ 年間行事予定について ・ 親子遠足について
4月24日	ふたば組	保護者 7名 職員 4名	・ 連絡事項・質疑応答
4月26日	あおば組	保護者 12名 職員 4名	

7月6日	年長児 林間保育	保護者 9 名 園 児 9 名 職 員 3 名	・ 林間保育について説明 ・ 「林間保育のしおり」読み合わせ ・ 緊急連絡簿について ・ 持参する薬について ・ 質疑応答
10月8日	あおば組 5歳児	保護者 9 名 職 員 4 名	・ クラスの様子 ・ 子どもの姿 ・ 楽しみなことクイズ ・ 就学について ・ 質疑応答
10月15日	あおば組 4歳児	保護者 8 名 職 員 4 名	・ クラスの様子 ・ 子どもの姿 ・ 4歳児発達について ・ 質疑応答
10月17日	わかば組	保護者 8 名 職 員 4 名	・ クラスの様子 ・ 子どもの姿 ・ 食事マナーについて ・ 質疑応答
10月22日	みつば組	保護者 8 名 職 員 3 名	・ クラスの様子 ・ だだこね・甘えと甘やかしについて ・ 質疑応答
10月29日	ふたば組	保護者 11 名 職 員 4 名	・ 自己紹介 ・ 子どもの姿 ・ 自己主張について ・ 質疑応答
1月10日	年長児 卒園	保護者 8 名 職員 4 名	・ 防犯対策、交通ルールについて ・ 就学前に準備しておいた方が良い事 ・ 保育所児童保育要録について
2月19日	みつば組	保護者 8 名 職員 4 名	・ 1年を振り返って ・ 進級について ・ 発表会について
2月26日	ふたば組	保護者 10 名 職員 4 名	・ 1年を振り返って ・ 進級について
3月5日	あおば組	保護者 13 名 職員 4 名	・ 1年を振り返って ・ お別れピクニックについて ・ 進級について

			・卒園式について
3月6日	わかば組	保護者 8名 職員 3名	・1年を振り返って ・進級について

7.安全管理関係

月一回の災害・消火訓練を行った。その他にも引渡し訓練や紙芝居、毎回子どもたちに「おかしもち」の確認を行い、防災意識を高め、習慣化する。

①災害訓練実施実績

	4 ／ 18	5 ／ 9	6 ／ 14	7 ／ 13	8 ／ 7	9 ／ 30	10 ／ 10	11 ／ 29	12 ／ 14	1 ／ 9	2 ／ 13	3 ／ 13	合 計
訓練 種別	地震・ 初期消火	火災・ 初期消火	火災・ 初期消火	火災・ 地震・ 初期消火	地震・ 初期消火	地震・ 初期消火	火災・ 初期消火	地震・ 初期消火	火災・ 地震・ 初期消火	地震・ 初期消火	地震・ 初期消火	火災・ 初期消火	
園児	32	40	3	44	25	39	40	35	18	34	31	35	376
職員	11	14	4	13	12	16	11	12	6	10	9	12	130
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	43	54	7	57	37	55	51	47	24	44	40	47	506

②その他の訓練等実施実績

緊急連絡テストメールを行う。園庭へ避難し、保護者への引渡し訓練を行った。

※災害記録簿、自衛消防計画、任務と編成参照

日付	内 容	時 間	参加者数
9月30日	保護者引渡し訓練	16:00～16:30	園児39名

③設備等点検実施実績

日付	点検事項	実施者
8月24日	消防設備点検	大渡防災設備

2月25日	消防設備点検	大渡防災設備
-------	--------	--------

8. 自主事業関係

① パートナー保育登録事業実績

昨年と比べ登録者数はあまり変わらず、継続して頂けた。育児講座の参加や参加者同士のコミュニティーの場となってきた。

登録者数 6 世帯

② 緊急一時保育実施実績（出産等での利用）

利用者なし

③ 年末保育実施実績

日 付	ふたば	みつば	わかば	あおば	園児外	合計
12月29日	0名	0名	0名	0名	0名	0名
12月30日	0名	0名	0名	0名	2名	2名

④ 育児講座実施実績

新規登録者も増えたが、リピーターの方が多く参加頂けた。参加者同士で親交を深める姿があり、地域に貢献できている。

日 付	内 容	参加人数
11月1日	講演 「乳幼児期の口腔ケアについて～正しい歯の磨き方や子どもの矯正～」 清田 俊一氏	保護者 18名 園児 18名

9. 実習生・ボランティア・小中学生受入関係

① 実習生受入実績

期 間	日 数	人 数
7月4日	1日	1名
7月9日	1日	1名
9月5日～9月19日	11日	1名
2月3日～2月17日	11日	1名

10.中長期計画、施設設備整備関係

- ① 園内階段、2 階フロアマット入替
- ② 冷凍庫の交換

11.苦情解決・対応について

利用者とその保護者からの苦情等を解決するための体制を整備することにより、利用者の権利を擁護するとともに、利用者の満足感の向上を図り、利用者が本園の保育サービスを適切に利用できるよう支援します。

また、苦情等を密室化せず、社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑かつ円満な解決の促進や、本園事業への信頼性の確保、適正性の確保に努めます。

苦情解決・対応について 4 月の懇談会時に資料（入園のしおり）配布し説明する。また、玄関先に投書箱の設置やホームページ内に掲示板を設置し、広く受付を実施している。

（対象とする苦情等の範囲）

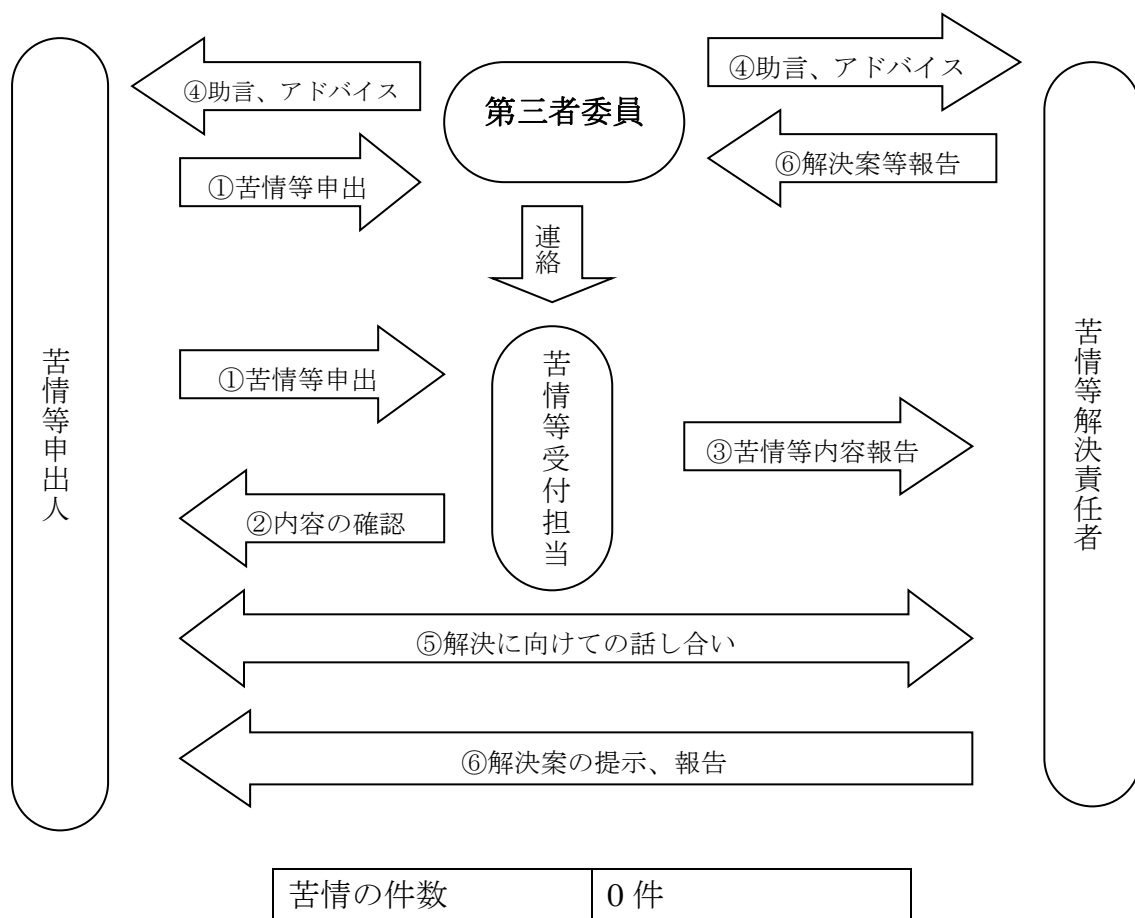
- ・ 保育サービスの内容等に関する事項

（苦情等の申出人の範囲）

- ・ 現在利用している利用者、利用者の保護者とその代理人

（苦情等を解決するための体制）

- ・ 苦情等解決責任者 園 長
- ・ 苦情等受付担当者 主任保育士
副主任保育士
- ・ 第三者委員 2 名



12.危機管理、ヒヤリハットについて

各クラスで月 1 回集計。職員会議や各部会議でのまとめ、振り返る。

※ヒヤリハット集計表参照